



2019年度
創価大学教職大学院講義要項
教職研究科 教職専攻

目次

共通科目

教育課程の編成及び実施に関する領域……………(3)

学習指導要領と教科カリキュラムのデザイン
カリキュラムマネジメントと校内研修の推進
個の学びの支援と学習デザイン

教科等の実践的な指導法に関する領域……………(10)

教科等の指導開発研究AⅠ(国語、社会)
教科等の指導開発研究AⅡ(国語、社会)
教科等の指導開発研究BⅠ(算数、理科)
教科等の指導開発研究BⅡ(算数、理科)
教科等の指導開発研究C(体育)
教科等の指導開発研究E(外国語活動)
教科等の指導開発研究F(道徳)
総合学習と社会参加学習論

生徒指導及び教育相談に関する領域……………(45)

学校カウンセリングの現状と課題
特別支援教育の現状と課題
生徒指導・いじめ予防の理論と実践

学級経営及び学校経営に関する領域……………(53)

教育行政・学校経営の現状と課題
特別活動の現状と課題
学級経営と子ども同士の関係づくり
児童生徒理解・保護者理解

学校教育と教員の在り方に関する領域……………(64)

世界市民教育を推進する学校と教員の役割
人間的成長に関する理論と実践
教員研修実務研究
教員の服務等と教育法規

分野別科目

教育実践総合研究……………(73)

教育実践研究方法Ⅰ
教育実践研究方法Ⅱ
学習指導の方法研究Ⅰ
学習指導の方法研究Ⅱ
学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅰ
学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅱ
学習活動の組織化とその評価
授業力育成のための理論と方法
ICTを活用した教育活動

人間教育総合研究……………(100)

人間教育事例分析研究
人間教育事例分析課題研究
人間教育実践分析研究
人間教育実践分析課題研究

教育開発総合研究……………(119)

教職課題研究Ⅰ
教職課題研究Ⅱ

教育課題実施総合研究……………(144)

教育課題実地研究(国内)奈良
教育課題実地研究(国内)富山
教育課題実地研究(国外)アジア・シンガポール
教育課題実地研究(国外)中国

教育課程の編成及び実施に関する領域

■科目名 **学習指導要領と教科カリキュラムのデザイン**

■教員名 **鈴木 詞雄**

■授業概要

本授業科目は、各学校における教育内容の国家的基準である学習指導要領の意義と基本的性格を的確に理解できるように展開する。また、各教科の学習指導要領の現行までの変遷を概観し、現在どのような教科カリキュラムが求められているのかを、各受講者の問題関心や実務経験に即してデザインする。

さらに、平成 20 年版学習指導要領より児童生徒が身につけるべき学力として重要度が増している「思考力・判断力・表現力」、また中教審答申(平成 24 年 8 月 28 日)において言及され、高等教育における普及・定着から今後、初等・中等教育への更なる応用・展開が見込まれる教授・学習法としてのアクティブ・ラーニングについて、それらの育成と活用を教科カリキュラムの上に具体的にデザインする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	本授業科目の意図と内容構成 <ul style="list-style-type: none"> 平成 20 年版小学校学習指導要領と平成 10 年版小学校学習指導要領の比較 平成 20 年版中学校学習指導要領と平成 10 年版中学校学習指導要領の比較 平成 26 年 12 月 22 日付けの中教審答申から見えてくること 教科の変遷を概観し「カリキュラムのデザイン」を究明しようとする教科の確定 【準備学習】 平成 20 年版・10 年版学習指導要領を学習しておくこと。
第2回	<講義>アクティブ・ラーニングを取り入れた教科カリキュラムのデザイン:単元・学期・年間を見通したカリキュラムのデザイン 【準備学習】 指定された文献の精読と課題の達成
第3回	<講義>アクティブ・ラーニングの理論と実践(1):「教育学」から見たアクティブ・ラーニング(アクティブ・ラーニングとは何か、何のためのアクティブ・ラーニングか、ディープ・アクティブ・ラーニングの考え方) 【準備学習】 指定された文献の精読と課題の達成
第4回	<講義・演習>アクティブ・ラーニングの理論と実践(2):「教育方法学」から見たアクティブ・ラーニング(アクティブ・ラーニングの多様な学習形態:協同学習、PBL 等) 【準備学習】 指定された文献の精読と課題の達成
第5回	<講義・演習>アクティブ・ラーニングの理論と実践(3):「教育工学」から見たアクティブ・ラーニング(学習意欲のデザイン:ARCS モデル) 【準備学習】 指定された文献の精読と課題の達成
第6回	<講義・演習>アクティブ・ラーニングの理論と実践(4):「学習課題」から見たアクティブ・ラーニング(アクティブ・ラーニング型授業における学習課題の設定) 【準備学習】 指定された文献の精読と課題の達成
第7回	<講義・演習>アクティブ・ラーニングの理論と実践(5):「人間教育」から見たアクティブ・ラーニング(教師の振る舞い、魅力のある授業とは) 【準備学習】 指定された文献の精読と課題の達成
第8回	<発表・討議>アクティブ・ラーニングを取り入れた各教科のデザイン(1):国語科、社会科(形態:小中別→全体) 【準備学習】 個人あるいはグループとしての発表に備える。
第9回	<発表・討議>アクティブ・ラーニングを取り入れた各教科のデザイン(2):算数科、数学科、理科(形態:小中別→全体)

	【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。
第10回	＜発表・討議＞アクティブ・ラーニングを取り入れた各教科のデザイン(3):音楽科、図画工作科、美術科(形態:小中別→全体) 【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。
第11回	＜発表・討議＞アクティブ・ラーニングを取り入れた各教科のデザイン(4):家庭科、技術・家庭科、体育科・保健体育科(形態:小中別→全体) 【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。
第12回	＜発表・討議＞アクティブ・ラーニングを取り入れた各教科のデザイン(5):外国語活動、英語科(形態:小中別→全体) 【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。
第13回	＜発表・討議＞アクティブ・ラーニングを取り入れた各教科のデザイン(6):生活科・総合的な学習(形態:小中別→全体) 【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。
第14回	＜発表・討議＞アクティブ・ラーニングを取り入れた各教科のデザイン(7):道徳(形態:小中別→全体) 【準備学習】個人あるいはグループとしての発表に備える。
第15回	本授業科目のまとめ

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

指導的な立場にある管理職候補者は、国の方針や都道府県等教育委員の方針を踏まえつつ、各学校等の現状や児童生徒の現況に鑑みて、どのような教科カリキュラムであるのが適切なのかを、現行の学習指導要領やアクティブ・ラーニングの考え方を基に思考し判断することができる。

(現職教員)

アクティブ・ラーニングの理論と応用を理解した上で、「思考力・判断力・表現力」は、どのような教科カリキュラムをデザインすることで育まれるのか究明することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

アクティブ・ラーニングの基本的な考え方を理解するとともに、各教科の特性を把握した上で、児童生徒のどのような力をどのようにすれば育むことができるのかを、教科カリキュラムをデザインすることで探求することができる。

■評価方法

15回の全授業での演習等での参画状況。

個人またはグループでのプレゼンテーションや最終レポートの充実度。

■使用教材

長崎伸仁[監](2016)『アクティブラーニングでつくる国語の授業』(東洋館出版)

志水廣(2016)『算数授業のアクティブ・ラーニング』(明治図書)

稲垣忠・鈴木克明(2015)『授業設計マニュアル Ver.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』(北大路書房)

平成20年版「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領(解説編)」「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領(解説編)」

平成26年12月22日付け「中教審答申(抜粋)」

他、適宜プリントを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **カリキュラムマネジメントと校内研修の推進****■教員名** **渡辺 秀貴 ・ 三津村 正和****■授業概要**

本授業は、アクティブラーニングとともに次期学習指導要領改訂の要となるカリキュラムマネジメントの考え方について、理論と実際の両側面から探究することを目的とする。学校における課題の解決と教育目標を達成していく営みとしてのカリキュラムマネジメントは、管理職者にのみ求められるものではなく、一人ひとりの教員にその理解と実践が期待される。カリキュラムマネジメントは、カリキュラムを中心に学校全体(また学級や学年)の構造化を図るなかで、教育の目標をより効果的に達成することを志向する。また、その円滑な履行には、教員間の協働性・同僚性が欠かせず、それを涵養するための校内研修の充実も付随して求められる。シラバス内容に変更、更新等ある際は、第1回目の授業にて説明する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション、学校の置かれた状況 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第2回	教育政策の動向とカリキュラムマネジメントの必要性 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第3回	カリキュラムマネジメントの理論と実際 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第4回	カリキュラムマネジメントによる学校改善(小中グループ別活動) 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第5回	PDCA サイクルのカリキュラムマネジメント 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第6回	カリキュラムマネジメントと個々の教員の役割 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第7回	特別活動、総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメント(小中別) 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第8回	アクティブラーニングとカリキュラムマネジメント 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第9回	校内研修の基本的な考え方(小中別) 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第10回	効果的な校内研修の推進および取り組み事例 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第11回	ワークショップ型校内研修の設計(小中別) 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第12回	ワークショップ型校内研修の開発(小中別) 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第13回	最終プレゼンテーション① (発表者: ストマス小学校グループ、現職小学校グループ) 【準備学習】プレゼンテーションに備える。

第14回	最終プレゼンテーション② (発表者: ストマス中学校グループ、現職中学校グループ) 【準備学習】プレゼンテーションに備える。
第15回	まとめと振り返り 【準備学習】振り返りに備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

カリキュラムマネジメントの理論と実際を体系的に学び、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題の把握とそれに対応する力を身につける。

(現職教員)

カリキュラムマネジメントの理論と実際を体系的に学び、学級経営、授業、校内研修等の改善を図る協働的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

カリキュラムマネジメントの理論と実際を体系的に学び、学級経営、授業などの改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

全授業への参加態度、毎度の授業に課される文献の精読及び課題の達成、最終プレゼンテーション等により、総合的に評価する。

■使用教材

①田村知子(2014)『カリキュラムマネジメントー学力向上のアクションプランー』(日本標準)、②中留武昭・曾我悦子(2015)『カリキュラムマネジメントの新たな挑戦:総合的な学習における関連性と協働性に焦点をあてて』(教育開発研究所)、③石井英真『今求められる学力と学びとはーコンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影ー』(日本標準) ※他、適宜資料を配布する。

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 個の学びの支援と学習デザイン**■教員名** 吉川 成司・小田 勝己**■授業概要**

「個に応じた指導のとらえかたやその指導法」が導入された経緯を理解し、「個に応じた指導」を実現するためには、「個」の捉え方が基底として重要であることに理解を深め、それを実践に生かすことができる資質を養うことが目的である。

そこで、小学校ならびに中学校に共通する点と、それぞれに特徴的な点を理解し、具体的な指導や支援、学習デザインの考え方と進め方について、事例研究等を通じて検討していきたい。具体的には、ポートフォリオなどの手法に基づく「学びと評価の一体化」、描写レビューなどの手法を用いた校内研修の考え方と進め方について取り上げる。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 「個に応じた指導」の背景などについて 【準備学習】 シラバス
第2回	小学校における「個に応じた指導」の考え方と進め方 【準備学習】事前に配付した資料
第3回	第3回:中学校における「個に応じた指導」の考え方と進め方 【準備学習】事前に配付した資料
第4回	「個に応じた指導」と「学びと評価の一体化」、「個に応じた指導」と「カリキュラム・マネジメント」(小学校と中学校の特徴をふまえて) 【準備学習】事前に配付した資料
第5回	「個に応じた指導」と「校内研修」(小学校と中学校の特徴をふまえて) 【準備学習】事前に配付した資料
第6回	ポートフォリオによる学びと評価の一体化①(小学校を焦点にした事例研究) 【準備学習】事前に配付した資料
第7回	ポートフォリオによる学びと評価の一体化②(小学校を焦点にした演習) 【準備学習】事前に配付した資料
第8回	ポートフォリオによる学びと評価の一体化③(中学校を焦点にした事例研究) 【準備学習】事前に配付した資料
第9回	ポートフォリオによる学びと評価の一体化④(中学校を焦点にした演習) 【準備学習】事前に配付した資料
第10回	子どもの全体像を描く描写レビューに基づく校内研修①(小学校を焦点にした事例研究) 【準備学習】事前に配付した資料
第11回	子どもの全体像を描く描写レビューに基づく校内研修②(小学校を焦点にした演習) 【準備学習】事前に配付した資料
第12回	子どもの全体像を描く描写レビューに基づく校内研修③(中学校を焦点にした事例研究) 【準備学習】事前に配付した資料

第13回	子どもの全体像を描く描写レビューに基づく校内研修④(中学校を焦点にした演習) 【準備学習】事前に配付した資料
第14回	まとめ:小学校における個の学びの支援と学習デザイン 【準備学習】授業全体を復習しておくこと
第15回	まとめ:中学校における個の学びの支援と学習デザイン 【準備学習】授業全体を復習しておくこと

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)

指導法の違いによる影響や効果をふまえた上で、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方について体系的に理解するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方について個々の教員や学校単位での授業の計画と実践の場面において指導助言をすることができる。

(現職教員)

指導法の違いによる影響や効果をふまえたうえで、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方を理解するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方と課題の解決に向けた実施案を提案する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

指導法の違いによる影響や効果を踏まえたうえで、「個に応じた指導」とそのための学習環境のあり方を理解し、計画・実施に必要な準備や条件等を整理するとともに、児童理解の基底である「個」の捉え方とに基づいて授業を計画する。

■評価方法

授業時のプレゼンテーション、最後にまとめとして提出するレポートを資料として総合的に判断する。

■使用教材

『ポートフォリオで学力形成—子どもの成長を促す』小田勝己著(学事出版)
『描写レビューで教師の力量を形成する』M・ヒムレイ編(ミネルヴァ書房)
『個別化していく教育』OECD 教育研究革新センター(CERI) 編著(明石書店)
『子どもの学びと自己形成—子どもの危機を救うこれからの評価観』富山市立堀川小学校(明治図書)

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

教科等の実践的な指導法に関する領域

■科目名 教科等の指導開発研究 A I (国語)

■教員名 石丸 憲一

■授業概要

読むことに関する資質・能力の育成を、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業でどのように具体化するのか—理論と実践の往還の観点から構想する—

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○目標と進め方を知る。読むことの指導の課題を捉える。 【準備学習】教科書として使用する『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』を読む。
第2回	○読むことの授業にアクティブ・ラーニングを取り入れることの意義、取り入れ方について考える。 ●『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』の考察の分担(個人またはグループ)の決定。 【準備学習】教科書として使用する『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』を読む。本授業の振り返り。
第3回	○文学教材の指導法について考える。① 【準備学習】文学作品を読むということはどういうことを考えておく。本授業の振り返り。
第4回	○文学教材の指導法について考える。② 【準備学習】文学作品を読むということはどういうことを考えておく。本授業の振り返り。
第5回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の教材研究と授業実践の考察②(2年「お手紙」)*プレゼン 【準備学習】教科書として使用する『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(「お手紙」)の考察。本授業の振り返り。
第6回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の教材研究と授業実践の考察③(3年「モチモチの木」)*プレゼン 【準備学習】「モチモチの木」の教材研究。『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(モチモチの木)の考察。本授業の振り返り。
第7回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の教材研究と授業実践の考察⑤(5年「注文の多い料理店」)*プレゼン 【準備学習】「注文の多い料理店」の教材研究。『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(注文の多い料理店)の考察。本授業の振り返り。

第8回	○説明文教材の指導について考える。① 【準備学習】本授業の振り返り。
第9回	○説明文教材の指導について考える。② 【準備学習】本授業の振り返り。
第10回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた説明文の教材研究と授業実践の考察②(1年「はたらくじどう車」)*プレゼン 【準備学習】教科書として使用する『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(「はたらくじどう車」)の考察。本授業の振り返り。
第11回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた説明文の教材研究と授業実践の考察②(4年「ウミガメの命をつなぐ」)*プレゼン 【準備学習】教科書として使用する『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(「ウミガメの命をつなぐ」)の考察。本授業の振り返り。
第12回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた説明文の教材研究と授業実践の考察②(6年『鳥獣戯画』を読む)*プレゼン 【準備学習】教科書として使用する『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』(『鳥獣戯画』を読む)の考察。本授業の振り返り。
第13回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた文学の授業提案④(教材は院生が選択) *模擬授業 【準備学習】の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第14回	○アクティブ・ラーニングを取り入れた説明文の授業提案⑤(教材は院生が選択) *模擬授業 【準備学習】説明文の授業の教材研究、授業構想案の作成。本授業の振り返り。
第15回	○まとめと振り返り 【準備学習】本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

従来の読むことの指導法とこれからの指導法(アクティブ・ラーニングをどう取り込むか)との違いを、「理論的」に明確にすることができる。

(現職教員)

従来の読むことの指導法とこれからの指導法との違いを明確にし、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践を自らが積極的に展開することができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

国語科教育の意義と今後の方向性を自分なりにつかみ、それを基に教材研究に向かい、アクティ

ブ・ラーニングを取り入れた読むことの授業の構想を立てることができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言や振り返り)やプレゼン内容、そして、まとめのレポート等を総合して評価する。

■使用教材

*教科書 石丸他『子どもに深い学びを！ アクティブ・ラーニングを取り入れた国語の授業』
(東洋館出版)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 A I (社会)**■教員名** 宮崎 猛・吉田 和義**■授業概要**

社会科の誕生の背景や本質を踏まえ、小中高の社会科・社会科系教育を見通した上で、社会科の評価について理解を深めるとともに、履修者の関心・関係のある校種、学年における社会科授業の教材開発を行い、各自が独自に1つの単元に焦点を当て、授業案の作成を試みる。

特に本授業の特徴はフィールドワークを通して自らが学修しながら、指導の方法を身に付けていくことである。授業日以外の休日に臨検(これまでに銀座・築地方面、横浜、新宿に出向いた)を行ったり、東京地方裁判所に赴き、実際の裁判を傍聴したりするなどである。

なお、参加者の関心や研究内容、本授業での検討内容によっては、ゲストティーチャーを招くこともある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	社会科誕生の背景と歴史 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	初期社会科の実践とその本質 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	臨検準備学習 1 (地図の見方、読み方等) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	臨検準備学習 2 (地図の見方、読み方等) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	臨検準備学習 3 (地図の見方、読み方等) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

	ついて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	フィールドワーク臨検 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	フィールドワーク臨検の振り返り 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	社会科教育の現代的課題—法教育 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	裁判傍聴の事前準備 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	フィールドワーク裁判傍聴 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	フィールドワーク裁判傍聴 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補者)</p> <p>社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに学校現場における社会科教育の授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を育成する。</p> <p>(現職教員)</p> <p>社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびにその展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>社会科の本質ならびに現行学習指導要領の特質、社会科の評価の在り方を理解し、研究的なアプローチに基づいて自ら教材を開発し、展開することができる力量を育成する。</p>

■評価方法

- | | | | | | |
|-------|--------------|--|---------|---------|--------------|
| ○評価方法 | 出席：30点（2×15） | レポート・振り返り：30点、授業への参加意欲：20点、最終報告書・指導案 20点 | | | |
| ○評価基準 | S：90点以上 | A：80点以上 | B：70点以上 | c：60点以上 | D（不合格）：59点以下 |

■使用教材

- | |
|--|
| 宮崎猛（編著）『社会科教育の創造 ー基礎・理論・実践ー』教育出版（2009年） |
| 竹内裕一・加賀美雅弘（編著）『身近な地域を調べる 増補版』古今書院（2009年） |

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 A II (国語)

■教員名 石丸 憲一

■授業概要

話すこと・聞くこと、書くことにおける資質・能力の育成を、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業でどのように具体化するのか—理論と実践の往還の観点から構想する—

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○目標と進め方を知る。話すこと・聞くこと、書くことの指導の課題を捉える。 【準備学習】これまでに行った話すこと・聞くこと、書くことの指導を振り返っておく。
第2回	○話すこと・聞くことの指導について考える。学習指導要領についての考察、過去の実践の振り返り ●プレゼンの分担 【準備学習】学習指導要領の読むことの部分を読む。本授業の振り返り。
第3回	○話すこと・聞くことの指導を考える① 【準備学習】配布資料を読む。本授業の振り返り。
第4回	○話すこと・聞くことの指導を考える② 【準備学習】配布資料を読む。本授業の振り返り。
第5回	○低学年のスピーチ指導はどうあったらよいか。*プレゼン 【準備学習】低学年のスピーチ指導について考える。本授業の振り返り。
第6回	○高学年のスピーチ指導はどうあったらよいか。*プレゼン 【準備学習】高学年のスピーチ指導について考える。本授業の振り返り。
第7回	○低学年の話し合い活動の指導はどうあったらよいか。*プレゼン 【準備学習】低学年の話し合い活動の指導について考える。本授業の振り返り。
第8回	○高学年の話し合い活動の指導はどうあったらよいか。*プレゼン 【準備学習】高学年の話し合い活動の指導について考える。本授業の振り返り。
第9回	○書くことの指導を考える① 【準備学習】配布資料を読む。本授業の振り返り。
第10回	○書くことの指導を考える② 【準備学習】配布資料を読む。本授業の振り返り。
第11回	○低学年の生活文、創作文の指導はどうあったらよいか。*プレゼン 【準備学習】低学年の生活文、創作文指導について考える。本授業の振り返り。
第12回	○高学年の生活文、創作文の指導はどうあったらよいか。*プレゼン 【準備学習】高学年の生活文、創作文の指導について考える。本授業の振り返り。
第13回	○低学年の論理的文章の指導はどうあったらよいか。*プレゼン 【準備学習】低学年の論理的文章の指導について考える。本授業の振り返り。

第14回	○高学年の論理的文章の指導はどうあったらよいか。*プレゼン 【準備学習】高学年の論理的文章の指導について考える。本授業の振り返り。
第15回	○まとめと振り返り 【準備学習】本授業の振り返り。

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>従来の話すこと・聞くこと、書くことの指導法とこれからの指導法(アクティブ・ラーニングをどう取り込むか)との違いを、「理論的」に明確にすることができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>従来の話すこと・聞くこと、書くことの指導法とこれからの指導法との違いを明確にし、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践を自らが積極的に展開することができる。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>国語科教育の意義と今後の方向性を自分なりにつかみ、それを基に教材研究に向かい、アクティブ・ラーニングを取り入れた話すこと・聞くこと、書くことの授業の構想を立てることができる。</p>
--

■評価方法

授業における活動状況(発言や振り返り)やプレゼン内容、そして、まとめのレポート等を総合して評価する。
--

■使用教材

<p>*教科書 『平成 29 年版学習指導要領』(『解説』)</p> <p>その他、必要に応じて配布する。</p>

■オフィスアワー

火曜日昼休み、他の日時は連絡あれば調整します

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究AⅡ（社会科）**■教員名** 宮崎 猛・吉田 和義**■授業概要**

本授業は社会科教育学における地理的分野(吉田)と公民的分野(宮崎)を専門とする二人の教員のチームティーチングによって行われる。

本授業の特徴はフィールドワークを通して、自らが体験しながら、指導方法を身に付けていくところにある。そのために、教科等の指導開発研究AⅠ(社会科)の学修を踏まえ、各自の問題意識をもとに臨検(横浜を予定)ならびに裁判傍聴(東京地方裁判所)を行い、「社会的な見方や考え方」とはどのようなことであるかを実践的に考察する。

本授業(AⅡ)では、前期に行われたAⅠの成果を発展させ、参加者自身が教師の立場に立って企画・運営する要素を取り入れるものとするが、AⅡのみの履修も可能である。

授業の最終段階では、小中高の社会科・社会科系教育を見通した上で、履修者の関心・関係のある校種、学年における社会科授業の授業案の作成あるいは教材開発を行うことになる。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業の履修目的を各自明確にして参加する。
第2回	フィールドワーク(プレ臨検) 準備学習1(地図の見方、読み方等) 地図帳を用いて地図の基本的な見方や読み方を学ぶ。 【準備学習】地図ならびに色鉛筆を準備するとともに、勤務校や実習校周辺の地理等を確認することを通して、地図記号等読図の基礎を確認する。
第3回	フィールドワーク(プレ臨検) 準備学習2(地図の見方、読み方等) 地図帳の様々な活用に仕方を学び、地形の特徴や変化が人々の暮らしにどのような影響を与えているかについて地図から読み取る。 【準備学習】地図帳の活用の方法について、学習指導要領をもとに理解しておく。
第4回	フィールドワーク(プレ臨検、裁判傍聴) 準備学習3 プレ臨検の準備 -プレ臨検(霞ヶ関→銀座周辺)におけるテーマをグループごとに設定し、踏査計画を立てる。 社会科教育の現代的課題—法教育と裁判傍聴の事前準備 -法教育の背景や裁判のしくみや課題について考察する。 【準備学習】法教育が求められるようになった背景、裁判のしくみ、裁判制度の課題等について分担して調査を行う。

第5回 第6回 第7回	<p>裁判傍聴(東京地方裁判所)ならびにフィールドワーク(プレ臨検)</p> <p>【準備学習】裁判傍聴ならびにフィールドワークにおける個人の課題ならびに授業における課題を明確にし、必要な準備を行う。</p>
第8回	<p>フィールドワークの振り返り</p> <p>フィールドワークの振り返りを通して、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的に考察するとはどのようなことであるかを考察するとともに、その方法を検討する。</p> <p>【準備学習】フィールドワークの振り返りをレポートにまとめ参加する。</p>
第9回	<p>フィールドワーク(臨検応用編)準備学習1</p> <p>古地図と現在の地図を比較検討することを通して、地図の見方を身につけるとともに、過去との比較を通し、歴史的側面、公民的側面にも着目しながら、多面的な考察を行う。</p> <p>【準備学習】古地図と現在の地図からその変化の要因について仮説をもって参加する。</p>
第10回	<p>フィールドワーク(臨検応用編)2</p> <p>地形の高低差に着目し、高低差が地形の変化の要因等について理解を深めるとともに、高低差が人々の生活にどのような影響を与えているかについて考察する。</p> <p>【準備学習】等高線の見方について基本的な理解を図り参加する。</p>
第11回	<p>フィールドワーク(臨検応用編)3</p> <p>臨検におけるグループのテーマ、各自のテーマを設定するとともに、それに基づいた踏査目標、計画を立案する。</p> <p>【準備学習】臨検対象地域(横浜を予定)の特徴(歴史的側面や産業・経済的側面等)について十分な下調べをしておく。</p>
第12回 第13回 第14回	<p>フィールドワーク(臨検応用編)</p> <p>【準備学習】フィールドワークにおける個人の課題ならびに授業における課題を明確にし、必要な準備を行う。</p>
第15回	<p>授業案作成ないし教材開発</p> <p>【準備学習】フィールドワークを振り返り、その成果を活用・応用した勤務校や実習校を対象とした授業案を作成(教材開発)を行う。</p>

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補者)</p> <p>社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびに次期学習指導要領の展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに学校現場における社会科教育の授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を育成する。</p>
--

(現職教員)

社会科の本質を理解するとともに、現行学習指導要領の特質ならびに次期学習指導要領の展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

社会科について、学習指導要領の理解ならびに次期学習指導要領における授業づくりの方法、指導目標の特質等について理解を深め、自身の授業実践に活用することができる力量を培う。

■評価方法

○評価方法 振り返り 30% プレゼンテーション・レポート 30% 期末リサーチペーパー 40%

○評価基準 S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

宮崎猛(編著)『社会科教育の創造 — 基礎・理論・実践—』教育出版 2009年

竹内裕一・加賀美雅弘(編著)『身近な地域を調べる 増補版』古今書院 2009年

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教科等の指導開発研究B I (算数)**■教員名** 鈴木 将史・鈴木 詞雄**■授業概要**

今期のテーマは「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」である。平成 28 年の中央教育審議会答申、そして平成 32 年度に完全実施される新学習指導要領において、教科等の指導における大きな方向性として「主体的・対話的で深い学び」が強調されている。「主体的・対話的で深い学び」を包括する「アクティブ・ラーニング」の理論と実践を学びつつ、各学年の各領域における「主体的・対話的で深い学び」とは何かを考える。

この授業では、算数科における「アクティブ・ラーニング」や「主体的・対話的で深い学び」とは何かを解き明かし、教材研究・模擬授業を行っていききたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○オリエンテーション 授業のねらいを概観し、半期の進め方について話し合う。
第2回	○「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の理論 [1] 中央教育審議会答申における「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」を確認し、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられた資料を読む。
第3回	○「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の理論 [2] 新旧の『学習指導要領解説算数編』を比較し、変更点を理解する。 【準備学習】前時に与えられた資料を読む。
第4回	○「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の技術 [1] 「主体的・対話的で深い学び」を支える授業技術のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられた資料を読む。
第5回	○「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の技術 [2] 「主体的・対話的で深い学び」を支える授業技術のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられた資料を読む。
第6回	○「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の授業研究 [1] 先行実践されている授業案のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられた資料を読む。
第7回	○「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の授業研究 [2] 先行実践されている授業案のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられた資料を読む。
第8回	○中間まとめ ここまでの実践について振り返り、後半へ向けての課題を明確にする。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。

<p>第9回</p>	<p>○低学年における「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」 〔1〕 低学年の教科書における「主体的・対話的で深い学び」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
<p>第10回</p>	<p>○低学年における「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」 〔2〕 低学年における「主体的・対話的で深い学び」の授業案を提案し、検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
<p>第11回</p>	<p>○低学年における「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」 〔3〕 低学年における「主体的・対話的で深い学び」の模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
<p>第12回</p>	<p>○高学年における「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」 〔1〕 高学年の教科書における「主体的・対話的で深い学び」を調べ、その目的・意義を理解する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
<p>第13回</p>	<p>○高学年における「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」 〔2〕 高学年における「主体的・対話的で深い学び」の授業案を提案し、検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
<p>第14回</p>	<p>○高学年における「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」 〔3〕 高学年における「主体的・対話的で深い学び」の模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。</p>
<p>第15回</p>	<p>○まとめ 授業全体を振り返り、得られたことや課題をレポートにまとめて提出する。</p>

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補) 「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」を含む算数授業について、中央教育審議会答申や各社の教科書の記述に基づいて評価することができる。 (現職教員) 実際の現場で利用できる「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」に関する新しい授業案を開発することができる。 ◇人間教育プロフェッショナルコース</p>
--

中央教育審議会答申や教科書の内容を深く理解し、児童の理解度を考慮した「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の授業分析、教材開発を行うことができる。

■**評価方法**

授業における積極性、模擬授業におけるプレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどによって総合的に判断する。

■**使用教材**

『学習指導要領解説算数編』、小学校算数の各種教科書に加え、必要に応じて適宜教材を配布する。

■**授業で使用する言語**

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教科等の指導開発研究Ⅰ(理科)

■教員名 大関 健道

■授業概要

<テーマ> 「主体的・対話的で深い学びを実現するための理科カリキュラムの開発」

- (1) 次期学習指導要領が目指すものについて確認をする。特に、理科の見方・考え方をはたらかせた理科学習のあり方について、具体的な実践例を通して理解する。
- (2) 理科学習をデザインするための理論と方法論及びそれを生かした理科学習の具体例について学ぶ。学んだことを活用して子ども主体の理科カリキュラムの開発を行う。
- ※なお、参加者の関心や研究内容、本授業での検討内容によっては、ゲストティーチャーを招聘することもある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション ①授業の目標を理解する。 ②半期の進め方についての話し合い及び第3回～第11回のプレゼン担当を決める。 ③自分の理想とする理科学習・授業とは？(ブレスト・KJ法によるワークショップ) 【準備学習】:なし
第2回	次期学習指導要領の理解(学習指導要領が目指すもの)についてのディスカッション ①コンピテンシー・ベースの授業 ②主体的・対話的で深い学び ③教科の見方・考え方をはたらかせて資質・能力を育てる 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読
第3回	理科の見方・考え方をはたらかせた理科学習(1) 量的・関係的な視点(エネルギー)、質的・実体的な視点(粒子) 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読
第4回	理科の見方・考え方をはたらかせた理科学習(2) 多様性と共通性の視点(生命)、時間的・空間的な視点(地球) 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読
第5回	学習をデザインするための理論と方法論を生かした理科授業(1) 構成主義、自由試行と問題解決 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読
第6回	学習をデザインするための理論と方法論を生かした理科授業(2) 発達の最近接領域、生活概念と科学概念、 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読

第7回	<p>学習をデザインするための理論と方法論を生かした理科授業(3)</p> <p>自律的動機付け、メタ認知</p> <p>【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
第8回	<p>学習をデザインするための理論と方法論を生かした理科授業(4)</p> <p>自己調整学習、談話分析</p> <p>【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
第9回	<p>学習をデザインするための理論と方法論を生かした理科授業(5)</p> <p>足場づくりと足場はずし、形成的アセスメント</p> <p>【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
第10回	<p>学習をデザインするための理論と方法論を生かした理科授業(6)</p> <p>逆向き設計</p> <p>【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
第11回	<p>学習をデザインするための理論と方法論を生かした理科授業(7)</p> <p>パフォーマンス課題、パフォーマンス評価、ルーブリック</p> <p>【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
第12回	<p>理科授業案(単元の学習指導計画・本時の学習指導案)の作成(1)</p> <p>【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
第13回	<p>理科授業案(単元の学習指導計画・本時の学習指導案)の作成(2)</p> <p>第11回までに学んできたことを基にして、子どもの主体的・対話で深い学びを実現するための理科授業案を作成する(単元構想づくり②、本時の学習指導案づくり①)。</p> <p>【準備学習】:前時に指示・アドバイスしたことを基にして授業案の構想・作成</p>
第14回	<p>理科授業案(単元の学習指導計画・本時の学習指導案)の作成(3)</p> <p>第11回までに学んできたことを基にして、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するための理科授業案を作成する(本時の学習指導案づくり②)。</p> <p>【準備学習】前時に指示・アドバイスしたことを基にして授業案の構想・作成</p>
第15回	<p>理科授業案(単元の学習指導計画・本時の学習指導案)のプレゼンテーションと参加メンバーからのフィードバック、ディスカッション</p> <p>【準備学習】:発表資料の作成</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

理科学習をデザインするための理論と方法論及びそれを生かした理科学習の具体的な実践について事例研究を通して学び、この学びを基にして、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するための理科授業案を作成することができる。さらに、教育現場における研究的実践者あるいは教育行政における研究指導者としての技能と力量を身につける。

(現職教員)

理科学習をデザインするための理論と方法論及びそれを生かした理科学習の具体的な実践について事例研究を通して学び、この学びを基にして、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するための理科授業案を作成することができる。さらに、教育現場における研究的実践者としての技能と力量を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

理科学習をデザインするための理論と方法論及びそれを生かした理科学習の具体的な実践について事例研究を通して学び、この学びを基にして、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するための理科授業案を作成することができる。さらに、将来教育現場における研究的実践者となり得る基礎的資質を身につける。

■評価方法

○評価方法 授業ごとのふりかえり (30% : 2点×15=30), プレゼンテーション・レポート (30%), 理科授業案 (20%), 最終報告書 (20%)

※授業への出席状況のほか、討論への積極的参加、プレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどによって総合的に判断する。

○評価基準 S : 90点以上, A : 80点以上, B : 70点以上, C : 60点以上, D : 60点未満

■使用教材

*森本信也 (編) (2017) 『理科授業をデザインする理論とその展開—自律的に学ぶ子どもを育てる—』, 東洋館出版 (定価 : 2,800 円+税)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究BⅡ(算数)

■教員名 鈴木将史・鈴木詞雄

■授業概要

今期のテーマは「割合の指導について」である。「割合」は「分数の割り算」と並んで、ここ数年最も多く取り上げられた「難所」のひとつである。この「割合」について、各教科書はどのように扱っているのか調べ、「何が難しいのか」を明らかにし、そして「どのように指導すればよいのか」について多くのアイデアを出し合っていきたい。

さらに模擬授業を通してアイデアを磨き、現場での指導にも大いに役立つ教材研究としていきたい。教材研究を進めるうちに、「割合」の概念が実は小学校算数のかなり早い段階から現れていること、そして似たような考えが繰り返し現れ、「小数や分数の掛け算割り算」も、同じ考えで指導されることが明らかになってくるであろう。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	○オリエンテーション 授業のねらいを概観し、半期の進め方について話し合う。
第2回	○「割合」に関する教科書の扱い〔1〕 各教科書における扱いを調べ、その相違について整理する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第3回	○「割合」に関する教科書の扱い〔2〕 前回到引き続き、各教科書における扱いを調べ、整理する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第4回	○「割合」指導の困難分析 教科書の内容のどの部分が困難を生じるのか分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第5回	○「割合」の授業研究〔1〕 世に紹介されている指導法のねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第6回	○「割合」の授業研究〔2〕 前回到引き続き、他の指導法を研究し、ねらいと効果を議論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第7回	○「割合」の理論研究 「割合」の単元と他の単元との関係性を知り、指導のポイントを検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第8回	○中間まとめ ここまでの実践について振り返り、後半へ向けての課題を明確にする。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。

第9回	○困難解消への工夫〔1〕 前半で明らかになった各困難項目を克服する新しい指導法を検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第10回	○困難解消への工夫〔2〕 前回に引き続き、新しい指導法を検討する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第11回	○「割合」についての模擬授業〔1〕 「割合」についてねらいを明確にした模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第12回	○「割合」についての模擬授業〔2〕 「割合」についてねらいを明確にした模擬授業を行い、討論する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第13回	○「割合」から見る「比と比例」 「割合」に関連する単元として、「比と比例」を分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第14回	○「割合」から見る「分数の乗除」 「割合」に関連する単元として、「分数の乗除」を分析する。 【準備学習】前時に与えられたテーマについて、発表の準備をする。
第15回	○まとめ 授業全体を振り返り、得られたことや課題をレポートにまとめて提出する。

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>「割合」の単元に関する算数授業について、学習指導要領や各社の教科書の記述に基づいて評価することができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>実際の教室の現場でも利用できる、「割合」の単元に関する新しい授業案を、教科書の記述を生かしながら開発することができる。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>学習指導要領や教科書の内容を深く理解し、児童の理解度も考慮した「割合」の授業分析、教材開発が行えるようになる。</p>
--

■評価方法

授業における積極性、模擬授業におけるプレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどによって総合的に判断する。
--

■使用教材

『学習指導要領解説算数編』、小学校算数の各種教科書に加え、必要に応じて適宜教材を配

布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 B II (理科)

■教員名 大関 健道

■授業概要

<テーマ> 「子どもたちの問いと地域の教育資源を生かした理科学習」

- (1) 子どもたち一人一人の問いを生かした探究的な理科学習（理科における個に応じた学習）のあり方について、具体的な実践例を通して理解する（事例研究）。
- (2) 科学館や博物館、自然環境など地域の様々な教育資源や人材を生かした理科学習の実際を知る（事例研究）とともに、それを推進するための国や自治体の教育施策（学校支援地域本部事業、地域教育プラットフォーム事業など）及び教育資源・人材と学校の理科学習とを結びつける役割を担う「教育コーディネーター」の具体的な活動について理解する。
- (3) 子どもたちの問いを生かした探究的な理科学習及び地域の教育資源・人材を生かした理科学習のカリキュラム開発を行う。

※なお、参加者の関心や研究内容、本授業での検討内容によっては、ゲストティーチャーを招聘することもある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>コースオリエンテーション</p> <p>①授業の目標を理解する。</p> <p>②半期の進め方についての話し合い及び第3回～第11回のプレゼン担当を決める。</p> <p>③問いを生かした探究的な理科学習(個に応じた理科学習)とは?(プレスト・KJ法によるワークショップ)</p> <p>【準備学習】:なし</p>
第2回	<p>子どもたち一人一人の問いを生かした理科学習の実際(1)</p> <p>単元末の課題選択学習・課題設定学習</p> <p>【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
第3回	<p>子どもたち一人一人の問いを生かした理科学習の実際(2)</p> <p>仮説実験授業、理科の自由研究</p> <p>【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
第4回	<p>子どもたち一人一人の問いを生かした理科学習の実際(3)</p> <p>総合的な学習の時間、選択理科(中学校)</p> <p>【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
第5回	<p>子どもたち一人一人の問いを生かした理科学習の実際(4)</p> <p>課題研究(中学校、スーパーサイエンス・ハイスクール:SSHなど)</p> <p>【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>

<p>第6回</p>	<p>地域の教育資源を生かした理科学習の実際(1) 自治体による理科の教材開発とカリキュラム開発 ①野田市理科副教本『わくわく理科』、『わくわくサイエンス』 ②犬山市理科副教本『理科だいすき』 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
<p>第7回</p>	<p>地域の教育資源を生かした理科学習の実際(2) 科学館・科学系博物館 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
<p>第8回</p>	<p>地域の教育資源を生かした理科学習の実際(3) 動物園・水族館・植物園 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
<p>第9回</p>	<p>地域の教育資源を生かした理科学習の実際(4) 高等学校、大学・研究機関・企業 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
<p>第10回</p>	<p>学校における理科学習を充実させるための教育施策と教育コーディネーターの活動 学校支援地域本部事業(野田市、杉並区)ほか 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
<p>第11回</p>	<p>理科学習とキャリア教育 理科におけるキャリアガイダンス、小中学生による理工系大学の研究室訪問 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
<p>第12回</p>	<p>理科授業案(単元の学習指導計画・本時の学習指導案)の作成(1) 第11回までに学んできたことを基にして、子どもの問いと地域の教育資源を生かした探究的な学びを実現するための理科授業案を作成する(単元構想づくり①)。 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読</p>
<p>第13回</p>	<p>理科授業案(単元の学習指導計画・本時の学習指導案)の作成(2) 第11回までに学んできたことを基にして、子どもの問いと地域の教育資源を生かした探究的な学びを実現するための理科授業案を作成する(単元構想づくり②、本時の学習指導案づくり①)。 【準備学習】:前時に指示・アドバイスしたことを基にしての授業案の構想・作成</p>
<p>第14回</p>	<p>理科授業案(単元の学習指導計画・本時の学習指導案)の作成(3) 第11回までに学んできたことを基にして、子どもの問いと地域の教育資源を生かした探究的な学びを実現するための理科授業案を作成する(本時の学習指導案づくり②)。 【準備学習】前時に指示・アドバイスしたことを基にしての授業案の構想・作成</p>

第15回	理科授業案(単元の学習指導計画・本時の学習指導案)のプレゼンテーションと参加メンバーからのフィードバック、ディスカッション 【準備学習】: 発表資料の作成
-------------	--

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

子どもたちの「問い」を生かした探究的な理科学習および「地域の教育資源・人材」を生かした理科学習のカリキュラム開発を行うことができる。さらに、教育現場における研究的実践者あるいは教育行政における研究指導者としての技能と力量を身につける。

(現職教員)

子どもたちの「問い」を生かした探究的な理科学習および「地域の教育資源・人材」を生かした理科学習のカリキュラム開発を行うことができる。さらに、教育現場における研究的実践者としての技能と力量を身につける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

子どもたちの「問い」を生かした探究的な理科学習および「地域の教育資源・人材」を生かした理科学習のカリキュラム開発を行うことができる。さらに、将来教育現場における研究的実践者となり得る基礎的資質を身につける。

■評価方法

○評価方法 授業ごとのふりかえり(30% : 2点×15=30), プレゼンテーション・レポート(30%), 理科授業案(20%), 最終報告書(20%)

※授業への出席状況のほか、討論への積極的参加、プレゼンテーションや提出物のパフォーマンスなどによって総合的に判断する。

○評価基準 S : 90点以上, A : 80点以上, B : 70点以上, C : 60点以上, D : 60点未満

■使用教材

特にテキストは使用しない。授業の中で参考書・参考資料等を適宜紹介する。

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 C(体育)**■教員名** 久保田 秀明**■授業概要**

体育科の目標及び内容について、学習者のより良い学びを引き出すための実践的な研究を行う。
体育学の専門知識と協同学習の理念・技法を活用して、体育科の学習目標を達成し学習者を尊重する指導力を磨くことを目指す。
実技や受講者による模擬授業を交え、ディスカッションと相互評価を通して学修を進める。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	・体育教育の重要性 【準備学習】学校教育法の第1条。小学校の教育課程。体育の領域。学習指導要領解説体育編をもとに、体育教育で何ができるか、何をしなければならないかを考察し、意見をまとめる。
第2回	体育教育における協同学習の理念と実践 【準備学習】能力、意見、立場の違いを学びに生かし、他者を尊重する方法について考察しまとめる。
第3回	発育発達曲線と体育指導 【準備学習】スキヤモンの発育曲線、ゴールデンエイジと体育指導の関係について考察しまとめる。
第4回	神経系と運動学習 【準備学習】運動学習を構造的に理解し、それに神経系がどう関与しているかについて考察しまとめる。
第5回	子どもの生理機能と安全な体育指導 【準備学習】発汗、体温調節、水分補給、熱中症、低体温症と体育指導について考察しまとめる。
第6回	野外活動と心の教育(1) 【準備学習】「情報化社会」と言われる時代の野外活動の意義、種類、指導方法と、参加者の心理的变化について考察しまとめる。
第7回	能力と個性、協同の精神に基づく競争と相互理解 【準備学習】能力の違いをどう生かすか、競争と勝敗をどう生かすかについて考察しまとめる。
第8回	学習指導要領と授業展開の工夫 【準備学習】学習指導要領改訂のねらいを考察しまとめる。
第9回	野外活動と心の教育(2) 【準備学習】野外活動を小学校教育に取り入れる方法と課題、展望について考察

	しまとめる。
第10回	教材研究実習 【準備学習】スポーツ教材を実施する上での課題を調べまとめる。
第11回	模擬授業と相互評価 1 【準備学習】各自のテーマに従って、模擬授業を準備する。
第12回	模擬授業と相互評価 2 【準備学習】各自のテーマに従って、模擬授業を準備する。
第13回	模擬授業と相互評価 3 【準備学習】各自のテーマに従って、模擬授業を準備する。
第14回	小学校体育の領域、内容、単元指導計画、評価規準 【準備学習】単元指導計画と評価基準について考察しまとめる。
第15回	まとめ 【準備学習】全体を振り返り、問題のある点を確認する。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教科の専門性を高め、協同学習法と学習者の学びの質を高める取り組みについて、教員に指導・助言することができる。

(現職教員)

教科の専門性を高め、学習者の主体的で質の高い学びを引き出すことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

体育指導の専門知識を備え、学習者に寄り添い学習目標の達成を支援することができる。

学習者の特性に応じた授業をデザインし、具体的に実践することができる。

■評価方法

学習内容の理解と主体的な研究実践。

活発な質疑・応答、協同学習への貢献度、及び模擬授業を総合的に評価する。

■使用教材

文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編』東洋館出版社 2018年

その他、パワーポイントを使用する。必要に応じてプリントを用意する。学内外の体育施設を利用する。

■授業で使用する言語

(日)・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教科等の指導開発研究E (外国語活動)

■教員名 山内 豊 / 三津村 正和 (オムニバス)

■授業概要

本科目は、2020年度より全面運用が開始となる小学校「外国語活動」「外国語」の基本的な考え方や授業設計について、座学や模擬授業などを通して学ぶことを目的とします。

第2～10回は、教職大学院棟 V409 教室にて、三津村が担当します。主に「外国語活動」について、現在までの「外国語活動」の課題、世界市民の育成、プロジェクト型活動といった観点から、その授業設計の在り方について学びます。

第11～15回は、中央教育棟 AE255 CALL 教室にて、山内が担当します。第11～14回は、言語習得理論、発達教育学、アクティブ・ラーニングなどを考慮した授業案作成と授業実践を行います。最終回は、本授業で学んだことを振り返り今後どのように活用していくかについての履修者によるパワーポイント発表でしめくくる予定です。

本シラバス内容からの変更点等あれば、第1回のオリエンテーション（於：@教職大学院棟 V309 教室）時に告知します。

2019年度の移行期間に使用される暫定教材はPDFデータとして提供します。その他、小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説など文部科学省等のサイトからダウンロードを求める資料がありますが、購入を必要とする書籍はなく、資料等は適宜、授業者が配布する予定です。教材作成に関する模造紙、色鉛筆などの購入については、授業時に紹介・指示します。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション：授業概要及び履修者の関心領域の把握 【準備学習】シラバスを読んでくる。
第2回	平成20年度版小学校学習指導要領「外国語活動」が抱える課題、平成32年度版小学校新学習指導要領「外国語活動」「外国語」の目標 【準備学習】(第1回目で配布した)資料を読んでくる。
第3回	「世界市民」を育てる小学校英語の授業 【準備学習】Chit Chat Club (中央教育棟西棟 2F)を体験してくる。配布資料を読み、課題を達成する。
第4回	「外国語活動」実践事例①：タスク志向型活動、教科横断型授業 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第5回	「外国語活動」実践事例②：地域素材を生かしたプロジェクト型活動 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第6回	「外国語活動」の教材研究 【準備学習】Let's Try 語彙・表現の整理・分類
第7回	「外国語活動」の教材制作 【準備学習】Let's Try 語彙・表現の整理・分類

第8回	「外国語活動」単元構想の提案（第3学年） 【準備学習】単元構想のプレゼン準備（All English 模擬授業を含む）
第9回	「外国語活動」単元構想の提案（第4学年） 【準備学習】単元構想のプレゼン準備（All English 模擬授業を含む）
第10回	ここまでの総括的討議 【準備学習】第2～9回の内容を整理する。
第11回	「聞くこと・話すこと」を重視した「外国語」の指導案作成 【準備学習】小学校高学年の発達段階と言語習得過程に基づいた We Can! を使った具体的な言語活動とその評価方法のアイデア準備
第12回	「聞くこと・話すこと」を重視した「外国語」のマイクロティーチング実践 【準備学習】小学校高学年の発達段階と言語習得過程に基づいた We Can! を使った具体的な言語活動の教材準備
第13回	「読むこと・書くこと」を重視した「外国語」の指導案作成 【準備学習】小学校高学年の発達段階と言語習得過程に基づいた We Can! を使った具体的な言語活動とその評価方法のアイデア準備
第14回	「読むこと・書くこと」を重視した「外国語」のマイクロティーチング実践 【準備学習】小学校高学年の発達段階と言語習得過程に基づいた We Can! を使った具体的な言語活動の教材準備
第15回	今までの14回の授業を通しての小学校英語教育に関する気づき、学び、今後の課題などについてのパワーポイントを使用しての個別発表 【準備学習】発表用のパワーポイントの準備とリハーサル

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補）小学校「外国語活動」「外国語」の目標及び内容等を十分に理解し、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。

（現職教員）小学校「外国語活動」「外国語」の目標及び内容等を十分に理解し、授業の改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

小学校「外国語活動」「外国語」の目標及び内容等を十分に理解し、授業の改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

各回授業における積極的な授業への参加、配布文献の精読、課題の達成、模擬授業の実践等により、総合的に評価する。

■使用教材

1. Vivian Cook & David Singleton (2014) *Key Topics in Second Language Acquisition*,

Multilingual Matters

2. Paul Nation (2013) *What Should Every EFL Teacher Know?* Compass Publishing
3. H. Douglas Brown (2014) *Principles of Language Learning and Teaching (6th edition) (Teacher References)*, Pearson Japan
4. Bill VanPatten and Jessica Williams (2014) *Theories in Second Language Acquisition: An Introduction*, Lawrence Erlbaum Assoc Inc.
5. Eli Hinkel (2016) *Handbook of Research in Second Language Teaching and Learning: Volume III (ESL & Applied Linguistics Professional Series)*, Routledge
6. Diane Larsen-Freeman & Marti Anderson (2011), *Techniques & Principles in Language Teaching*, Oxford University Press (the third edition)
7. Eva M. Fernández and Helen Smith Cairns (2017) *The Handbook of Psycholinguistics* (Blackwell Handbooks in Linguistics), Wiley-Blackwell
8. John Field (2004) *Psycholinguistics: The Key Concepts*, Routledge
9. 文部科学省 小学校指導要領解説
10. 文部科学省 小学校指導要領解説 (外国語) (外国語活動)
11. 文部科学省 中学校指導要領解説
12. 文部科学省 中学校指導要領解説 (外国語/英語)
13. 文部科学省 高等学校指導要領解説
14. 文部科学省 高等学校指導要領解説 (外国語/英語)
15. 山内 豊 「IT時代のマルチメディア英語授業入門」 研究社
16. 山内 豊 「インターネットを活用した英語授業」 NTT 出版
17. 山内 豊 (他) 「はじめての英語活動」 教育同人社
18. 山内 豊 「インターネット英語の速読速解」 創育
19. 浦野 研・他 (著) 「はじめての英語教育研究 押さえておきたいコツとポイント」 研究社
20. 小泉 利恵、印南 洋、深澤 真 (著) 「実例でわかる英語テスト作成ガイド」 大修館書店
21. 根岸雅史 (著) 「テストが導く英語教育改革」 三省堂
22. 鈴木 渉 (著, 編集) 「実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導」 大修館書店
23. 伊東 治己 (著) 「インタラクティブな英語リーディングの指導」 研究社
24. Yutaka Yamauchi (Forthcoming), *Basic Theories and Practices in Teaching English in Japanese Elementary School*, Soka University Press.

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教科等の指導開発研究 F(道徳)**■教員名** 石丸 憲一**■授業概要**

本科目は、子供たちが一生をどう生きていくかの道標となる心のあり方あるいは道徳性、倫理観について考え、それらを小学校及び中学校での教育のどのような場で育てていくかを考えるとともに、道徳の時間から道徳科に変わることをどう捉え、どう授業し、どう評価したらよいかを考える場とする。いかに本音で話し合うかに重点を置いた授業づくりを考え、さらに模擬授業やプレゼンにより実践的な評価を行い、生きた指導に結びつくようにする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	「授業のねらい、授業計画の把握」 自分の中の道徳教育を振り返り、自分なりの課題をつかむ。 【準備学習】学習に期待すること、自身の道徳教育について振り返ってみる。
第2回	「道徳とは(特に学校教育において)」 新学習指導要領(小学校及び中学校)を読むことにより、道徳教育とは何か、何を求められているのかを考える。 【準備学習】学習指導要領道徳に目を通す。
第3回	「道徳の時間と道徳科～何が変わるのか～」① 昭和33年から平成27年までの学習指導要領における道徳の時間、道徳科の変遷から道徳教育の不易と流行をつかむ。(小中別のグループ活動で検討する。) 【準備学習】学習指導要領道徳に目を通す。
第4回	「道徳の時間と道徳科～何が変わるのか～」② 第3回に検討した学習指導要領の変遷から読み取ることのできる道徳教育の不易と流行をグループごとにプレゼンテーションする。 小中の道徳科の目指すところや内容について比較をする。 【準備学習】グループのプレゼンの準備をする。
第5回	「道徳科の授業づくり」(講義と討議) 道徳科の授業に問題解決学習、アクティブ・ラーニング等をどう取り入れたらよいか講義を通じて理解する。 【準備学習】各グループの発表を整理する。
第6回	「道徳科の授業と評価」 道徳科の授業でどう評価したらよいかを実際の授業を想定して考えることで、実践力を鍛える。 【準備学習】前回の配付資料を読み、意見をまとめておく。
第7回	読み物資料を使った道徳の授業を考える①(小中別、規則の尊重をテーマに) 読み物資料をどう読み、道徳科の授業でどう扱うかを実際の資料について小中の

	グループ別に授業を想定しプレゼンし、検討し合う。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第8回	読み物資料を使った道徳の授業を考える②(小中別、公平、公正をテーマに) 読み物資料をどう読み、道徳科の授業でどう扱うかを実際の資料について小中のグループ別に授業を想定しプレゼンし、検討し合う。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第9回	読み物資料を使った道徳の授業を考える③(小中別、生命の尊さをテーマに) 読み物資料をどう読み、道徳科の授業でどう扱うかを実際の資料について小中のグループ別に授業を想定しプレゼンし、検討し合う。 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第10回	内容項目の検討(講義と討議) 道徳教育で扱われている内容項目について分析、考察することで、今後の道徳教育のあるべき姿を考える。 【準備学習】プレゼンの振り返りしておく。
第11回	内容項目の検討(プレゼンテーション①) 友情について考える。(プレゼン→小中別討論→全体交流) 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第12回	内容項目の検討(プレゼンテーション②) 思いやり・(親切)について考える。(プレゼン→小中別討論→全体交流) 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第13回	内容項目の検討(プレゼンテーション③) 郷土愛・愛国心について考える。(プレゼン→小中別討論→全体交流) 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第14回	内容項目の検討(プレゼンテーション④) 敬虔・畏敬の念について考える。(プレゼン→小中別討論→全体交流) 【準備学習】プレゼンの準備をする。
第15回	まとめと振り返り 【準備学習】プレゼンの振り返りしておく。

■到達目標

◇人間教育プロフェッショナルコース

- 道徳教育を何のために行うのかをいろいろな視点から考える中で確立し、それを具現化する資料の扱いや授業の方法を身につける。

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

- プロフェッショナルコースの目標に到達すると同時に、自分自身のこれまでの道徳教育を振り返り、どのように若手教員にアドバイスしたらよいかを考えることができる。

(現職教員)

○ プロフェッショナルコースの目標に到達すると同時に、自分自身のこれまでの道徳教育を振り返り、よりよい道徳科の授業を作るための改善点を見出すことができる。

■評価方法

授業における活動状況(発言)やプレゼンテーション、まとめのレポートを総合して評価する。

■使用教材

石丸『ルーブリック評価を取り入れた道徳科授業のアクティブラーニング』明治図書

石丸『4つの視点でうまくいく！考え、議論する道徳に変える教材研究の実践プラン』同上

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名**総合学習と社会参加学習論****■教員名**

宮崎 猛

■授業概要

時代の進展とともに学校教育が提供する教育内容が系統化・専門化が進むことは避けて通ることができない。しかし、それによって学校教育の学習は、学習者の学ぶ必要性や必然性から乖離していくことになる。学校教育が生まれて以降、今日まで間断なく繰り返されてきた経験主義と系統主義との間の揺れ、自由教育と管理教育、進歩派と保守派と間での対立の背景である。本授業では、系統化・専門化が進むことを前提として、学ぶことの意味や意義をどのように取り戻すか、学校の学習と現実社会をどのように関連させるか、といった本質的な課題に対して、学習の総合化(総合学習)、ならびに学習の社会との架橋化(社会参加学習)を手がかりに追究していく。その際、校種間の連携(小学校、中学校)は極めて重要なテーマとなる。また、それらを実践的に考察することが、学習指導要領上の要請でもあり、グローバル化に対応する人材育成においても重要であることを確認することになる。それらへの検討を踏まえ、各学校において展開可能な教育実践や授業モデルを考案する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション、参加者の関心領域と本授業の目標、内容 【準備学習】特になし
第2回	総合的な学習の創設の経緯、内容、課題 総合的な学習の創設の経緯、内容、変遷等についてレクチャーを通して理解する。その後、小学校と中学校に分かれ、それぞれの校種の総合的な学習の特徴と課題について検討する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項—総合的な学習の創設の経緯について事前に調査を行う。
第3回	総合的な学習の意義: 系統主義と経験主義—デューイの議論などを通して デューイ等の経験主義のグランドセオリーについて、系統主義との対比から理解する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項—系統主義と経験主義の概要について事前に調査を行う。
第4回	学ぶこと、身に付くとはどのようなことか—社会構成主義や状況学習論を通して 前時の経験主義に関するグランドセオリーの理解を踏まえ、社会構成主義や状況学習論について理解を深める。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項—社会構成主義や状況学習論について事前に調査を行う。
第5回	クロスカリキュラムの意義と概要 総合的な学習への理解を深めるためにクロスカリキュラムについて検討する。

	<p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項ークロスカリキュラムとはどのようなものかについて事前に調査を行う。</p>
第6回	<p>クロスカリキュラムの方法</p> <p>クロスカリキュラムの実際について、小学校・中学校それぞれの校種に分かれ討議し、理解を深める。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項ークロスカリキュラムの実例について事前に調査を行う。</p>
第7回	<p>社会参加学習の意義と方法 サービス・ラーニングを事例として</p> <p>社会参加学習の実例として米国で1990年代から幅広い学校教育で行われているサービス・ラーニングについて理解を深める。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項ーサービス・ラーニングについて事前に調査を行う。</p>
第8回	<p>振り返りの方法と理論 サービス・ラーニングを事例として</p> <p>総合的な学習や社会参加学習で重要となる振り返りの方法と理論についてサービス・ラーニングの知見から検討する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項ー振り返りのあり方について事前に調査を行う。</p>
第9回	<p>小学校の総合的な学習の時間の実践事例の検討</p> <p>小学校の総合的な学習の実践事例について、小学校・中学校の連携に留意しながら検討を加える。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項ー小学校の総合的な学習の先進事例について事前に調査を行う。</p>
第10回	<p>中学校の総合的な学習の時間の実践事例の検討</p> <p>中学校の総合的な学習の実践事例について、小学校・中学校の連携に留意しながら検討を加える。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項ー中学校の総合的な学習の先進事例について事前に調査を行う。</p>
第11回	<p>小学校、中学校別クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習の構想</p> <p>小学校、中学校別にいくつかのグループを編成し、クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習を構想する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項ー事前に各自が構想を考案し持ち寄る。</p>
第12回	<p>クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習のカリキュラム作成</p> <p>前時に作成した総合的な学習の構想に基づき、クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習のカリキュラムを作成する。</p>

	【準備学習】本時の授業内容に関する事項一事前に各自が構想を考案し持ち寄る
第 13 回	<p>クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習の構想とその検証</p> <p>小学校、中学校別に行っていたカリキュラムを小学校、中学校合同で検討し、それぞれの校種における工夫を取り入れるなどしてより精緻な総合的な学習のカリキュラムを作成する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項一事前にグループ毎に検討するための資料を作成する。</p>
第 14 回	<p>クロスカリキュラムと社会参加学習に基づく総合的な学習の構想の検討</p> <p>作成した校種毎の総合的な学習のカリキュラムを全体の前で発表し、修正等を行う。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項一事前にグループ毎に検討するための資料を作成する。</p>
第 15 回	<p>本授業全体の振り返りと総括</p> <p>本授業での学修をポートフォリオを用いて相互に検討し、振り返る。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項ーポートフォリオを作成し持ち寄る。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

総合学習とそこにおける社会参加学習の今日的意義を、学習指導要領の重点項目やその背景となっているグローバル社会に求められる力量形成ー各国間で求められている学力水準ーなどの観点から理解するとともに、その展開の在り方に対する識見をもち、学校現場における総合的な学習の時間等における授業実践、実践研究を適切に指導することができる力量を身に付ける。

(現職教員)

総合学習とそこにおける社会参加学習の今日的意義を、学習指導要領の重点項目やその背景となっているグローバル社会に求められる力量形成ー各国間で求められている学力水準ーなどの観点から理解するとともに、その展開の在り方に対する識見をもち、それらをもとに校内研究等において中心的な役割を担い、実践研究を研究的アプローチに基づいて推進することができる力量を身に付ける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

総合学習とそこにおける社会参加学習の今日的意義を、学習指導要領の重点項目やその背景となっているグローバル社会に求められる力量形成ー各国間で求められている学力水準ーなどの観点から理解するとともに、その展開の在り方に対する識見をもち、指導目標・内容、教材、指導方法、評価等の特質に理解を深め、自身の授業実践に活用することができる力量を身に付ける。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、参加意欲:20点、最終報告書・授業案20点

S:90 点以上 A:80 点以上 B:70 点以上 c:60 点以上 D(不合格):59 点以下

■使用教材

上記授業計画に提示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。
参考書・参考資料等)

ジョン・デューイ著:『経験と教育』J.S ニール著:『ニールと自由な子どもたち サマーヒルの理論と実際』宮崎猛著:『主体的な学びで学力を伸ばす！アクティブ・ラーニングの基本と授業のアイデア』(ナツメ社) 『教師のための現代社会論』(教育出版)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学校カウンセリングの現状と課題

■教員名 長島 明純 ・ 高野 久美子

■授業概要

本授業科目では、小学校及び中学校における、学校カウンセリングに関する演習や事例検討を中心に、受講者の問題関心に添いながら、小学校及び中学校における、学校カウンセリングに関する今日的課題について整理すると共に、校内支援体制や関係諸機関との連携などの進め方などについても理解を深める。

■授業計画・内容

回数	内 容
第1回	教員からの本授業科目の意図の内容構成に関する提示。子どもの症状とその意味概説。受講生の学校カウンセリングに関する問題関心について整理・共有。 【準備学習】学校カウンセリングについての問題関心を整理しておく(参考図書:石隈利紀著「学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス」誠信書房)。授業を振り返る。
第2回	小学校及び中学校におけるカウンセリングの基本を概説。誘発線法を実際に体験し、カウンセリングにおける両者の関係性についての理解を深める。 【準備学習】カウンセリングの基本について調べておく(参考図書:佐治守夫・飯長喜一郎編「ロジャーズ クライアント中心療法 新版 —カウンセリングの核心を学ぶ」有斐閣)。授業を振り返る。
第3回	傾聴についての概説とロールプレイ。相手の話を「聴かない」ロールプレイと相手の話を「聴く」ロールプレイ。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。
第4回	小学校及び中学校における教育的ニーズのある子どもの保護者理解について解説。「教育的ニーズのある子どもの保護者との面談についてロールプレイを体験する。教師役・保護者役・観察者二人の4人一組で、役割を交代して実習を行う。 【準備学習】教育的ニーズのある子どもの保護者に関して調べておく(参考図書:中田洋二郎著「発達障害と家族支援—家族にとっての障害とはなにか」学習研究社)。授業を振り返る。
第5回	小学校及び中学校における教育的ニーズのある児童生徒の保護者への対応について、具体的な事例をもとに検討。 準備学習:前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。
第6回	小学校及び中学校における「いじめ」について概説。その後、小学校及び中学校のいじめ被害者の保護者との面談についてロールプレイを体験する。 【準備学習】「いじめ」の現状を調べておく。授業を振り返る。(参考図書:森田洋司著「いじめとは何か—教室の問題、社会の問題」中央公論新社)。
第7回	小学校及び中学校における「いじめ」への対応の在り方などについて、具

	<p>体的な事例をもとに検討。(事例検討)</p> <p>【準備学習】「いじめ」の事例への対応について検討しておく。授業を振り返る。</p>
第8回	<p>小学校及び中学校における「非行」「暴力」について、特別講師より現在の状況など講話していただく。</p> <p>【準備学習】近年の小学校及び中学校における「非行」「暴力」の傾向について、国の研究調査などで確認しておく。授業の内容を振り返る。</p>
第9回	<p>小学校及び中学校における「不登校」「引きこもり」について概説。その後、友達関係の悩みから不登校ぎみになっている児童生徒との相談をロールプレイで体験する。</p> <p>【準備学習】「不登校」「引きこもり」の現状を調べておく。授業を振り返る。(参考図書:藤岡孝志「不登校臨床の心理学」誠信書房、「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」厚生労働省)。</p>
第10回	<p>小学校及び中学校における学校における「不登校」「引きこもり」への対応の在り方などについて、具体的な事例をもとに検討。(事例検討)</p> <p>【準備学習】「不登校」「引きこもり」の事例への対応について検討しておく。授業を振り返る。</p>
第11回	<p>小学校及び中学校における「児童虐待」について概説。</p> <p>【準備学習】「児童虐待」について調べておく(参考図書:川崎二三彦著「児童虐待—現場からの提言」岩波書店)。本授業の内容を振り返る。</p>
第12回	<p>小学校及び中学校における「学校における「児童虐待」への対応など、具体的な事例をもとに検討。</p> <p>【準備学習】「児童虐待」の事例への対応について検討しておく。授業の内容を振り返る。</p>
第13回	<p>小学校及び中学校における校内や学校外の多様な関係機関とのネットワークについても概説。</p> <p>【準備学習】学校におけるチーム支援について調べておく。授業の内容を振り返る。(参考図書:石隈利紀・田村節子著「石隈・田村式援助シートによる チーム援助入門—学校心理学・実践編」図書文化社)。</p>
第14回	<p>チームシートを活用して、小学校及び中学校における事例をもとにした校内におけるチーム連携を具体的な事例をロールプレイ。(事例検討)</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。授業を振り返る。</p>
第15回	<p>学校における危機管理・危機介入の在り方について概説。これまでの授業の整理・まとめ。</p> <p>【準備学習】危機管理・危機介入の在り方について調べておく(参考図書:窪田由紀他著「学校コミュニティへの緊急支援の手引き」金剛出版)。これまでの授業での学びを整理しておく。本授業の内容を振り返る。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育相談にあたる教員や学校に対して、専門性をもって適切に指導助言したり、関係諸機関や地域と連携した相談体制を組織したり、校内の支援体制の活用も含め学校における教育相談の進め方や関係諸機関との連携の在り方について整理することができる。

(現職教員)

教育相談技能を高めるとともに、校内支援体制の活用や保護者・地域・関係機関との連携を視野に入れた教育相談の在り方について考察し理解を深めことができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教育相談の基礎的な内容や方法、校内支援体制の活用や関係諸機関との連携などについて理解と習得を深め、現場で主体的に実践することができる。

■評価方法

- (1)授業の中での・演習・事例検討・ディスカッションなどへの参画状況。
- (2)学校カウンセリングに関する諸問題についてのレポートの充実度。

■使用教材

※ 教科書は使用しない。随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりする。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 特別支援教育の現状と課題**■教員名** 長島 明純**■授業概要**

本授業科目では、受講者自身への問いかけと、受講者自らの課題意識に添いながら、特別支援教育に関する現状と課題に迫る。その中で、自らの障がい観を育み、特別支援教育の今日的課題について捉える。

小学校・中学校の現場での実践力を高めるため、発達障害に関する知識、個別の教育支援計画の作成・校内支援体制づくりや関係諸機関との連携などについての理解を深める。また、課題解決の視点から、関連のある法規、社会福祉学・臨床心理学などの知見についても学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	教員からの本授業科目の目的と内容について提示し、受講者より「特別支援教育」に関する関心について表明。世界的障害観の動向について概説。受講者の関心や課題意識について意見交換し、整理・共有。 【準備学習】特別支援教育に関する自身の関心や世界的障害観の動向について参考書などで整理しておく。
第2回	我が国の特殊教育から特別支援教育への教育制度の流れを、条約・法規などを踏まえながら捉える。基礎知識を確認・整理。 【準備学習】特別支援教育への流れの概要を参考書などで学んでおく。
第3回	特別支援教育とノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、インクルーシブなどの概念を整理。 障害と人権に関して検討する。インクルーシブ教育の是非について討論・考察。 【準備学習】ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、インクルーシブなどの概念を参考書などで整理しておく。
第4回	障害のある児童・生徒の行動上の問題を理解し支援できるため、トラウマなど発達障害に関わって生じやすい問題について検討する。心理、社会的側面や医学的側面からみた発達障害の二次合併症などを確認・整理。 【準備学習】児童期・思春期・青年期に生じる発達障害に関する問題を参考書などで整理しておく。
第5回	特別支援教育の理念・目的について、学習指導要領を基に、特別支援学校・特別支援学級の教育目的、教育課程、指導内容を確認・整理。特別支援学校の教育課程の編成に関する事項・学習指導要領に関する事項・特別支援学校の特徴・特別支援学級の特徴・自立活動・教科を合わせた指導等。 【準備学習】特別支援教育に関する学習指導要領について学んでおく。
第6回	教育現場での合理的配慮や包括的な教育的支援について整理し検討。 準備学習：特別支援教育と教育の合理的配慮と包括的な教育的支援について、参考書などで整理しておく。

第7回	乳幼児期から学童期・青年期以降の発達障害への援助について考察・整理。 【準備学習】参考書などで発達障害児の発達段階に応じた援助を学んでおく。
第8回	特別支援教育コーディネーター・学級担任などの役割(個別指導計画・個別の教育支援計画・個別移行支援計画、関係機関との連携など)の考察・整理。 【準備学習】参考書などで特別支援教育コーディネーターの役割について学んでおく。
第9回	発達障害に関する世界的な診断基準と我が国の発達障害の範囲について確認・整理。 【準備学習】DSMやICDにおける発達障害と我が国における発達障害について、参考書などで整理しておく。
第10回	LDの児童・生徒の事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備など、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。 【準備学習】参考書などでLDについて学んでおく。
第11回	ADHDの児童・生徒の事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備など、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。 【準備学習】参考書などでADHDについて学んでおく。
第12回	自閉症スペクトラムの児童・生徒の事例について、個のニーズに応じた課題解決のための適切な指導・環境整備など、本人・保護者への基本的な対応について考察・整理。 【準備学習】参考書などで自閉症スペクトラムについて学んでおく。
第13回	発達障害児への学習プロセス(単元学習、授業展開など)における工夫を支援環境なども含め検討・整理。 【準備学習】参考書などで発達障害児への学習プロセスについて学んでおく。
第14回	授業における発達障害のある児童生徒への個別的・集団的支援の工夫を、支援ツールなども含め検討・整理。 【準備学習】参考書などで発達障害児への個別的・集団的支援について学んでおく。
第15回	これまでの講義内容を整理・考察し、今後の学校教育現場で果たすべき自らの役割の在り方を整理・考察。 【準備学習】本授業での学びを整理しておく。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- ・小学校・中学校の特別支援教育に関する今日的課題について深く理解考察することができる。
- ・小学校・中学校の発達障害児等への対応、校内支援体制づくりや関係諸機関との連携等について、専門性をもって適切に指導・助言できる。

(現職教員)

- ・小学校・中学校の特別支援教育に関する今日的課題について理解考察することができる。
- ・小学校・中学校の特別支援教育コーディネーターとして、発達障害児等への対応、校内支援体制の活用、関係諸機関との連携等ができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・小学校・中学校の特別支援教育に関する今日的課題について理解考察することができる。
- ・小学校・中学校の授業や生徒指導で、発達障害などへの適切な対応ができる。

■評価方法

- (1) 特別支援教育に関する諸問題についての研究の報告
- (2) 授業の中での質問・協議への参画状況。
- (3) 授業の内容を踏まえたレポートの充実度。

■使用教材

テキスト

- ・文部科学省編集、特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部)、教育出版、2009、486円
- ・国立特別支援教育総合研究所著、特別支援教育の基礎・基本、ジアース教育新社、2015、2916円 ※なお、随時、関係する資料をプリントして配布。

参考図書

- ・古荘 純一編著、神経発達症(発達障害)と思春期・青年期、明石書店、2014
- ・橋本和明、発達障害と思春期・青年期 生きにくさへの理解と支援、明石書店、2009
- ・小栗正幸、発達障害児の思春期と二次障害予防のシナリオ、ぎょうせい、2010
- ・月森久江、教室でできる特別支援教育のアイデア172—小学校編、図書文化社、2005
- ・月森久江、教室でできる特別支援教育のアイデア—中学校編、図書文化社、2006
- ・杉山登志郎、発達障害のある子どもができることを伸ばす! 学童編、日東書院本社、2011
- ・杉山登志郎、発達障害のある子どもができることを伸ばす! 思春期編、日東書院本社、2013
- ・小野次朗・藤田継道・上野一彦(編集)、よくわかる発達障害、ミネルヴァ書房、2010
- ・榎原洋一著、図解よくわかる発達障害の子どもたち、ナツメ社、2011
- ・中山和彦・小野和哉著、図解 よくわかる思春期の発達障害、ナツメ社、2012
- ・桂聖・石塚謙二・廣瀬由美子・日本授業UD学会(著、編集) ユニバーサルデザインvol.9、東洋館出版社、2017
- ・桂聖・日本授業UD学会(著、編集) 授業のユニバーサルデザインvol.8(特集1 ユニバーサルデザイン基本キーワード / 特集2 中学校における授業のユニバーサルデザイン)、東洋館出版社、2016
- ・藤原義博、特別支援教育のための分かって動けて学び合う授業デザイン、ジアース教育新社、2016
- ・柘植雅義、特別支援教育総論、放送大学教育振興会、2015

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 生徒指導・いじめ予防の理論と実践**■教員名** 吉川 成司 ・ 三津村 正和**■授業概要**

本授業は、生徒指導の意義と原理、特に「いじめ予防を志向する生徒指導」の在り方について理論と実践の両側面から包括的に学ぶ。具体的には、「いじめ予防を志向する生徒指導の視点を取り入れた授業」や「いじめ予防を志向する学校づくりのための校内研修」を設計・推進するにあたっての考え方や実践上の問題点について考察する。また、いじめの4層構造(被害者、加害者、聴衆、傍観者)の各層へのアプローチについても検討する。このような「いじめ予防を志向する生徒指導」の視点に立脚した学級・学校文化の創出に向けての主体的・協働的な態度の育成と実践法の獲得を目指す。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第2回	生徒指導の意義と原理 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第3回	生徒指導の進め方(全体と個別) 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第4回	いじめ問題の現状と課題(小中別のグループ活動で検討する。) 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第5回	いじめ予防を志向する生徒指導 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第6回	いじめの4層構造の理解(1):被害者の保護 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第7回	いじめの4層構造の理解(2):加害者、聴衆の心理 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第8回	いじめの4層構造の理解(3)傍観者のエンパワーメント 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第9回	いじめ予防を志向する生徒指導の視点を取り入れた授業づくり(小中別) 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第10回	いじめ予防を志向する学校づくりのための校内研修の推進(小中別) 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第11回	「いじめ防止対策推進法」が求めるいじめ予防対策 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。
第12回	海外のいじめ研究・予防対策からの比較考察 【準備学習】指定された文献を読み、討論に備える。

第13回	「いじめ予防プログラム」実践例(小中別) 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第14回	いじめ問題の理解に関するプレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。
第15回	いじめ予防プログラムに関するプレゼンテーション 【準備学習】プレゼンテーションに備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

いじめ予防を志向する生徒指導の視点に立脚した学級・学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題の把握とそれに対応する力を身につける。

(現職教員)

いじめ予防を志向する生徒指導の視点に立脚した学級・学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、学級経営、授業、校内研修等の改善を図る協働的な取り組みを実行する指導力を身につける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

いじめ予防を志向する生徒指導の視点に立脚した学級・学校文化を創出するための理論・実践法を体系的に学び、学級経営、授業などの改善を図り実行する力を身につける。

■評価方法

全授業への参加態度、課題文献の精読、リフレクションジャーナルの記述、プレゼンテーション(プロコースは授業、リーダーコースは校内研修の設計・開発)により、総合的に評価する。

■使用教材

- ①文部科学省「生徒指導提要」(2010年, 教育図書)
- ②中嶋博行『君を守りたい:いじめゼロを実現した公立中学校の秘密』(2006年, 朝日新聞社)
- ③森田洋司『いじめとは何かー教室の問題、社会の問題』(2010年, 中央公論新社)
- ④今津孝次郎『いじめ問題の発生・展開と今後の課題ー25年を総括する』(2007年, 黎明書房)
- ⑤山脇由貴子『教室の悪魔:見えない「いじめ」を解決するために』(2006年, ポプラ社)
- ⑥武田さちこ『子どもと学ぶいじめ・暴力克服プログラム:想像力・共感力・コミュニケーション力を育てるワーク』(2009年, 合同出版)

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

学級経営及び学校経営に関する領域

■科目名 **教育行政・学校経営の現状と課題**

■教員名 **渡辺 秀貴 ・ 井上 伸良**

■授業概要

教育行政・学校経営における今日的に重要なテーマについて、参加者の希望も容れながら、その概要と課題討議を通して、学校現場での実践力を高める。また、教職に資する視聴覚教材の視聴、議会や教育委員会会議の傍聴、行政職員(心理職)等の講義も予定している。なお、ゲストスピーカーの都合などにより、授業日時が一部変則的になる可能性がある。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	・シラバス説明・質疑、自己紹介、取り上げたいテーマのとりまとめ、報告分担 【準備学習】取り上げたいテーマについて1つ用意してくる。
第2回	・学校教育の現状と課題。学校組織における人材育成の仕組みを中心に。 【準備学習】教育目標実現に向けた学年組織や校務分掌組織の運営の課題や職務を通じた人材育成の課題等について整理しておく。
第3回	・教育課題解決演習① 学校が組織的に解決すべき重点教育課題 【準備学習】児童・生徒や保護者への対応、また、関係機関との連携の必要性等で喫緊の課題となっていることを概括的に整理しておく。
第4回	・教育課題解決演習② 「個人情報の管理」への組織的な対応 【準備学習】組織的に収集する情報の管理、それらを基に作成される資料の中でも個人情報の管理に関する現状と課題を整理しておく。
第5回	・教育課題解決演習③ 「いじめ問題」への組織的な対応 【準備学習】直近の事例等から対応の現状と課題を挙げ、いじめ防止対策推進法等を基に問題の解決についての考えを整理しておく。
第6回	・教育課題解決演習④ 「不登校問題」への組織的な対応 【準備学習】不登校に関する各種調査を基に、保護者の「義務」や児童・生徒の「権利」等の視点から、問題の解決についての考えを整理しておく。
第7回	・教育課題解決演習⑤ 「SNS問題」への組織的な対応 【準備学習】生活指導上の課題に留まらず、人権教育の視点も含め、法規とも照らしながら現状の課題と解決への取り組みについて整理しておく。
第8回	・教育課題解決演習⑥ 「学校事故」への組織的な対応 【準備学習】「学校事故」と言われるものを取り上げ、学校経営上必要な未然防止策や発生後の組織的な対応について整理しておく。
第9回	・関係機関・組織との連携①家庭教育の現状と課題への対応 【準備学習】家庭環境の変化や子供の成長への影響、学校経営課題としての対応について調べて整理しておく。
第10回	・関係機関・組織との連携② 家庭裁判所調査官による離婚紛争の子どもへの影響に関する講義

	【準備学習】家庭裁判所調査官の職務について理解しておく。
第11回	・関係機関・組織との連携③家庭裁判所調査官による少年非行に関する講義 【準備学習】矯正教育の現状と課題について調べておく。
第12回	・関係機関・組織との連携④ 自治体の教育委員会の傍聴 【準備学習】学校の設置者である自治体教育委員会の役割と学校との関係について整理するとともに、過去の教育いい会議事録をWEBで読んでおく。
第13回	・履修者による提言① 教育行政施策について 【準備学習】各自が考える課題と解決策について発表準備をする。
第14回	・履修者による提言② 学校経営への提言 【準備学習】各自が考える課題と解決策について発表準備をする。
第15回	・まとめ 【準備学習】これまでの各回の授業内容とポイントを見直してから参加する。

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>学校経営上、理解すべきテーマの概要と現状について理解を深める。また、学校管理職、教育行政職として必要な法規を確認し、管理職・行政職として求められる能力を理解する。</p> <p>(現職教員)</p> <p>上記に同じ。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>学校経営上、理解すべきテーマの概要と現状について理解を深める。</p>
--

■評価方法

発表資料や発表中の態度 40 点、授業参加の貢献度 40 点、提出物 20 点で評価する。

■使用教材

<p>(基本参考図書)</p> <p>・佐藤晴雄『教職概論』『現代教育概論』学陽書房</p> <p>・佐藤学・秋田喜代美他『教育 変革への展望・1教育の再定義』岩波書店</p>
--

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 特別活動の現状と課題**■教員名** 長島 明純**■授業概要**

今日のいじめや不登校、特別支援に関する諸課題に対処するためには、児童・生徒の自治的集団活動に代表される特別活動を積極的に展開していく必要がある。その意味で、本授業では、小学校及び中学校における特別活動の教育的意義に対する理解、学級活動における計画立案のための知識と技能の習得、児童・生徒の自治的集団活動に対する支援援助のための知識とスキルの習得などの指導法を学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション(自己紹介を含む)本授業のねらい、大まかな全授業の流れ、進め方、評価の視点等についてオリエンテーションを行う。個々の学生の特別活動に関する問題意識、関心などについて確認し、授業の進め方について検討する。受講者の関心や課題意識について意見交換し、今、世界から特別活動が注目されている理由についても、意見交換する。 【準備学習】自身の特別活動への関心など整理し、特別活動の内容や特質について参考書などで確認しておく。
第2回	小学校及び中学校で、特別活動はどのような目標でどのような内容となっているのか、内容相互の関連も含めて、人間関係をキーワードに整理する。 【準備学習】学習指導要領などで、小学校及び中学校で、特別活動はどのような目標でどのような内容となっているのか、内容相互の関連も含めて確認しておく。
第3回	特別活動の淵源について、明治以後から第二次世界大戦前までと中心に、その歴史の変遷を巡る問題を捉える。特別活動の土壌としてある日本文化なども踏まえながら、その特質について意見を交換する。 【準備学習】参考書などで、明治以後から第二次世界大戦前までと中心に、特別活動の淵源を学んでおく。
第4回	第二次世界大戦後の特別活動の歴史の変遷を、学習指導要領の改正に即しながら、捉える。民主主義との関係などを踏まえながら、その特質について意見を交換する。 【準備学習】参考書などで、学習指導要領の改正に即しながら、世界大戦後の特別活動の歴史の変遷を整理しておく。
第5回	次期学習指導要領改訂と特別活動を巡る問題を検討し、特別活動にどんなことが期待されているのか意見を交換する。キャリア教育と特別活動との関係についても意見を交換する。 【準備学習】参考書などで、学習指導要領の改正に即しながら、世界大戦後の特別活動の歴史の変遷を整理しておく。
第6回	小学校及び中学校における各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連を踏まえながら

	<p>、特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間計画の作成を巡る問題を発表し、皆でそれを参考にしながら、それぞれの体験や教育実践などを出し合い、意見を交換する。</p> <p>【準備学習】参考書などで、各教科・道徳・総合的な学習の時間との関連について整理し、自分の学校の特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間計画について確認しておく。</p>
第7回	<p>小学校及び中学校の学級会活動の意義について、意見を交換し、確認。その後、小学校で学級会をどのように指導するのか、事前の指導と事後の指導も含めて検討する。係り活動をどう指導するのかも含め検討する。</p> <p>【準備学習】参考書などで、小学校及び中学校で、学級会をどのように指導するのか、事前の指導と事後の指導も含めて確認しておく。係り活動をどう指導するのかも確認しておく。自分の学級会活動の実践について整理しておく。</p>
第8回	<p>中学校で学級会をどのように指導するのか、事例を中心に検討し、意見を交換する。</p> <p>【準備学習】参考書などで、中学校で、学級会をどのように指導するのか、確認しておく。自分の学級会活動の実践について整理しておく。</p>
第9回	<p>小学校及び中学校における学級活動の年間計画の作成を巡る問題を発表し、皆でそれを参考にしながら、それぞれの体験や教育実践などを出し合い、意見を交換する。</p> <p>【準備学習】参考書などで、学級活動の年間計画をどのように作成するのか確認しておく。自分の学級会活動の年間計画について整理しておく。</p>
第10回	<p>小学校及び中学校における1単位時間の学級活動の指導計画の作成を巡る問題を発表し、授業記録などを参考にしながら、皆でそれぞれの体験や教育実践などを出し合い、意見を交換する。</p> <p>【準備学習】参考書などで、学級における1単位時間の学級活動の指導計画をどのように作成するのか確認しておく。自分の学級の1単位時間の指導計画について整理しておく。</p>
第11回	<p>小学校及び中学校における学級会活動(話し合い活動)の指導計画の作成と進め方を巡る問題を発表し、皆でそれぞれの体験や教育実践などを出し合い、意見を交換する。</p> <p>【準備学習】参考書などで、学級会活動(話し合い活動)の指導計画の作成と進め方を確認しておく。自分の学級会活動(話し合い活動)の実践について整理しておく。</p>
第12回	<p>児童会活動・クラブ活動の指導計画の作成を巡る問題や代表委員会・委員会活動・児童集会活動などの取り組み方を巡る問題を発表し、皆でそれを参考にしながら、それぞれの体験や教育実践などを出し合い、意見を交換する。</p> <p>【準備学習】これまでの児童会活動・クラブ活動の指導計画の作成を巡る問題や代表委員会・委員会活動・児童集会活動などの取り組み方について整理しておく。</p>

第 13 回	<p>小学校及び中学校における学校行事の年間計画の作成を巡る問題を発表し、皆でそれを参考にしながら、それぞれの体験や教育実践などを出し合い、意見を交換する。</p> <p>【準備学習】これまでの学校行事についての実践を整理しておく。</p>
第 14 回	<p>小学校及び中学校における異学年集団による交流のすすめ方を巡る問題を発表し、皆でそれを参考にしながら、それぞれの体験や教育実践などを出し合い、意見を交換する。</p> <p>【準備学習】これまでの異学年集団による交流の実践について整理しておく。</p>
第 15 回	<p>小学校及び中学校における特別活動の実践と評価を巡る問題を発表し、皆でそれを参考にしながら、それぞれの体験や教育実践などを出し合い、意見を交換する。本授業を振り返る。</p> <p>【準備学習】参考書などで、特別活動の実践と評価について確認しておく。これまでの授業での学びについて整理しておく。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- ・特別活動に関する今日的課題について深く理解すると共に、その教育的な意義を考察することができる。
- ・小学校及び中学校の学級活動の計画と立案、話し合い活動の意義やすすめ方、指導上のスキルの習得、児童・生徒活動・学校行事運営上の教師のサポートのあり方やスキルについて、専門性をもって適切に指導・助言できる。

(現職教員)

- ・特別活動に関する今日的課題について理解すると共に、その教育的な意義を考察することができる。
- ・小学校及び中学校の学級活動の計画と立案、話し合い活動の意義やすすめ方、指導上のスキルの習得、児童・生徒活動・学校行事運営上の教師のサポートのあり方やスキルについて、専門性をもって適切に指導できる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

- ・特別活動に関する今日的課題やその教育的な意義を考察することができる。
- ・小学校及び中学校の学級活動の計画と立案、話し合い活動の意義やすすめ方、指導上のスキルの習得、児童・生徒活動・学校行事運営上の教師のサポートのあり方やスキルについて、適切に指導できる。

■評価方法

出席状況、授業における発言、プレゼンテーションやレポートなどの内容から総合的に評価する。

■使用教材

テキスト

- ・楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)―特別活動指導資料 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

参考図書

- ・小学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省
- ・中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省
- ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校 特別活動 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育出版
- ・自分を鍛え、集団を創る!特別活動の教育技術(教育単行本) 杉田 洋
- ・よりよい人間関係を築く特別活動 杉田 洋 図書文化社
- ・新しい時代の特別活動 相原次男他 ミネルヴァ書房
- ・特別活動 林尚示 培風館
- ・心を育て、つなぐ特別活動―道徳的实践へのアプローチ 杉田 洋 文溪堂
- ・心躍る特別活動 ～人間力を育む学級活動・生徒会活動・学校行事～ 赤坂 雅裕 文教大学出版部
- ・よくわかる学級ファシリテーション①―かかわりスキル編― 岩瀬 直樹 ちよん せいこ 解放出版社

その他の本も、随時、授業の中で紹介する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学級経営と子ども同士の関係づくり**■教員名** 田村 修一・関田 一彦**■授業概要**

前半では、様々な学級経営論(原理・方法)の概要および変遷について学び、それをふまえて現在の日本における小学校・中学校の学級経営の課題を把握する。後半では、小学校・中学校の学級経営に必要な「学級集団アセスメント」および「学級経営コンサルテーション」の理論と技法について演習(グループ学習)を通して学ぶ。さらに、今後の「学級経営」と「子ども同士の関係づくり」に生かせそうな心理学や協同学習分野での知見や新しい教育実践を紹介し、より良い学級経営のあり方と具体的実践方法について研究を深める。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <①本科目の概要と授業の進め方・評価法の説明> <②受講者各自の「学習目標の設定」および受講者同士の分かち合い> 【準備学習】事前にシラバスを読んでおく。
第2回	学級経営の原理・方法: 「主な学級経営論」の歴史的変遷に関する理論学習 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	小学校の学級経営の現代的課題(1)【学生のプレゼン】 【準備学習】プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第4回	中学校の学級経営の現代的課題(2)【学生のプレゼン】 【準備学習】プレゼンの準備。プレゼン内容の振り返り。
第5回	「マネジメント」の観点から学級経営を考える 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第6回	学びの中間振り返り および 今後の学習の再検討 【準備学習】これまでの学びのポートフォリオを準備する。
第7回	学級集団の育成(1) 学級アセスメント:「Q-U」「チーム援助シート」の活用 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第8回	学級集団の育成(2) 学級経営コンサルテーションの演習(小学校編)事例のアセスメント 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第9回	学級集団の育成(3) 学級経営コンサルテーションの演習(小学校編)事例の援助案の作成 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第10回	学級集団の育成(4) 学級経営コンサルテーションの演習(中学校編)事例のアセスメント 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。

第11回	学級集団の育成(5) 学級経営コンサルテーションの演習(中学校編) 事例の援助案の作成 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第12回	子ども同士の関係づくり(1)「学級力向上プロジェクト」 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第13回	子ども同士の関係づくり(2)学級経営の新しい手法「クラス会議」 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第14回	子ども同士の関係づくり(3)学級経営の新しい手法「プロジェクト・アドベンチャー」 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	子ども同士の関係づくり(4)学びの最終振り返り 【準備学習】事前に資料を読んでおく。今までのすべての学びのポートフォリオを準備する。

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>学級経営に関する基本的な理論と技法を身につけ、学校内の全教員に対して、効果的な学級経営のあり方や具体的な方法について指導・助言ができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>学級経営に関する基本的な理論と技法を身につけ、効果的な学級経営のあり方や具体的な方法について、同僚教員に適切な助言をすることができる。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>安定した学級経営ができるための基本的な理論と技法を身につける。</p>
--

■評価方法

「プレゼンテーション」「ポートフォリオ」「課題レポート」により、総合的に評価する。

■使用教材

河村茂雄 2010 『日本の学級集団と学級経営』 図書文化
田中博之 編 2014 『学級力向上プロジェクト』 金子書房
岡本 薫 2008 『教師のためのクラス・マネジメント入門』 日本標準
河村茂雄他 2004 『QUによる学級経営スーパーバイズ・ガイド』 図書文化
水野治久他 2013 『よくわかる学校心理学』 ミネルヴァ書房
ジェーン・ネルセン他 2000 『クラス会議で子どもが変わる：アドラー心理学でポジティブ学級づくり』(会沢訳、諸富解説) コスモス・ライブラリー
プロジェクト・アドベンチャー・ジャパン 2013 『クラスの力を生かす：教室で実践するプロジェクト・アドベンチャー』 みくに出版

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名

児童生徒理解・保護者理解

■教員名

田村 修一

■授業概要

日々の教育実践の中で、教師が自らの「人間観」「子ども観」「教育観」について考えを深めていくことは大変重要なことである。また、教師には児童生徒や保護者の援助ニーズを的確につかみ、効果的な指導・援助ができる技術（スキル）も必要である。このような児童生徒や保護者に対する「アセスメント能力」や「指導・援助サービスのスキル」の向上に役立つ学問として「学校心理学」がある。そこで、本科目は「学校心理学」の理論と技法を基盤として、児童生徒や保護者に対する「アセスメント能力」を高め、賢いアセスメントに基づいた「心理・教育的援助サービス」を学校で十分に展開できる能力を培う授業とする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <①本科目の概要と授業の進め方、評価法の説明> <②受講者各自の「学習目標の設定」および受講者同士の分かち合い> 【準備学習】事前にシラバスを読んでおく。
第2回	学校心理学概論（1） 児童（小学生）・生徒（中学生）の理解 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	学校心理学概論（2） 児童（小学生）・生徒（中学生）への指導・援助 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	教師自身のアセスメント（1）「人間観」「子ども観」「教育観」の省察 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第5回	教師自身のアセスメント（2）教師と児童生徒の人間関係（RCRTの活用） 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第6回	教師自身のアセスメント（3）アンガー・マネジメント 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第7回	教師自身のアセスメント（4）メンタルヘルス・マネジメント 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第8回	児童生徒のアセスメント（1）「リフレーミング」の活用 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第9回	児童生徒のアセスメント（2）「知能検査（WISC-IV）」の理論学習 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第10回	児童生徒のアセスメント（3）「知能検査（WISC-IV）」を活用した支援 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第11回	児童生徒のアセスメント（4）「知能検査（DAM）」の活用 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。

第12回	児童生徒のアセスメント（5）「描画テスト（バウムテスト）」の活用 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第13回	保護者のアセスメント（1）「エゴグラム」の活用（養育者の特性を知る） 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第14回	保護者のアセスメント（2）「保護者の苦情」の理解 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	保護者のアセスメント（3）「保護者の苦情」の対応（演習：ロール・プレイ） 【準備学習】事前に資料を読んでおく。討議の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補）

児童生徒や保護者をより良く理解し、効果的な指導・援助を行うために学校心理学の基礎的理論と技法を習得する。また、児童生徒や保護者の様々な考えや思い・学校への要望に対する柔軟な対処能力を身につけ、保護者とのより良い関係づくりの技能も併せて習得し学校内の教職員に適切に指導・助言できる。

（現職教員）

児童生徒や保護者をより良く理解し、効果的な指導・援助を行うために学校心理学の基礎的理論と技法を習得する。また、児童生徒や保護者の様々な考えや思い・学校への要望に対する柔軟な対処能力を身につけ、保護者とのより良い関係づくりの技能も併せて習得する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

児童生徒や保護者をより良く理解できる能力や感受性を培い、学校心理学の基礎的理論と技法の習得、ならびに保護者の学校への要望に対して柔軟に対応できる技能を習得する。

■評価方法

①授業や演習への参加態度、②授業の振り返りレポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 2013 『よくわかる学校心理学』
ミネルヴァ書房

F・コルトハーヘン 2010 『教師教育学：理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』（武田信子・今泉友里 訳）学文社

近藤邦夫 1994 『教師と子どもの関係づくり：学校の臨床心理学』 東京大学出版会

石隈利紀他 2013 『生涯学習の中のカウンセリングⅡ：子どもと学校を援助するカウンセリング』 サイエンス社

上野一彦他 2015 『日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメント：代表的な指標パターンの解釈と事例紹介』 日本文化科学社

C. コッホ 1970 『バウム・テスト：樹木画による人格診断法』 日本文化科学社

イアン・スチュアート 2015 『エリックバーンの交流分析』（日本交流分析学会 訳）実
業之日本社
小野田正利 2006 『悲鳴をあげる学校：親の“イチャモン”から“結びあい”へ』
旬報社

■授業で使用する言語

（日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他）

学校教育と教員の在り方に関する領域

■科目名 **世界市民教育を推進する学校と教員の役割（オムニバス）**

■教員名 **坂本 辰朗 / 山崎 めぐみ / 三津村 正和**

■授業概要

本科目は、「世界市民とは」「世界市民を育てる教育とは」といった問いに対して、理論と実践の両側面から迫り、「世界市民教育」を学校教育において推進する上での教員の役割について考察することを主な目的とする。

また本科目は、3名の教員からなるオムニバス形式として、それぞれの教員の専門分野に応じた討議や演習など種々の授業形態によって提供される。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション 【準備学習】シラバスを読む。 (坂本・山崎・三津村)
第2回	「世界市民」の探究 (1)：グローバル化する世界 【準備学習】調べ学習及び課題文献を読む。 (三津村)
第3回	「世界市民」の探究 (2)：「世界市民」の概念化 【準備学習】調べ学習及び課題文献を読む。 (三津村)
第4回	「世界市民」の探究 (3)：国際社会における子どもの人権 【準備学習】「子どもの権利条約」を読み、報告に備える。 (三津村)
第5回	「世界市民」の探究 (4)：偏見・差別の構造、マイリティ文化 【準備学習】配布資料を読み、発表に備える。 (三津村)
第6回	「世界市民」の探求 (5)：知識としての人権教育 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。 (山崎)
第7回	「世界市民」の実践 (1)：実践としての人権教育 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。 (山崎)
第8回	「世界市民」の実践 (2)：持続可能な開発目標と教育 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。 (山崎)
第9回	「世界市民」の実践 (3)：世界市民教育とユネスコスクール 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。 (山崎)
第10回	「世界市民」の実践 (4)：世界市民教育の実践案 【準備学習】世界市民教育の実践案を考え発表に備える。 (山崎)
第11回	「世界市民とその教育」の近未来 (1)：グローバル化の歴史的位相 【準備学習】課題文献を読み、討議に備える。 (坂本)
第12回	「世界市民とその教育」の近未来 (2)：想像力の開花のための教育 【準備学習】課題文献を読み、報告に備える。 (坂本)
第13回	「世界市民とその教育」の近未来 (3)：大学の教育は何ができるのか。 【準備学習】課題文献を読み、報告に備える。 (坂本)

第14回	「世界市民とその教育」の近未来(4)：規範は復権できるのか。 【準備学習】課題文献を読み、報告に備える。(坂本)
第15回	コース総括 【準備学習】総括的討議に備える。(坂本)

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>グローバル化の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるか、教育行政、学校管理者として取り組むべき課題を把握し、対応する力を身につける。</p> <p>(現職教員)</p> <p>グローバル化の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるかを理解し、学級経営、授業、特別活動などの改善を図る協同的な取り組みを実行する指導力を身につける。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>グローバル化の中で、学校と教員の役割がどのように変貌しつつあるかを理解し、学級経営、授業、特別活動などの改善を図り実行する力を身につける。</p>
--

■評価方法

現代の学校と教員の役割が、グローバル化の中で、どのように変貌しつつあるか、授業で取り上げた基礎概念を使用しつつ説明できるか、授業における報告内容、レポート、プレゼンテーションにおける内容を総合して評価する。

■使用教材

授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間的成長に関する理論と実践**■教員名** 長島 明純**■授業概要**

人間的成長に関する発達心理学や精神分析等の知見、自己理解を深める演習等の学びを通して、児童生徒やその保護者への理解を深めると共に、教員としての自らの生き方・在り方についても検討する。各々の人間観・教育観を深めながら、現在の学校教育の課題を克服するための方途を探る。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	授業のねらいや全授業の流れ、進め方等オリエンテーションする。本授業に関する受講者の関心や課題意識について意見を表明してもらう。生物としての人間という視点を踏まえ、意識・無意識について概説する。これらの知見を参考にしながら、各人の基本的な人間観を広げる。 【準備学習】本授業に関する関心や問題意識を整理しておく。人間的な成長とは何か発達との関係も含め考えておく。本授業内容を振り返る。
第2回	家と木と人を描く HTP 法で絵を描く。演習を通して、演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第3回	人間の脳の特性について概説する。これらの知見を参考にしながら、自己理解や他者理解、自己受容や他者受容の難しさについて検討する。これらの知見を参考にしながら、対人的対応で配慮すべき点など検討する。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第4回	誘発線法(簡単な四つのマークを一部に使った絵を描く)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第5回	基本的信頼関係と愛着、自立と依存、世代間伝達の問題を、発達心理学や精神分析の母子相互作用やグッドイナフマザー等の知見を紹介しながら概説する。私の成立に関係する一者の世界、二者の世界に関係する、外的対象と内在化、内的対象と対象恒常性等の精神分析の知見を紹介する。これらの知見を参考にしながら、虐待を受けた児童生徒への対応における配慮について検討する。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第6回	相互互なぐり描き法(一人が紙になぐり描きをし、続いてもう一人が、そのなぐり描きの線から連想した絵を描くのを、順序を交替して数回繰り返す)で描いた絵を用いて物語を作る演習を行う。 【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。

<p>第7回</p>	<p>私の成立に関係する三者の世界について、情動の共有、情動的コミュニケーションと知的コミュニケーション、共同注視、世界の敷き写し等の発達心理学の知見を紹介しながら概説する。発達心理学の一次的なことばと二次的なことばについての知見等も紹介する。これらの知見を参考にしながら、中間的な媒介を活用した、人間関係づくりの工夫について検討する。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第8回</p>	<p>風景構成法(川や山等の風景のアイテムを指示された順番に描いていく)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第9回</p>	<p>分析心理学のシャドーや個性化等の知見を紹介し、人間的成長についての視点を豊かにする。分析心理学の元型の概念に関連する母なるもの・父なるものや内なる子ども等の知見も紹介する。また嫌なもの処理に関する、精神分析の防衛や転移、抑圧や乖離等の知見も紹介し、人間的成長に関する理解を深める。その際、精神分析の投影や取り入れ、巻き込み等の知見等も紹介する。これらを参考にしながら、学級や教職員の集団づくりで配慮すべき点など検討する。</p> <p>【準備学習】自分にとって苦手なものについて整理しておく。</p>
<p>第10回</p>	<p>コラージュ法(自分で選んだ雑誌や広告等から写真や絵等を切抜き、台紙に貼る)と相互コラージュ法(自分が選んだ雑誌や広告等から、自分がほしだいだろうと思う写真や絵等を相手が選ぶ。その選んだくれた切抜きの幾つかを台紙に貼る。)の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。コラージュ法で使う雑誌等を集めておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第11回</p>	<p>特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第12回</p>	<p>特別講師による「自己成長と気づき」の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第13回</p>	<p>個人の無意識や集団の無意識に関して、言葉を支えていると想定されている意味野な概説する。無意識と文化の問題についても言及する。これらの知見を参考にしながら、保護者が外国人である児童生徒への対応で配慮すべき点など検討する。</p> <p>【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。</p>
<p>第14回</p>	<p>合同箱庭法の演習を通して自己省察を行い、自分自身の教師としての人間的成長及び今後の教育の在り方を考える。</p>

	【準備学習】前回の授業の内容を整理しておく。本授業内容を振り返る。
第15回	これまでの授業で制作した作品を持ち寄り、一人一人がこれまでの本授業での学びを報告し分かち合う。それらを整理し、本授業の内容を振り返る。 【準備学習】全授業を振り返り、ここでの学びを整理しておく。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- ・人間的成長に関する諸課題について整理し理解を深めるとともに、教育の場での児童生徒への指導助言について、専門性をもって他の教員に対して適切に指導助言することができる。
- ・人間的成長という視点から教育実践等を深く考察し、現場の対応について他の教員に専門性をもって適切に指導助言できる。

(現職教員)

- ・人間的成長に関する諸課題について整理し理解するとともに、教育の場での児童生徒への指導助言について、他の教員に対して提案することができる。
- ・人間的成長という視点から教育実践等を適切に考察し、現場の対応について他の教員に提案したり助言したりすることができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・人間的成長に関する諸課題について理解するとともに、教育の場での児童生徒への指導助言等に生かすことができる。
- ・人間的成長という視点から教育実践等を考察し、現場の対応に適切に生かすことができる。

■評価方法

- (1)授業の中での質問・協議への参画状況。
- (2)人間的成長に関する諸問題についての講義や協議(ワークショップ)を踏まえたレポートの充実度。

■使用教材

※ 教科書は使用しない。随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりする。

参考図書

小此木啓吾・河合隼雄著『フロイトとユング』(講談社学術文庫)、講談社、886円。

三木成夫著『生命とリズム』(河出書房新書)、河出書房新社 918円。

浜田寿美男著『「私」とは何か』(講談社選書メチエ)、講談社、1944円。

河合隼雄『コンプレックス』(岩波新書)岩波書店、886円。

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名

教員研修実務研究

■教員名

渡辺 秀貴 ・ 大久保 敏昭

■授業概要

教員研修の歴史・目的・内容・方法・運営・評価に関する理論と技法について、講義や演習を通して学び、各種教育委員会(東京都・八王子市)が主催する教員研修の実務経験を通し、教員研修に関する学びを深める。リーダーコースは所属校での経験を生かす研修とする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	・オリエンテーション(本授業の概要と進め方、評価方法についての説明) ・教員研修の歴史と今日的課題の概要
第2回	・教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討① 校内研修・研究の現状 【準備学習】事前配布資料を読み、自分の考えを整理しておく。
第3回	・教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討② 履修者のレポートを基にした協議・講話 【準備学習】分担に基づき、所属校等の校内研修・資料等をまとめてくる。
第4回	・教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討③ 履修者のレポートを基にした協議・講話 【準備学習】分担に基づき、所属校等の校内研修・資料等をまとめてくる。
第5回	・八王子市教育委員会における研修事業の概要(ゲスト講師による講義)
第6回	・教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討④ 履修者のレポートを基にした協議・講話 【準備学習】分担に基づき、所属校等の校内研修・資料等をまとめてくる。
第7回	・東京都教職員研修センターにおける研修事業の概要(ゲスト講師による講義)
第8回	・教員研修の今日的課題 校内研修・事例検討⑤ 履修者のレポートを基にした協議・講話 【準備学習】分担に基づき、所属校等の校内研修・資料等をまとめてくる。
第9回	・八王子市教育センターにおける実務研修① 【復習】研修記録を書く。
第10回	・八王子市教育センターにおける実務研修② 【復習】研修記録を書く。
第11回	・八王子市教育センターにおける実務研修③ 【復習】研修記録を書く。
第12回	・東京都教職員研修センター等における実務研修① 【復習】研修記録の作成及び校内研修案の作成

第13回	・東京都教職員研修センター等における実務研修② 【復習】研修記録の作成及び校内研修案の作成
第14回	・東京都教職員研修センター等における実務研修③ 【復習】研修記録の作成及び校内研修案の作成
第15回	・実務研修の成果と課題についてのレポート作成 【準備学習】校内研修案の作成とプレゼン資料の作成

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

実務的な教員研修・研究の学びを通してこれまでの経験を整理し、校長・副校長・指導主事として、総合的な立場から教員研修を計画し、運営する能力を身に付ける。

(現職教員)

スクールリーダーとして、学校の実態を的確に把握し、同僚の教員たちの実践的指導力を高める校内研修を計画し、運営する能力を身に付ける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教員研修の目的・内容・方法・運営・評価について理解し、校内研修を計画・運営するための基礎的知識・技能を身に付ける。

■評価方法

授業への取り組み姿勢、リアクションペーパー、校内研修案や討議、プレゼン、学期末レポートなどを通して総合的に評価する。

■使用教材

「教師の発達と力量形成」山崎準二(2012)

「授業研究と校内研修—教師の成長と学校づくりのために—」日本教育方法学会編(2014)

「教師の育ちと仕事はどう変わるのか」日本教師教育学会年報(2016)

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教員の服務等と教育法規**■教員名** 井上 伸良**■授業概要**

教育法制に関する最近の文献を講読して基礎的、行政実務的理解を図る。そのうえで、教員の服務や関連テーマにおける判例の検討を行う。判例を通して、教員として起こりうる服務上の法的な問題点について理解を深められるようにする。判例については、『季刊教育法』や『教育判例読本』などを参考にしながら、判例集にあたることを求める。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	・シラバスの説明、自己紹介、科目テーマに関する要望、報告分担 【準備学習】シラバスを確認して、自分の関心のあるテーマの判例を探す。
第2回	・基本文献講読① 【準備学習】基本文献の該当箇所を読んでくる。
第3回	・基本文献講読② 【準備学習】基本文献の該当箇所を読んでくる。
第4回	・基本文献講読③ 【準備学習】基本文献の該当箇所を読んでくる。
第5回	・基本文献講読④ 【準備学習】基本文献の該当箇所を読んでくる。
第6回	・基本文献講読⑤ 【準備学習】基本文献の該当箇所を読んでくる。
第7回	東京都「使命を全うする！～教職員の服務に関するガイドライン～」の検討 【準備学習】同ガイドラインを読んでくる。
第8回	坂田仰『学校と法』第1章、最終章 ―学校の法化現象に関する理解― 【準備学習】文献の該当箇所を読んでくる。
第9回	坂田仰『学校と法』第13章 ―教員の非違行為に関する理解(上)― 【準備学習】文献の該当箇所を読んでくる。
第10回	坂田仰『学校と法』第14章 ―教員の非違行為に関する理解(下)― 【準備学習】文献の該当箇所を読んでくる。
第11回	判例検討① 地方公務員法第32条関連の判例検討 【準備学習】教育六法で第32条について、判例や通知を含め予習すること。
第12回	判例検討② 地方公務員法第33条関連の判例検討 【準備学習】教育六法で第33条について、判例や通知を含め予習すること。
第13回	判例検討③ 地方公務員法第36条関連の判例検討 【準備学習】教育六法で第36条について、判例や通知を含め予習すること。
第14回	判例検討④ 地方公務員法第37条関連の判例検討 【準備学習】教育六法で第37条について、判例や通知を含め予習すること。

第15回	まとめ 【準備学習】 これまでの授業内容とポイントを見直して参加すること。
-------------	---

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

学校管理職、教育行政職として必要な法規を確認し、管理職・行政職として求められる能力を理解する。学校現場で発生しうる法的トラブルについて、判例を通して理解する。

(現職教員)

上記に同じ。

◇人間教育プロフェッショナルコース

学校経営上、理解すべき諸テーマの概要と現状について理解を深める。

■評価方法

発表資料や発表中の態度 50 点、授業参加の貢献度 50 点で評価する。

■使用教材

- ・前川喜平・寺脇研『これからの日本、これからの教育』ちくま書房、2017 年
- ・東京都「使命を全うする！～教職員のサービスに関するガイドライン～」2017 年
- ・坂田仰編著『学校と法』(改訂版)放送大学教育振興会、2016 年
- ・『解説教育六法』三省堂(最新年度版)

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **教育実践研究方法 I (オムニバス形式)**

■教員名 **田村 修一 / 三津村 正和**

■授業概要

本科目は、教育実践を対象とした研究法の習得を目的とする。具体的には、「量的研究法」(主に調査研究法、実験研究法)及び「質的研究法」について、講義や演習を通してその概要を学ぶ。これらの学びを通して、自らの教育実践をきちんと研究的視点から省察できる力量を培う授業としたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <①本科目の概要と授業の進め方、評価法の説明> <②「教育実践研究」に関する担当教員からの問題提起> 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。(田村・三津村)
第2回	研究倫理 (三津村 1) ①研究倫理の基本的考え方 ②創価大学教職大学院「人を対象とする研究倫理」審査申請書の概要と書き方の説明 【準備学習と復習】資料を読んてくる。
第3回	質的研究(1):質的研究のデザイン (三津村 2) ① 質的研究とは ②研究の着想から記述まで 【準備学習と復習】 <u>プレゼンテーション</u> に備える。
第4回	質的研究(2):質的データの収集 (三津村 3) ① 質的インタビュー調査の特徴と方法 ②半構造化インタビュー 【準備学習と復習】配布資料を読み、課題を達成する。
第5回	質的研究(3):質的研究例 (三津村 4) ① エスノグラフィー ②アクションリサーチ 【準備学習と復習】配布資料を読み、課題を達成する。
第6回	質的研究(4):M-GTAの理解 (三津村 5) 【準備学習と復習】配布資料を読み、課題を達成する。
第7回	質的研究(5):定性的コーディング (三津村 6) 【準備学習と復習】配布資料を読み、課題を達成する。
第8回	質的研究(6):Q&A、総括的討議 (三津村 7) 【準備学習と復習】 <u>プレゼンテーション</u> に備える。
第9回	教師が行う「教育実践研究」の意義・目的・方法 (田村 1) ①研究と研修の相違 ②教育学研究と教育実践研究の相違 ③サイエンティスト・プラクティショナー・モデル ④質的研究と量的研究の相違 ⑤先行研究レビューの重要性

	【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第10回	調査研究法（1）（田村2） ①質問紙調査・インタビュー調査 ②質問紙調査研究のプロセス ③質問紙の作成 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第11回	調査研究法（2）（田村3） ①尺度構成 ②尺度の信頼性と妥当性 ③調査データの量的分析 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第12回	実験研究法（1）（田村4） ①実験デザインとは ②実験研究のプロセス ③実験データの量的分析 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第13回	実験研究法（2）（田村5） （演習）実験研究のデザイン作成 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第14回	「文書データ」の量的分析（KH・Corderの活用）（田村6） 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第15回	「量的研究法（実験研究・調査研究）」を用いた論文の書き方（田村7） ①科学論文の条件 ②論文の構造と書き方 ③統計データの記述法 【準備学習と復習】事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補）

教育実践を対象とした授業分析法・量的研究法・質的研究法に関する理論・技能を習得するとともに、他の教職員に適切に教育実践研究に関する指導・助言ができる。

（現職教員）

教育実践を対象とした授業分析法・量的研究法・質的研究法に関する理論・技能を習得する。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教育実践を対象とした授業分析法・量的研究法・質的研究法に関する理論・技能を習得する。

■評価方法

①毎回の授業への参加態度 ②課題レポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

【田村 担当】

『心理学マニュアル・質問紙法』鎌原雅彦他 著 北大路書房 1998年

『質問紙調査と心理測定尺度』宮本聡介・宇井美代子 編 サイエンス社 2014年

【三津村 担当】 ※下記、購入の必要なし。

『はじめての質的研究法』 能智正博(監), 秋田喜代美ら(編), 東京図書, 2007年
『ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版「ラウンデッド・セリア・アプローチすべて」』 木下康仁
著, 弘文堂, 2007年
『質的データ分析法—原理・方法・実践』 佐藤郁哉 著, 新曜社, 2008年
『教育研究のための質的研究法講座』 関口靖広 著, 北大路書房, 2013年

※他、適宜プリントを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

教育実践研究方法Ⅱ

■教員名

田村 修一 ・ 鈴木 詞雄

■授業概要

本科目では、前半は統計の基礎理論および主要な量的分析方法について、統計解析ソフト(SPS S)の演習を通して学ぶ。後半は、受講者の教職課題研究論文に関する収集データを用いて、統計分析を実際に行う(個別指導)。尚、受講者の希望があれば「多変量解析(因子分析など)」も指導する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション ①本科目の概要と授業の進め方、評価法の説明 ②受講者の「教職課題研究論文」テーマと進捗状況の確認(1) (討議) 【準備学習と復習】 シラバスおよび事前に配布される資料を読んでおくこと。
第2回	受講者の「教職課題研究論文」テーマと進捗状況の確認(2) (討議) 【準備学習と復習】 自分の研究の進捗状況報告メモを用意しておく。
第3回	統計学の基礎 ①記述統計と推測統計 ②統計の基礎用語の理解 (講義) ③仮説検定 ④主要な統計分析法の理解 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。講義内容の振り返り。
第4回	統計解析ソフト(SPSS)の演習(1) データ入力とデータ加工 (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習内容の振り返り。
第5回	統計解析ソフト(SPSS)の演習(2) (演習)① χ^2 (カイ)二乗検定 ②相関分析 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習内容の振り返り。
第6回	統計解析ソフト(SPSS)の演習(3) (演習) ①t検定 ②一要因分散分析(繰り返しのない) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習内容の振り返り。
第7回	統計解析ソフト(SPSS)の演習(4) (※受講者の希望があれば実施) 多変量解析(①二要因分散分析 ②重回帰分析 ③因子分析) (演習) 【準備学習と復習】 事前に資料を読んでおく。演習内容の振り返り。
第8回	データ処理(個別指導)(1) (演習) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。
第9回	データ処理(個別指導)(2) (演習) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。
第10回	データ処理(個別指導)(3) (演習) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。
第11回	データ処理(個別指導)(4) (演習) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。

第12回	データ処理(個別指導)(5) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。	(演習)
第13回	データ処理(個別指導)(6) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。	(演習)
第14回	データ処理(個別指導)(7) 【準備学習と復習】 分析用データの準備。指導・助言内容の振り返り。	(演習)
第15回	学びの振り返り 【準備学習と復習】 指導・助言を教職課題研究論文の仕上げにいかす。	(討議)

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育実践を対象とした量的研究法(調査・実験)の理論と分析法を習得するとともに、校内研究において他の教職員にも適切に指導・助言ができる。

(現職教員)

教育実践を対象とした量的研究法(調査・実験)の理論と分析法を習得する。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教育実践を対象とした量的研究法(調査・実験)の理論と分析法を習得する。

■評価方法

①毎回の授業への参加態度、②統計理論の理解、データ分析の技能を総合的に評価する。

■使用教材

『SPSSによる統計処理の手順(第7版)』石村貞夫・石村光資郎 著 東京図書 2013年

『超初心者向けSPSS統計解析マニュアル』米川和雄他 著 北大路書房 2010年

『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第2版』小塩真司 著 東京図書 2011年

『心理学マニュアル質問紙法』鎌原雅彦他 著 北大路書房 1998年

『心理尺度のつくり方』村上宣寛 著 北大路書房 2006年

『教育実践データの統計分析』奥村太一 著 共立出版 2012年

『よくわかる心理統計』山田剛史・村井潤一郎 著 ミネルヴァ書房 2004年

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教育実践研究方法Ⅱ（質的研究）**■教員名** 三津村 正和**■授業概要**

本科目は、「教職課題研究論文」において、質的研究の採用を予定している学生がインタビュー等によって収集したデータを、どのように整理・解析し、質的研究論文としてまとめていくのかについて、実践的に学ぶためのコースである。第7回目までは、質的研究の理論について講義・演習を通しながら学び、第8回目以降は、履修者自ら収集したデータを持ち寄り、その解析にあたる（個別指導、履修者全員による協働作業として）。

なお、シラバス内容に変更がある際は、第1回目の授業において説明する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回 (9/16)	オリエンテーション：本科目の概要説明、履修者の「教職課題研究論文」のテーマ及び進捗状況の確認① 【準備学習と復習】シラバスを読んでおくこと。
第2回 (9/23)	質的研究(1)：質的研究とは何か（前期の復習） 【準備学習と復習】配布資料を読んでおく。前時の講義内容の振り返り。
第3回 (9/30)	質的研究(2)：質的研究における多様な研究手法と解析方法 【準備学習と復習】配布資料を読んでおく。前時の講義内容の振り返り。
第4回 (10/14)	質的研究(3)：質的データ解析①（コーディング） 【準備学習と復習】配布資料を読んでおく。前時の講義内容の振り返り。
第5回 (10/21)	質的研究(4)：質的データ解析②（カテゴリー化、構造図の作成） 【準備学習と復習】配布資料を読んでおく。前時の講義内容の振り返り。
第6回 (10/28)	質的研究(5)：質的データ解析③（ストーリーライン、記述的整理） 【準備学習と復習】配布資料を読んでおく。前時の講義内容の振り返り。
第7回 (11/4)	第6回までの振り返り、履修者の「教職課題研究論文」のテーマ及び進捗状況の確認② 【準備学習と復習】進捗状況の報告に備える。
第8回 (11/11)	データ解析（個別解析補助・協働解析）(1) 【準備学習と復習】解析用データの準備。助言内容の振り返り。
第9回 (11/18)	データ解析（個別解析補助・協働解析）(2) 【準備学習と復習】解析用データの準備。助言内容の振り返り。
第10回 (11/25)	データ解析（個別解析補助・協働解析）(3) 【準備学習と復習】解析用データの準備。助言内容の振り返り。
第11回 (12/2)	データ解析（個別解析補助・協働解析）(4) 【準備学習と復習】解析用データの準備。助言内容の振り返り。

第12回 (12/9)	データ解析（個別解析補助・協働解析）（5） 【準備学習と復習】解析用データの準備。助言内容の振り返り。
第13回 (12/16)	データ解析（個別解析補助・協働解析）（6） 【準備学習と復習】解析用データの準備。助言内容の振り返り。
第14回 (12/23)	データ解析（個別解析補助・協働解析）（7） 【準備学習と復習】解析用データの準備。助言内容の振り返り。
第15回 (1/6)	学びの振り返り 【準備学習と復習】「教職課題研究論文」を仕上げる。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補）

質的調査研究法の理論と分析法を習得するとともに、他の教職員にも適切に指導・助言ができる。

（現職教員）

質的調査研究法の理論と分析法を習得する。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

質的調査研究法の理論と分析法を習得する。

■評価方法

①毎回の授業への参加態度、②課題の達成、等により、総合的に評価する。

■使用教材

『はじめての質的研究法』能智正博(監), 秋田喜代美ら(編), 東京図書, 2007年

『ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版 グラウンデッド・セリアー・アプローチすべて』木下康仁著, 弘文堂, 2007年

『質的データ分析法—原理・方法・実践』佐藤郁哉 著, 新曜社, 2008年

『教育研究のための質的研究法講座』関口靖広 著, 北大路書房, 2013年

※その他、適宜プリントを配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **学習指導の方法研究 I (A, B, C グループ)**

■教員名 **(A)石丸憲一・大久保敏昭(B)大関健道・鈴木詞雄(C)渡辺秀貴・三津村正和**

■授業概要

教師として身に付けるべき基本、学習指導の進め方の基本・授業研究の基本、そして、学級経営の基本等を学ぶとともに、教職大学院での自身の研究テーマを明確にし、後期からの「実習研究」に備える。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介／シラバス確認／実習研究について／教師として身につけるべき基本について（実習に関わる評価基準表）／学習目標の設定／他
第2回	教師として身に付けるべき能力についての討議①（内容：教育課程、形態：小中別→全体） 【準備学習】「教育課程に関する総合的な実習」を自己評価し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第3回	教師として身に付けるべき能力についての討議②（内容：教科指導等、形態：小中別→全体） 【準備学習】「教科等の指導に関する総合的な実習」を自己評価し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第4回	教師として身に付けるべき能力についての討議③（内容：生徒指導等、形態：小中別→全体） 【準備学習】「生徒指導、教育相談等に関する総合的な実習」を自己評価し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第5回	教師として身に付けるべき能力についての討議④（内容：学級経営・学校経営、形態：小中別→全体） 【準備学習】「学級経営・学校経営に関する総合的な実習」を自己評価し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第6回	教師として身に付けるべき能力についての討議⑤（内容：教員の勤務等、形態：小中別→全体） 【準備学習】「学校教育と教員の在り方に関する総合的な実習」を自己評価し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第7回	教師として身に付けるべき能力についての討議⑥（まとめ、形態：小中別→全体） 【準備学習】「ルーブリック自己評価」を作成し、課題を明確にするとともに対策について考える。授業内容を振り返る。
第8回	実習研究と教育実習の違いについての討議（前年度経験者参加） 【準備学習】昨年度の実習研究を経験した先輩への質問を考える。授業内容

	を振り返る。
第9回	個人の研究テーマと研究計画①（教科指導等の領域を中心に） プレゼン→質疑応答 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第10回	個人の研究テーマと研究計画②（道徳、特活領域を中心に） プレゼン→質疑応答 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第11回	個人で作成した教科等の指導案（総案）検討①（国語、算数、理科、社会、生活、外国語）を中心に） プレゼン→討議 【準備学習】研究授業を想定した教科の学習の教材研究⇒指導案作成に向けた取り組み。授業内容を振り返る。
第12回	個人で作成した教科等の指導案（総案）検討②（音楽、図工・美術、家庭・技家、体育を中心に） プレゼン→討議 【準備学習】研究授業を想定した教科の学習の教材研究⇒指導案作成に向けた取り組み。授業内容を振り返る。
第13回	個人の研究テーマと研究計画③（学校経営・学級経営領域を中心に） プレゼン→質疑応答 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第14回	個人の研究テーマと研究計画④（生徒指導領域を中心に） プレゼン→質疑応答 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。
第15回	個人で作成した教科等の指導案（総案）検討③（道徳、特活、総合を中心に） プレゼン→討議 【準備学習】個人の研究テーマと研究計画の作成。授業内容を振り返る。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補）

（現職教員）

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職の専門性を理解し、その資質としての個人的職能と組織的職能を高め、望ましい教師の在り方を身に付けることができる。

■評価方法

「教師として身に付けるべき能力」等についての討議や、指導案作成・プレゼン等をおして、総合的に評価する。

■使用教材

適宜、提供・配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **学習指導の方法研究Ⅱ(A, B, C, Dグループ)**

■教員名 (A)吉川・大関・三津村(B)田村・宮崎・渡辺(C)長島・石丸・山崎(D)関田・大久保・鈴木

■授業概要

前期の「学習指導の方法研究Ⅰ」で学んだことの実践版が本授業での内容である。
 「実習研究Ⅰ・Ⅱ」ならびに「実習研究Ⅲ」の期間でもあり、実習中の課題（例—子供対応、学習指導の進め方、授業研究の在り方 等）を浮き彫りにし、自身の研究テーマとの関連を明確にする。なお、本授業の期間は、原則として、実習研究Ⅱ・Ⅲを終えるまでとする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方等について話し合う） ＊授業の内容を工夫する—例えば、15回の半分程度は、担当教員だけの指導（個別指導）としたり、毎回30～45分程度を個別指導に当てたり等。 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第2回	実習中の課題についての小中グループ別討議①（子供対応を中心に） 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第3回	実習中の課題についての小中グループ別討議②（学習指導の進め方を中心に） 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第4回	実習中の課題についての小中合同討議③（授業研究を中心に） 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第5回	実習中の課題についての討議④（全体的な振り返りをする） 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第6回	授業研究①—小中グループ別交流・討議（国語、算数・数学を中心に） —極力、ビデオ・逐語記録を基に行う— 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。
第7回	授業研究②—小中グループ別交流・討議（社会、理科、生活を中心に） —極力、ビデオ・逐語記録を基に行う— 【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。

第8回	<p>授業研究③—小中合同交流・討議（音楽、図工・美術、家庭・技家、体育、外国語、総合を中心に）</p> <p>—極力、ビデオ・逐語記録を基に行う—</p> <p>【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。</p>
第9回	<p>授業研究④—小中合同交流・討議（道徳、特活を中心に）</p> <p>—極力、ビデオ・逐語記録を基に行う—</p> <p>【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備等。本授業内容を振り返る。</p>
第10回	<p>今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討①（国語、算数・数学を中心に）</p> <p>【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。</p>
第11回	<p>今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討②（社会、理科、生活を中心に）</p> <p>【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。</p>
第12回	<p>今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討③（音楽、図工・美術、家庭・技家、体育を中心に）</p> <p>【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。</p>
第13回	<p>今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討④（外国語、総合を中心に）</p> <p>【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。</p>
第14回	<p>今後、実習中に行う予定の授業と個人の研究テーマとを関連づけた教材研究・指導案検討⑤（道徳、特活を中心に）</p> <p>【準備学習】所定のフォーマットに1週間の実習記録を作成。実習での授業等の計画、準備、研究の見通し等。本授業内容を振り返る。</p>
第15回	<p>まとめ</p> <p>【準備学習】本授業内容と実習全般を振り返る。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補）

自らの実践を客観的に考察し相対化することを通して、専門性の向上・改善を図ることができる教員を育成するために、学校や他の教育関係機関における実践・研究をふまえつつ、指導・助言をすることができる。

(現職教員)

学校や他の教育関係機関において、自らの教育実践とは異なる実践を客観的に観察したり体験・参画したりすることにより、自らの実践を相対化し、教員としての専門性を向上・改善することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教育実習中の種々の事例や学習指導を通して、教師としての資質を身に付けるとともに、自身の研究テーマと関連付けて研究を深めることができる。

■評価方法

事例研究、授業研究、教材研究・指導案検討、研究テーマの発表等を通して、総合的に評価する。

■使用教材

適宜、提供・配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名**学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進 I****■教員名****宮崎 猛 ・ 平井 康章****■授業概要**

本授業「家庭・地域の連携とキャリア教育の推進 I・II」では学校、家庭、地域の連携とキャリア教育のあり方について実践上の立場から考察する。このうち「I」では学校、家庭、地域（以下三者）の連携に焦点をあて、三者が連携することの今日的意義と課題を理論的な側面、制度的な側面、歴史的な側面から考察する。その上で、今日、学校、家庭、地域が連携している事例を実地踏査などを含めて調査し、その内容、方法、意義、課題等について分析する。

本授業進行の過程で、キャリア教育の方法原理、アクティブラーニングの本質として位置づけることができるPBL（プロジェクトベースラーニング）やSL（サービスマーケティング）などについても参加者の関心に応じて扱っていきたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>学校・家庭・地域が連携することの意義や必要性</p> <p>現代の社会的課題、教育的課題と三者の連携について授業者のレクチャーによる問題提起を行う。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、不明な点等を事前に調査し、理解を進めるとともに、自らの問題意識に依拠しつつ、本授業において明らかにすべき課題を明確にすること。</p>
第2回	<p>学校・家庭・地域が連携にかかわる教育施策</p> <p>「開かれた学校」「コミュニティスクール」など、学校・家庭・地域が連携にかかわる教育施策について校種別(小学校・中学校)に検討する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項―「開かれた学校」「コミュニティスクール」等について、事前に調査する。</p>
第3回	<p>学校・家庭・地域の連携にかかわる理論的考察、歴史的考察</p> <p>デューイやオルセン等の諸文献、郷土教育などを事例を通して学校・家庭・地域の連携にかかわる理論について考察する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項―デューイやオルセン等の諸文献について、事前に必要箇所を読んでおく。</p>
第4回	<p>学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の関係について</p> <p>キャリア教育の概念、意義、内容などを把握した上で、校種別に分かれ、キャリア教育と学校・家庭・地域の連携の関係について考察する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項―キャリア教育について、事前に調査を行う。</p>

<p>第5回</p>	<p>学校・家庭・地域の連携にかかわる事例研究 コミュニティスクールや学校運営協議会などについての事例研究を小中校種別に分かれて行う。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項ーコミュニティスクールや学校運営協議会について、事前に調査を行う。</p>
<p>第5～7回</p>	<p>フィールドワーク(学校・家庭・地域の連携の実際) コミュニティスクールや学校運営協議会などの実地調査(フィールドワーク)を行う。具体的には八王子近郊の小学校と中学校を調査対象とし、全員が小学校、中学校を訪問し、小中接続の状況等についても視察するものとする。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項ー訪問先の小学校ならびに中学校について、教育目標やカリキュラムなどについて調べておく。</p>
<p>第8回</p>	<p>学校・家庭・地域の連携の実際の振り返り フィールドワークの調査内容の分析・検討を行う。はじめは全体で、後半では小中校種別に分かれて行うものとする。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項ーフィールドワークでの調査内容をまとめておく。</p>
<p>第9回</p>	<p>勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムの構想 学校・家庭・地域の連携について勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムを小中校種別に分かれて構想する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項についてー勤務校や実習校の地域との連携状況について調べておく。</p>
<p>第10回</p>	<p>勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムの作成 前時に作成した構想に基づき、学校・家庭・地域の連携について勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムを作成する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項ー連携プログラムやモデル作成に資する参考例について調査を行う。</p>
<p>第11回</p>	<p>勤務校、実習校等で活用可能な連携プログラムの検証 前時に作成した連携プログラムを小中校種別に分かれて検証する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項ー連携プログラムやモデル作成に資する参考例について調査を行う。</p>
<p>第12回</p>	<p>勤務校、実習校等で活用可能な連携モデルの作成 学校・家庭・地域の連携について勤務校、実習校等で活用可能な連携モデルを小中学校を通底したモデルとして作成する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項ー連携プログラムやモデル作成に資する参考例について調査を行う。</p>

<p>第13回</p>	<p>作成した連携プログラムやモデルの検討</p> <p>作成した連携プログラムやモデルを小中校種ごとにプレゼンテーションを行い、相互評価する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項—プレゼンテーションを行うための準備をする。</p>
<p>第14回</p>	<p>学校、家庭、地域の連携の今後の方向性と教師の役割</p> <p>学校、家庭、地域の連携の今後の方向性と教師の役割についてグループ討議を行う。その際校種間の連携などにも留意するものとする。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項—前時に行った相互評価について事前に整理し、分析を加えておく。</p>
<p>第15回</p>	<p>まとめ、ポートフォリオの作成</p> <p>本授業全体を通して学んだことをポートフォリオにまとめ、学びの振り返りを行う。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項—ポートフォリオについて、事前にまとめておく。</p>

■到達目標

<p>◇人間教育リーダーコース (管理職候補者)</p> <p>学校・家庭・地域が連携することの今日的意義や課題を幅広い視野から捉え、学校現場において、三者連携のカリキュラム、プログラム、教師の役割、サービス等に関して適切に指導、助言を行うことができる力量を身につける。</p> <p>(現職教員)</p> <p>学校・家庭・地域が連携することの今日的意義や課題を幅広い視野から捉え、勤務校等の学校現場において、三者連携の中心的な担い手として、カリキュラムの作成や運営等の役割を担うことができる力量を身につける。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>学校・家庭・地域が連携することの今日的意義と課題を幅広い視野から捉え、そのあり方を実践上の立場から理解し、カリキュラムの作成や運営に携わることができる知見や実践力を獲得する。</p>
--

■評価方法

<p>○評価方法 出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、授業への参加度:20点、最終報告書・授業案 20点</p> <p>○評価基準 S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 C:60点以上 D(不合格):59点以下</p>

■使用教材

<p>上記授業計画に示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。</p>
--

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学校・家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅱ**■教員名** 宮崎 猛**■授業概要**

本授業「家庭・地域の連携とキャリア教育の推進Ⅰ・Ⅱ」では学校、家庭、地域の連携とキャリア教育のあり方について実践上の立場から考察する。このうち「Ⅱ」では学校、家庭、地域の連携を前提として展開するキャリア教育の意義や内容、方法等について、事例研究やフィールドワークなどを通して理解する。また、学校現場で実践可能なキャリア教育のカリキュラムやプログラムを作成し、その内容を討議する。

それらの研究成果をもとに、参加者の所属校、実習校等で実施可能な三者連携の具体的なあり方を検討したり、モデルなどを作成したりするとともに、そこにおけるキャリア教育との関わりを考察する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	キャリア教育と進路指導の基本的理解 キャリア教育がどのような背景から誕生したのかについて、米国の動向も踏まえ日本で従前から行われてきた進路指導の関わりなどととも理解する(レクチャー)。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項ーキャリア教育の誕生の背景について、事前に可能な範囲で調査を行う。
第3回	キャリア教育にかかわる各種答申の理解・検討 キャリア教育にかかわる答申について全体で確認する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項ーキャリア教育にかかわる答申についてを確認しておく。
第4回	学習指導要領におけるキャリア教育の記述を検討・理解する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項ー学習指導要領におけるキャリア教育の記述についてを確認しておく。
第5回	キャリア教育推進校の事例検討① 小中校種毎にグループを編成し、キャリア教育推進校の事例調査を行う 【準備学習】本時の授業内容に関する事項ーキャリア教育推進校について、事前にどのような取り組みを行っているのか予備調査を行う。
第6回	キャリア教育推進校の事例検討② 小中の校種ごとに行ったグループでの調査内容を報告(プレゼンテーション)を行い、全員で討議する。

	<p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項－調査内容を報告(プレゼンテーション)の準備をする。</p>
第7回	<p>キャリア発達、キャリア教育の理論 キャリア発達、キャリア教育の理論について理解する(レクチャー)。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項－キャリア発達、キャリア教育の理論について、事前に調査を行う。</p>
第8～10回	<p>第8回～第10回:フィールドワーク(キャリア教育の実際について) キャリア教育を行っている八王子近郊の学校を訪問し、実地調査(フィールドワーク)を行う。小学校と中学校を調査対象とするが、全員が小学校、中学校を訪問し、小中接続の状況等についても視察する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項－訪問先の小学校ならびに中学校について教育目標やキャリア教育にかかわるカリキュラムなどについて調べておく。</p>
第11回	<p>キャリア教育の実際の振り返り フィールドワークの調査内容の分析・検討を行う。はじめは全体で、後半では小中校種別に分かれて行うものとする。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項－フィールドワークでの調査内容をまとめておく。</p>
第12回	<p>勤務校、実習校等で活用可能な年間指導計画の構想 これまで学修してきたキャリア教育に関わる知見を踏まえ、実習校等で活用可能なモデルを小中校種別に分かれて構想する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について－勤務校や実習校のキャリア教育について調べておく。</p>
第13回	<p>勤務校、実習校等で活用可能な年間指導計画の作成 前時の構想を踏まえ、キャリア教育の年間指導計画を実習校等で活用可能なモデルとして小中校種別に分かれて作成する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項－キャリア教育の年間指導計画作成に資する参考例について調査を行う。</p>
第14回	<p>作成した年間指導計画の検討 作成した年間指導計画を小中校種ごとにプレゼンテーションを行い相互評価する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項－プレゼンテーションを行うための準備をする。</p>
第15回	<p>まとめ、ポートフォリオの作成 本授業全体を通して学んだことをポートフォリオにまとめ、学びの振り返りを行う。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項－ポートフォリオについて、事前にまとめておく。</p>

■到達目標

◇人間教育リーダーコース

(管理職候補者)

キャリア教育の内容、意義、方法、理論等を幅広い視野から捉え、学校現場において、キャリア教育の理論、カリキュラム、教師の役割等に関して適切に指導、助言を行うことができる力量を身につける。

(現職教員)

キャリア教育の内容、意義、方法、理論等を幅広い視野から捉え、学校現場において、勤務校等の学校現場において、キャリア教育の中心的な担い手として、カリキュラムの作成や運営等の役割を担うことができる力量を身につける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

キャリアの教育内容、意義、方法、理論等を幅広い視野から捉え、そのあり方を実践的な立場から理解し、カリキュラムの作成と運営に携わることができる知見や実践力を身につける。

■評価方法

○評価方法 出席：30点(2×15) レポート・振り返り：30点、授業への参加度：20点、最終報告書・授業案20点

○評価基準 S：90点以上 A：80点以上 B：70点以上 c：60点以上 D(不合格)：59点以下

■使用教材

上記授業計画に示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 学習活動の組織化とその評価

■教員名 石丸 憲一・小田 勝己

■授業概要

『学習活動の組織化とその評価』は、アクティブ・ラーニングの設計と“21世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について学び合う授業です。

前半は、教育から学習へというパラダイムシフトが学校教育にどのような変化をもたらすか(もたらしたらいいか)を考えることを通して現在の教育に求められているものを捉えていきます。中盤は、小田と石丸がそれぞれ「深い学び」「ポートフォリオ」、「アクティブ・ラーニング」「問題解決学習」といった概念をキーワードに、学習活動とその評価について実践化を提案します。後半は、院生の皆さんがこの学びを受けてどのように学習活動を創り出していこうと考えるのかを、具体的な教科、教材を取り上げ「学びのモデル」づくりをし、発表してもらいます。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション／学習の見通しをもつ 学びとは何かをこれまでの経験から整理する
第2回	「教育から学習へ」のパラダイム転換について考える 【準備学習】ジャーナルの作成／「教育から学習へ」についてまとめる
第3回	「学習」という視点から実践を振り返る 【準備学習】ジャーナルの作成／
第4回	(小田)2020年からの学習指導要領の重要項目のひとつ「深い学び」を集中的に扱い、学習活動としての深い学びの全体像を考える 【準備学習】ジャーナルの作成／「深い学びポートフォリオ」作成
第5回	(小田)「深い学びポートフォリオ」(仮)発表と討議 【準備学習】ジャーナルの作成／「深い学びポートフォリオ」作成
第6回	(小田)深い学びのエピソードが教科に振り分けられていくプロセスの体験 【準備学習】ジャーナルの作成／「深い学びポートフォリオ」作成
第7回	(小田)「深い学び」をどう評価するかを考える 【準備学習】ジャーナルの作成／「深い学びポートフォリオ」作成
第8回	(石丸)アクティブ・ラーニング導入の理由を考える(小学校、中学校別のグループで討論→全体での交流) 【準備学習】ジャーナルの作成／当該文科省HP等の資料検討
第9回	(石丸)アクティブ・ラーニングと問題解決学習(講義と全体討論) 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理
第10回	(石丸)アクティブ・ラーニングと問題解決学習(小学校、中学校別のグループで討論→全体での交流) 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理

第11回	(石丸)アクティブ・ラーニングにおける評価を考える～ルーブリック評価を中心に～ 【準備学習】ジャーナルの作成／配付資料のポイント整理
第12回	学びのモデルづくり(教科)に関するプレゼンと討論 【準備学習】ジャーナルの作成／プレゼンの準備
第13回	学びのモデルづくり(特活・総合)に関するプレゼンと討論 【準備学習】ジャーナルの作成／プレゼンの準備
第14回	学びのモデルづくり(外国語・道徳)に関するプレゼンと討論 【準備学習】ジャーナルの作成／プレゼンの準備
第15回	学期末振り返り 【準備学習】ジャーナルの作成、振り返りとまとめ、ポートフォリオの整理

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

- アクティブ・ラーニングの設計及び“21世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について理解する。
- 自分の校種の特徴をおさえた上で自身の過去の実践を踏まえた先進的な授業を構想することができる。
- 学習内容を基にして同僚・後輩に効果的なアドバイスをしたり、指導的な立場でのコメントをしたりすることができる。

(現職教員)

- アクティブ・ラーニングの設計及び“21世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について理解する。
- 自分の校種の特徴をおさえた上で自身の過去の実践を踏まえた先進的な授業を構想することができる。
- 学習内容を基にして同僚・後輩に効果的なアドバイスができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- アクティブ・ラーニングの設計及び“21世紀型スキル”など新しい能力評価の基本について理解する。
- 自分の校種の特徴をおさえた上で学習者の参加を促す学習活動や評価の基本について理解する。

■評価方法

レポート・ジャーナル・プレゼンテーションなどから総合評価する。

■使用教材

教科書:

小田勝己(2014)『言語活動ポートフォリオ実践案内』アカデミア・プレス

参考書:

石丸『ルーブリック評価を取り入れた道徳授業のアクティブラーニング』明治図書

石丸ほか(2016)『アクティブラーニングでつくる国語科の授業』東洋館出版

溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂

松下佳代編(2014)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房

その他必要に応じて指示する

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 授業力育成のための理論と方法**■教員名** 吉川 成司・鈴木 詞雄**■授業概要**

自己の授業力の向上、若手教員等の授業力育成、そのための校内における授業研究等の研修がテーマである。すなわち、指導方法・指導技術等についての理解と習得を始め、それらについて理論的・体系的に整理して、同僚教員の授業について検討し助言したり、小学校ならびに中学校（義務教育学校を含む）の授業研究について、専門的な見地から指導したりする資質の育成を目的とする。特に、「主体的・対話的で深い学び」のための授業力を焦点に進めていきたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コース・オリエンテーション：授業の進め方について説明するとともに、「授業力を構成する要素」を検討し、問題意識の明確化を図る。 【準備学習】シラバスを読んで確認しておくこと
第2回	「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」について理解を深めるとともに、そのための授業力について問題意識を方向づける。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第3回	小学校と中学校に共通する「主体的・対話的で深い学び」のための授業力についてディスカッションをする。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第4回	小学校と中学校それぞれの特徴に応じた「主体的・対話的で深い学び」のための授業力についてディスカッションをする。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第5回	小学校の授業の映像資料を視聴し、「主体的・対話的で深い学び」のための授業力についてディスカッションをする。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第6回	中学校の授業の映像資料を視聴し、「主体的・対話的で深い学び」のための授業力についてディスカッションをする。 【準備学習】前時に配付した資料を読んでおくこと
第7回	プレゼンテーションに向けてのオリエンテーション。 【準備学習】プレゼンテーションに向けて、その内容等をグループで検討しておくこと
第8回	小学校・用具系教科：「主体的・対話的で深い学び」のための授業力についてプレゼンテーションをする（ディスカッションを含む）①。 【準備学習】プレゼンテーションのための準備
第9回	小学校・内容系教科：「主体的・対話的で深い学び」のための授業力についてプレゼンテーションをする（ディスカッションを含む）②。

	【準備学習】プレゼンテーションのための準備
第10回	小学校：「主体的・対話的で深い学び」のための授業力について、その育成・研修に関するプレゼンテーションをする（ディスカッションを含む）③。 【準備学習】プレゼンテーションのための準備
第11回	中学校・用具系教科：「主体的・対話的で深い学び」のための授業力についてプレゼンテーションをする（ディスカッションを含む）①。 【準備学習】プレゼンテーションのための準備
第12回	中学校・内容系教科：「主体的・対話的で深い学び」のための授業力についてプレゼンテーションをする（ディスカッションを含む）②。 【準備学習】プレゼンテーションのための準備
第13回	中学校：「主体的・対話的で深い学び」のための授業力について、その育成・研修に関するプレゼンテーションをする（ディスカッションを含む）③。 【準備学習】プレゼンテーションのための準備
第14回	「主体的・対話的で深い学び」のための授業力についてのまとめ 【準備学習】授業全体を復習しておくこと
第15回	「主体的・対話的で深い学び」のための授業力、その育成・研修についてのまとめ 【準備学習】授業全体を復習しておくこと

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

（管理職候補者）

教育指導上の課題をとらえ、指導方法や指導技術等について理論的・体系的に分析・整理し、発達段階に応じた指導方法や指導技術に関して高い専門性をもって主幹教諭等に対して指導・助言することができる。

授業力向上のための先進的事例や学校における課題を整理し、組織を生かした取り組みを指導助言できる。

（現職教員）

教育的な効果という面から、自己の指導方法や指導技術等について理論的・体系的に分析・整理するとともに、他者の授業について検討し、助言したり、新たな提案を行ったりすることができる。

授業記録等の分析から、授業力向上に関する課題を明らかにし、新たな校内研修を組織することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

児童・生徒の状況及び各教科等の特性に応じた多様な指導方法・指導技術等についての理解と習得をはかり、授業実践を行うことができる。

「授業力」を構成する要素や学校における授業力向上の取り組みについて理解し、自己の実

践を適切に評価し、改善することができる。

■評価方法

「主体的で対話的な深い学びのための授業力」についてのプレゼンテーションとレポートを成績評価の資料とする。

■使用教材

特定のテキストは使用しない。
参考書や参考資料等については、適宜紹介する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

ICTを活用した教育活動

■教員名

鈴木 詞雄

■授業概要

本授業の到達目標は、次の通りである。(1)電子黒板をはじめとするICT機器を利用した授業を展開できる。(2)電子教科書をはじめとするデジタル教材の有効な活用法を考えることができる。(3)画像教材の作成や簡単な映像編集をすることができる。これらのスキルの育成を図りながら、ICTを活用した効果的な授業設計に関する理論・実践を体験的に学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション、ICT教育の動向
第2回	ICTを活用した授業デザイン 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第3回	ICTを活用した授業展開（協同学習） 【準備学習】配布資料を読み、課題を達成する。
第4回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(1)：電子教科書の使用(形態：小中別→全体) 【準備学習】配付資料を読む。
第5回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(2)：電子教科書の有効利用(形態：小中別→全体) 【準備学習】配付資料を読み、問題点を考える。
第6回	ICTスキルの育成(1)：画像処理と効果的なプレゼン（パワーポイント） 【準備学習】課題を達成する。
第7回	ICTスキルの育成(2)：デジタル絵本の作成（パワーポイント） 【準備学習】課題を達成する。
第8回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(3)：課題の設定(形態：小中別→全体) 【準備学習】配付資料を読み、問題点を考える。
第9回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(4)：デジタル教材の開発(形態：小中別→全体) 【準備学習】配付資料を読み、課題を考える。
第10回	ICTスキルの育成(3)：ポスター・学級新聞づくり（パブリッシャー） 【準備学習】課題を達成する。
第11回	ICTスキルの育成(4)：映像の編集 【準備学習】課題を達成する。
第12回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(5)：デジタル教材の開発(形態：小中別→全体)

	【準備学習】配付資料を読み、課題を達成する手段を考える。
第13回	電子黒板・デジタル教材を活用した授業づくり(6)：デジタル教材の開発(形態：小中別→全体) 【準備学習】配付資料を読み、課題を達成する。
第14回	プレゼンテーション(1)小学校におけるICTを効果的に活用した授業設計 【準備学習】プレゼンテーションに備える。
第15回	プレゼンテーション(2)中学校におけるICTを効果的に活用した授業設計 【準備学習】プレゼンテーションに備える。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

ICTを活用した教育活動に関する理論・実践を体系的に整理し、学校や教員に対して、中長期的な視点に立って適切な指導助言をすることができる。

(現職教員)

ICTを活用した教育活動に関する理論・実践を体系的に整理し、所属校等の教員に提案するなど学校組織の中で活用して貢献することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

ICTを活用した教育活動に関する理論・実践を体系的に整理し、学校現場での自らの実践に生かすことができる。

■評価方法

授業への参加態度、プレゼンテーション、課題レポート等により、総合的に評価する。

※自由聴講は、原則不可。

■使用教材

適宜、提供・配布する。

■授業で使用する言語

(**日**・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 人間教育事例分析研究

■教員名 吉川 成司・大久保 敏昭

■授業概要

『人間教育学の探究』をテキストに、牧口常三郎の『創価教育学体系』を原点とする創価教育の観点から人間教育のあり方とその現代的な意義を考究する。これらを通じて、現代の教育的諸課題に検討するための基底的な視座を検討していきたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】 シラバスの確認
第2回	第三部 講演記録 人間教育を考える 【準備学習】 次回分の該当箇所の学習
第3回	第三部 講演記録 創価教育学から現代的教育課題解決への道を探る 【準備学習】 次回分の該当箇所の学習
第4回	第三部 講演記録 創価教育学の現代的な意義とその展開 【準備学習】 次回分の該当箇所の学習
第5回	第一部 第二章 牧口常三郎の生涯教育構想 【準備学習】 次回分の該当箇所の学習
第6回	第一部 第一章 第一節～第二節 【準備学習】 次回分の該当箇所の学習
第7回	第一部 第一章 第三節～第四節 【準備学習】 次回分の該当箇所の学習
第8回	第一部 第一章 第五節～第六節 【準備学習】 次回分の該当箇所の学習
第9回	第一部 第一章 第七節～おわりに 【準備学習】 次回分の該当箇所の学習
第10回	第一部 第三章 第一節～第二節 【準備学習】 次回分の該当箇所の学習
第11回	第一部 第三章 第三節～第四節 【準備学習】 次回分の該当箇所の学習
第12回	第一部 第三章 第五節～おわりに 【準備学習】 レポートのアウトラインの作成
第13回	レポート作成 【準備学習】 プレゼンテーションのための準備学習
第14回	プレゼンテーション 【準備学習】 これまでの授業内容の復習

第15回	まとめ 【準備学習】 これまでの授業内容の復習
-------------	----------------------------

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

(現職教員)

◇人間教育プロフェッショナルコース

人間教育学のあり方について創価教育学の観点から学びつつ、現代におけるさまざまな教育課題を検討する観点について、プレゼンテーションとレポートで各自の見解を表明することができる。

■評価方法

出席と授業時の学習態度(関心・意欲・積極性など)、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%(4点/回×15=60)、課題と発表 40% とする。

■使用教材

【テキスト】

木全力夫著 2018年『人間教育学の探究』スラヴァ書房(電子書籍)

必要であれば、紙ベースのテキストを貸与する。

【参考図書】

牧口常三郎 1982年 『牧口常三郎全集』第五巻・創価教育学体系(上)、同第六巻・創価教育学体系(下) 第三文明社

創価学会教育本部 2015年『わが教育者に贈る』聖教新聞社

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育事例分析研究

■教員名 関田 一彦・渡辺 秀貴

■授業概要

春学期を通じた様々な議論とその理解に基づき、学校経営・人材育成の視点から、各自の問題意識と関連させて、人間教育のあり方(人材開発、組織開発等)を探り、その視座の確立を目指す。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション(授業内容の説明・質疑、各自の課題意識を含めた自己紹介、授業進め方についての共有) 【準備学習】シラバスの確認
第2回	ウォーミングアップ 【準備学習】『マンガでやさしくわかる部下の育て方』を読み、自身の考えを整理しておく。
第3回	・ビジネス書から学級・学校組織の経営(変革)のヒントを探る 【準備学習】事前配布する、『ティール組織』(フレデリック・ラリー)の資料を読み、自身の考えを整理しておく。
第4回	・ビジネス書から学級・学校組織の経営(変革)のヒントを探る 【準備学習】事前配布する、『ティール組織』(フレデリック・ラリー)の資料を読み、自身の考えを整理しておく。
第5回	・教育問題と真実を追求する教師① 多様化・複雑化する教育問題に組織的にその解決に立ち向かう教師や教育関係者 【準備学習】事前配布する、「毅然とした指導」(山本修司)の資料を読み、自身の考えを整理しておく。
第6回	・教育問題と真実を追求する教師② 教育リーダーの信念と行動力 【準備学習】事前配布する、「毅然とした指導」(山本修司)の資料を読み、自身の考えを整理しておく。
第7回	・教育問題と真実を追求する教師③ 厳しい環境の子供の願いを適える教師 【準備学習】事前配布する、「毅然とした指導」(山本修司)の資料を読み、自身の考えを整理しておく。
第8回	・学びの中間報告・協議会 【準備学習】第7回までの授業を振り返り、自己の考えを報告できるようにしておく。
第9回	・履修者による「人間教育」への提言① 【準備学習】これまでに学習したことと自己の研究テーマを関連付けて、人間教育の追究をテーマにプレゼンする準備をしておく。
第10回	・履修者による「人間教育」への提言② 【準備学習】これまでに学習したことと自己の研究テーマを関連付けて、人間教育の追究をテーマにプレゼンする準備をしておく。

第11回	・履修者による「人間教育」への提言③ 【準備学習】これまでに学習したことと自己の研究テーマを関連付けて、人間教育の追究をテーマにプレゼンする準備をしておく。
第12回	・レポート作成① 【準備学習】レポートの作成
第13回	・レポート作成② 【準備学習】レポートの作成
第14回	・レポート作成③ 【準備学習】レポートの作成
第15回	学びの総括 【準備学習】これまでの学習を振り返り、考えを整理しておく。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

(現職教員)

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教育改革を巡る様々な議論について知り、自分としての意見をもつことができる。また、学校経営・人材育成の視点から、人間教育のあり方を探り、次代の形成者である子供たちを育成する主体である、継続的な探究心をもつ教師の姿について考察し、レポート等で考えを主張することができる。

■評価方法

授業への取り組み姿勢(関心・意欲など)、中間報告・協議と学びの総括の会における発表と振り返りレポート、および提言レポートによる総合評価とする。授業への取り組み姿勢45%(3点×15回)、2回の発表と振り返りレポート30%(15×2)、読書レポート25%とする。

■使用教材

(基本参考図書等)

- ・山本修司『毅然とした指導』教育開発研究所
- ・フレデリック・ラリー『ティール組織』英治出版
- ・中原淳『マンガでやさしくわかる部下の育て方』日本能率協会マネジメントセンター

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育事例分析課題研究

■教員名 吉川 成司・大久保 敏昭

■授業概要

『岩波講座 教育 変革への展望』(全 7 巻)をテキストとし、その中から各自の問題意識に基づき論考を選び、教育改革を巡るさまざまな議論について多面的に理解することを通じて、人間教育のあり方(カリキュラム論、学校論、教師論等)を探り、新しい学びの創造に向けて、人間教育の視座の確立をめざす。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 準備学習:シラバスの確認、テキストの準備
第2回	第I部第1章 準備学習:第1部第1章の予習
第3回	第I部第2章 準備学習:第1部第2章の予習
第4回	第I部第3章 準備学習:第I部第3章の予習
第5回	第1回プレゼンテーション 準備学習:前時までに決めた担当箇所の予習
第6回	第2回プレゼンテーション 準備学習:前時までに決めた担当箇所の予習
第7回	第3回プレゼンテーション 準備学習:前時までに決めた担当箇所の予習
第8回	第4回プレゼンテーション 準備学習:前時までに決めた担当箇所の予習
第9回	第5回プレゼンテーション 準備学習:前時までに決めた担当箇所の予習
第10回	レポート作成に向けて① 準備学習:レポート作成
第11回	レポート作成に向けて② 準備学習:レポート作成
第12回	レポート作成に向けて③ 準備学習:レポート作成
第13回	レポート作成に向けて④ 準備学習:レポート作成
第14回	レポート作成に向けて⑤ 準備学習:レポート作成

第15回	全体の総括 準備学習:レポート完成と提出
-------------	-------------------------

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

(現職教員)

◇人間教育プロフェッショナルコース

教育改革を巡るさまざまな議論について多面的に理解することを通じて、人間教育のあり方(カリキュラム論、学校論、教師論等)を探り、新しい学びの創造に向けて、人間教育の視点からそれぞれについて吟味検討し、プレゼンテーションとレポートに各自の見解を表明することができる。

■評価方法

出席と授業時の学習態度(関心・意欲・積極性など)、課題と発表による総合評価とする。それぞれの配分は、出席と授業時の学習態度 60%(4点/回×15=60)、課題と発表 40% とする。

■使用教材

『岩波講座 教育 変革への展望』(全7巻)岩波書店(各巻 3200円)

第1巻『教育の再定義』、第2巻『社会の中の教育』、第3巻『変容する子どもの関係』、第4巻『学びの専門家としての教師』、第5巻『学びとカリキュラム』、第6巻『学校のポリティクス』、第7巻『グローバル時代の市民形成』

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 人間教育事例分析課題研究

■教員名 関田 一彦・渡辺 秀貴

■授業概要

春学期を通じた様々な議論とその理解に基づき、学校経営・人材育成の視点から、各自の問題意識と関連させて、人間教育のあり方(人材開発、組織開発等)を探り、その視座の確立を目指す。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション(授業内容の説明・質疑、各自の課題意識を含めた自己紹介、授業進め方についての共有) 【準備学習】シラバスの確認
第2回	ウォーミングアップ 【準備学習】『マンガでやさしくわかる部下の育て方』を読み、自身の考えを整理しておく。
第3回	・ビジネス書から学級・学校組織の経営(変革)のヒントを探る 【準備学習】事前配布する、『ティール組織』(フレデリック・ラルー)の資料を読み、自身の考えを整理しておく。
第4回	・ビジネス書から学級・学校組織の経営(変革)のヒントを探る 【準備学習】事前配布する、『ティール組織』(フレデリック・ラルー)の資料を読み、自身の考えを整理しておく。
第5回	・教育問題と真実を追求する教師① 多様化・複雑化する教育問題に組織的にその解決に立ち向かう教師や教育関係者 【準備学習】事前配布する、「毅然とした指導」(山本修司)の資料を読み、自身の考えを整理しておく。
第6回	・教育問題と真実を追求する教師② 教育リーダーの信念と行動力 【準備学習】事前配布する、「毅然とした指導」(山本修司)の資料を読み、自身の考えを整理しておく。
第7回	・教育問題と真実を追求する教師③ 厳しい環境の子供の願いを適える教師 【準備学習】事前配布する、「毅然とした指導」(山本修司)の資料を読み、自身の考えを整理しておく。
第8回	・学びの中間報告・協議会 【準備学習】第7回までの授業を振り返り、自己の考えを報告できるようにしておく。
第9回	・履修者による「人間教育」への提言① 【準備学習】これまでに学習したことと自己の研究テーマを関連付けて、人間教育の追究をテーマにプレゼンする準備をしておく。
第10回	・履修者による「人間教育」への提言② 【準備学習】これまでに学習したことと自己の研究テーマを関連付けて、人間教育の追究をテーマにプレゼンする準備をしておく。

第11回	・履修者による「人間教育」への提言③ 【準備学習】これまでに学習したことと自己の研究テーマを関連付けて、人間教育の追究をテーマにプレゼンする準備をしておく。
第12回	・レポート作成① 【準備学習】レポートの作成
第13回	・レポート作成② 【準備学習】レポートの作成
第14回	・レポート作成③ 【準備学習】レポートの作成
第15回	学びの総括 【準備学習】これまでの学習を振り返り、考えを整理しておく。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

(現職教員)

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教育改革を巡る様々な議論について知り、自分としての意見をもつことができる。また、学校経営・人材育成の視点から、人間教育のあり方を探り、次代の形成者である子供たちを育成する主体である、継続的な探究心をもつ教師の姿について考察し、レポート等で考えを主張することができる。

■評価方法

授業への取り組み姿勢(関心・意欲など)、中間報告・協議と学びの総括の会における発表と振り返りレポート、および提言レポートによる総合評価とする。授業への取り組み姿勢45%(3点×15回)、2回の発表と振り返りレポート30%(15×2)、読書レポート25%とする。

■使用教材

(基本参考図書等)

- ・山本修司『毅然とした指導』教育開発研究所
- ・フレデリック・ラリー『ティール組織』英治出版
- ・中原淳『マンガでやさしくわかる部下の育て方』日本能率協会マネジメントセンター

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

人間教育実践分析研究

■教員名

宮崎 猛・小田 勝己

■授業概要

人間教育とはいかなるものであるのかを教科・領域、校種を通底した見地から解明することが本授業の目標である。そのために教育学にかかわる先哲の思想や主要な教育理論を取り上げ、人間教育の視点から分析する。参加者の関心領域によって教材は選択するが、デューイの原著(日本語訳)の「経験と教育」は読破し、その他「民主主義と教育」等は人間教育探究における必読書と捉えている。それらへの分析(カジュアルな環境のもとでの批判的な議論)をもとに、学校教育の現状・現実を前提として、人間教育の立場から、学校教育の在り方や授業改善の方途について参加者間で明らかにしていく。また、夏休みの集中討議やフィールドワークも参加者の希望によって実施したい。前期・後期通年での履修が望まれる。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	<p>コースオリエンテーション 参加者間での課題意識の交流 担当教員の専門領域1(社会参加学習論) 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第2回	<p>担当教員の専門領域2 一人ひとりの可能性を引き出す MI 理論と相互理解を深めるポートフォリオ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第3回	<p>人間教育を考察する前提 学校教育、教師への社会的要請とその背景 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第4回	<p>人間教育を目指す教育理論1① 「民主主義と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第5回	<p>人間教育を目指す教育理論1② 「民主主義と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第6回	<p>人間教育を目指す教育理論2① 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>

	について考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	人間教育を目指す教育理論2② 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	人間教育を目指す教育理論2③ 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	人間教育を目指す教育理論2④ 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	人間教育を目指す教育理論3① 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第11回	人間教育を目指す教育理論3② 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	人間教育を目指す教育理論3③ 「経験と教育」デューイ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	人間教育を目指す教育理論と教職経験① 参加者の希望によってはフィールドワーク 参加者からの問題提起 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	人間教育を目指す教育理論と教職経験② 参加者の希望によってはフィールドワーク 参加者からの問題提起 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

第15回	<p>まとめ</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
-------------	--

■到達目標

◇人間教育リーダーコース

人間教育について理論研究・比較研究等の多面的・多角的な視野から探究し、人間教育の視座を獲得するとともに、鳥瞰的な視野から授業改善や教育改革に資する事項を自分なりの考えをもって表明することができる。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、授業への参加意欲:20点、最終報告書・授業案 20点

S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

参考文献)

上記授業計画に提示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとする。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名

人間教育実践分析研究

■教員名

田村 修一

■授業概要

本科目は、①「子どもにとっての幸福とは?」、②「良い教育とは?」という教育に関する根源的な問いについて、国内外の教育学や心理学の文献の熟読を通して、また、受講者同士の議論を通して、これらの重要テーマについて省察を深めていく授業とする。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション <①本科目の概要と授業の進め方・評価法の説明> <②討議テーマ: 現在の自分の教育実践上の悩みと課題> 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。
第2回	「幸福」についてポジティブ心理学から考える(1) 討議テーマ: ウェルビーイング 課題図書: 『ポジティブ心理学の挑戦』(マーティン・セリグマン) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	「幸福」についてポジティブ心理学から考える(2) 討議テーマ: 幸せの創造 課題図書: 『ポジティブ心理学の挑戦』(マーティン・セリグマン) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第4回	「幸福」についてポジティブ心理学から考える(3) 討議テーマ: ポジティブ教育 課題図書: 『ポジティブ心理学の挑戦』(マーティン・セリグマン) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第5回	「幸福」についてポジティブ心理学から考える(4) 【学生のプレゼン】 テーマ: 「ポジティブ心理学」を教育実践にいかす私のアイデア 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。討議の振り返り。
第6回	「幸福」についてポジティブ心理学から考える(5) セリグマンの「ポジティブ心理学」に関する学びの振り返り 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。討議の振り返り。
第7回	「幸福」についてフロー理論から考える(1) 討議テーマ: フロー体験① 課題図書: 『フロー体験: 喜びの現象学』(チクセントミハイ) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第8回	「幸福」についてフロー理論から考える(2) 討議テーマ: フロー体験② 課題図書: 『フロー体験・喜びの現象学』(チクセントミハイ) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。

第9回	「幸福」についてフロー理論から考える(3) 討議テーマ: 「フロー理論」を活かした教育実践 課題図書: 『フロー理論にもとづく「学びひたる」授業の創造』 (静岡大学附属浜松中学校) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第10回	「幸福」についてフロー理論から考える(4) 【学生のプレゼン】 テーマ: 「フロー理論」を活かした教育実践の可能性 (私のアイデア) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第11回	「幸福」についてフロー理論から考える(5) チクセントミハイの「フロー理論」に関する学びの振り返り
第12回	公教育について考える(1) 討議テーマ: 公教育の意義と課題 課題図書: 『公教育をイチから考えよう』(リヒテルズ直子・苫野一徳) 『教育の力』(苫野一徳) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第13回	公教育について考える(2) 討議テーマ: 公教育における個の尊重と学びの多様性 課題図書: 『公教育をイチから考えよう』(リヒテルズ直子・苫野一徳) 『教育の力』(苫野一徳) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第14回	公教育について考える(3) 討議テーマ: ホンモノの世界の中での学び 課題図書: 『公教育をイチから考えよう』(リヒテルズ直子・苫野一徳) 『教育の力』(苫野一徳) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第15回	学びの振り返り 【準備学習と復習】 これまでの学習内容の振り返り。討議の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教育学・心理学理論の知見や枠組みを活用して、「人間教育」の観点から自己や他者の教育実践を省察し、教育実践の改善に結びつけることができる能力を培う。また、学校内の全教員に対する適切な指導・助言力を身につける。

(現職教員)

教育学・心理学理論の知見や枠組みを活用して、「人間教育」の観点から自己や他者の教育実践を省察し、教育実践の改善に結びつけることができる能力を培う。

■評価方法

①毎回の授業の参加態度、②プレゼン、学びの振り返りレポートにより、総合的に評価する。

■使用教材

マーティン・セリグマン 2014 『ポジティブ心理学の挑戦：幸福から持続的幸福へ』

ディスカヴァー・トゥエンティワン

M・チクセントミハイ 1996 『フロー体験・喜びの現象学』 世界思想社

静岡大学教育学部附属浜松中学校 2011 『フロー理論にもとづく「学びひたる」授業の創造—充実感をともなう楽しさと最適発達への挑戦— 学文社

リヒテルズ直子・苫野一徳 2016 『公教育をイチから考えよう』 日本評論社

苫野一徳 2014 『教育の力』 講談社現代新書

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育実践分析課題研究

■教員名 宮崎 猛・小田 勝己

■授業概要

本授業では、前期「人間教育実践分析研究」における研究成果を継承・発展させ、人間教育という視座からの社会の在り方、すなわち教育のための社会とはどのようなものであるかを論考していく。さらにその論考を各自の教育実践、研究テーマ・内容、問題関心領域に適応、環流させ、具現化を図る。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	人間教育の視座からの社会の在り方① シューマッハー「スモールイズビューティフル」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	人間教育の視座からの社会の在り方② アダム・スミス「道徳感情論」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	人間教育の視座からの社会の在り方③ イリイチ「脱学校論」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第5回	人間教育の視座からの社会の在り方④ トインビー・池田大作「21世紀の対話」など 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第6回	前半のまとめ 「教育のための社会」とは 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第7回	「学びを問い続けて」佐伯胖 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第8回	「学びを問い続けて」佐伯胖 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

	について考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第9回	「学びを問い続けて」佐伯胖 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第10回	学ぶとは・・・状況学習論から① 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。各自の研究テーマと人間教育①
第11回	学ぶとは・・・状況学習論から② 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第12回	各自の研究テーマと人間教育①:討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第13回	各自の研究テーマと人間教育②:討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	各自の研究テーマと人間教育③:討議 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第15回	まとめ 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。

■到達目標

◇人間教育リーダーコース

人間教育とはいかなるものかについて、理論、実践の両面から自分なりの識見をもち、他者に対し実証的に説明することができるようになる。また、その識見を自身の教育実践に具体的な内容、方法等として適用・応用することができるようになり、教師のキャリア形成において不断に更新するための基盤を獲得する。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:30点、授業への参加意欲:20点、最終報告書・授業案 20点
S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

参考文献)

上記授業計画に提示した教材、ならびに研究の進展に即した教材を適宜授業内で示すものとす

る。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 人間教育実践分析課題研究**■教員名** 田村 修一**■授業概要**

本科目は、自己の教育実践を省察するための理論や分析法を学びながら、現在の学校教育における様々な課題を解決できる能力(実践知)を身につけ、自分の職場で「人間教育」を十分に展開できる基礎的な能力を培う授業とする。具体的には、他者や自分自身の「教育実践(成功例・失敗例)」について、様々な分析方法を用いて、多角的に分析し、客観的に整理された「教育実践記録」を書く能力・分析する能力を培うための基礎的理論を学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	教師の実践知(1) 討議テーマ: 熟達化のメカニズム 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第2回	教師の実践知(2) 討議テーマ: 教育実践と教師の成長・発達 課題図書: 『実践知』(金井壽宏・楠見 孝 編) 【準備学習と復習】 事前に文献を読んでおく。討議の振り返り。
第3回	教師の実践知(3) 自己の教育実践の振り返り: 「私の一皮むけた体験」(レポート)を書く。 【準備学習と復習】 振り返りに必要な資料を用意する。
第4回	教師の実践知(4) 【プレゼンテーション】 発表テーマ: 私が獲得した「実践知」 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第5回	実践知と教育実践記録(1) 討議テーマ: 「教育実践記録」の意義・目的・構成要素 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。討議の振り返り
第6回	実践知と教育実践記録(2) 討議テーマ: 教師の学び合いとしての「教育実践カンファレンス」 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。
第7回	ヘニングセン・池田対談から学ぶ(1) 討議テーマ: デンマークの教育に学ぶ 課題図書: 明日をつくる教育の聖業: デンマークと日本・友情の語らい 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。
第8回	ヘニングセン・池田対談から学ぶ(2) 討議テーマ: グルトヴィの教育哲学とコルの「話す学校」 課題図書: 明日をつくる教育の聖業: デンマークと日本・友情の語らい 【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。

第9回	<p>ヘニングセン・池田対談から学ぶ(3)</p> <p>討議テーマ: 啓発と教育、真の対話</p> <p>課題図書: 明日をつくる教育の聖業: デンマークと日本・友情の語らい</p> <p>【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。</p>
第10回	<p>ヘニングセン・池田対談から学ぶ(4)</p> <p>「ヘニングセン・池田対談」の学びの振り返り</p> <p>課題図書: 明日をつくる教育の聖業: デンマークと日本・友情の語らい</p> <p>【準備学習と復習】 事前に配付資料を読んでおく。討議の振り返り。</p>
第11回	<p>現代の教育課題について考える(1)</p> <p>討議テーマ: いじめ</p> <p>【準備学習と復習】 事前に討議で活用する資料を各自が準備する。討議の振り返り。</p>
第12回	<p>現代の教育課題について考える(2)</p> <p>討議テーマ: 不登校</p> <p>【準備学習と復習】 事前に討議で活用する資料を各自が準備する。討議の振り返り。</p>
第13回	<p>現代の教育課題について考える(3)</p> <p>討議テーマ: 発達障害</p> <p>【準備学習と復習】 事前に討議で活用する資料を各自が準備する。討議の振り返り。</p>
第14回	<p>現代の教育課題について考える(4)</p> <p>討議テーマ: 深い学びとアクティブ・ラーニング</p> <p>【準備学習と復習】 事前に討議で活用する資料を各自が準備する。討議の振り返り。</p>
第15回	<p>学びの振り返り</p> <p>【準備学習と復習】 振り返りに活用する各自が資料を準備する。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

自己の教育実践を客観的に記録できる能力と、教育実践を多角的に分析でき、今後の教育実践の改善に活用できる能力を身につける。また、教育実践に対する分析能力を活用して、他者の教育実践の改善・向上を指導・援助できる能力を身につける。

(現職教員)

自己の教育実践を客観的に記録できる能力と、教育実践を多角的に分析でき、今後の教育実践の改善に活用できる能力を身につける。

■評価方法

①毎回の授業の参加態度、②プレゼン、学びの振り返りレポートを総合的に評価する。

■使用教材

金井壽宏・楠見 孝 2012 『実践知： エキスパートの知性』 有斐閣

高橋早苗 2007 反省的実践家としての教育実践記録の意義と活用 教育方法学研究, 33, 49-60.

(「日本教育方法学会」学会誌の掲載論文)

ヘニングセン・池田大作 2009 『明日をつくる“教育の聖業”：デンマークと日本 友情の語らい』
潮出版社

児玉珠美 2016 『デンマークの教育を支える「声の文化」』 新評論

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Aグループ)

■教員名 石丸 憲一・渡辺秀貴

■授業概要

本授業は、教職課題研究論文の作成に至るまでの理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」という位置付けである。そのため、自身の研究テーマの決定→「理論的研究⇔実践的検討」を重ねながら、具体と展望、そして、そこから見えてくる課題等を洗い出す。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	配属調整
第2回	オリエンテーション(自己紹介・研究テーマについての概略の交流) 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見通し。本授業の振り返り。
第3回	渡辺の専門分野からの提案→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見通し。本授業の振り返り。
第4回	石丸の専門分野からの提案→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第5回	研究テーマの具体と展望① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第6回	研究テーマの具体と展望② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第7回	研究テーマの具体と展望③ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第8回	研究テーマの具体と展望④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第9回	研究テーマの深化と課題① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第10回	研究テーマの深化と課題② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。

第11回	研究テーマの深化と課題③ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第12回	研究テーマの深化と課題④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第13回	研究テーマの深化と課題⑤ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第14回	研究テーマの深化と課題⑥ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第15回	まとめ 【準備学】後期の授業に向けての今後の見通し。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を養うことができる。

(現職教員)

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら、自身の研究テーマを確定し、教育のプロとしての自覚を持つことができる。

■評価方法

- ①プレゼン
- ②主体的な参加
- ③研究深化力 等を総合的に判断する。

■使用教材

必要に応じて、適宜、配布する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 **教職課題研究Ⅰ(Bグループ)**

■教員名 **宮崎 猛・大関 健道**

■授業概要

教育実践の場と関連した自己の研究課題を明確にし、教育(学)についての研究を進めていく。その過程において探究的態度を培い、校内における諸課題に対して、分析的視座をもって問題を解明し、客観性をもって問題解決の方途を提案できる力量を身につける。本物のアリーナでこそ、実力を身につけることができるとの立場から、後期には、研究の内容を何らかの形式(内外の研究会や学会発表、投稿論文作成など)で公表していくことを目指していきたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	配属先決定
第2回	教職大学院の学び(研究と実践の融合)について —教職修士の学びと研究レベルとは、過去の研究を例に— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第3回	教育(学)研究の在り方Ⅰ—教育実地調査のデザイン— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第4回	教育(学)研究の在り方Ⅱ—教育研究データのデザイン— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第5回	教育(学)研究の方法と内容Ⅰ —人を対象とする研究への制約、倫理委員会への手続きとの関連など— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第6回	教育(学)研究の方法と内容Ⅱ —量的研究の方法を参考に(仮説と検定の考え方)— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第7回	教育(学)研究の方法と内容Ⅱ —量的研究と質的研究のつながり(KJ法からコレスポネンス分析へ)— 【準備学習】なし
第8回	教育(学)研究の方法と内容Ⅳ —質的研究の方法を参考に(M-GTAなどの考え方)— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第9回	研究の現場から—担当教員の研究(内容・方法)を建設的に批判するⅠ— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第10回	研究の現場から—担当教員の研究(内容・方法)を建設的に批判するⅡ— 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第11回	研究テーマ設定に向けての探索Ⅰ—個人研究— 【準備学習】なし

第12回	研究テーマ設定に向けての探索Ⅱ－個人研究－ 【準備学習】文献などの既読
第13回	研究テーマ及び設定理由の公表・質疑及び討論 【準備学習】なし
第14回	研究計画の立案・実施プランの策定Ⅰ 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第15回	研究計画の立案・実施プランの策定Ⅱ、前期のまとめ 【準備学習】前時に指示した文献などの既読

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

専門性を高め、教育(学)研究方法と探究的態度を培い、教育現場あるいは教育行政における研究指導者としての技能と力量を身に付ける。

(現職教員 10年以上)

専門性を高め、教育(学)研究方法と探究的態度を培い、教育現場における研究指導者としての技能と力量を身に付ける。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

(現職教員 10年未満)

専門性を高め、教育(学)研究方法の基礎と探究的態度を培い、教育現場における研究指導者としての資質を身に付ける。

(ストレートマスター)

専門性を高め、教育(学)研究方法の基礎と探究的態度を培い、将来教育現場における研究指導者となり得る基礎的資質を身に付ける。

■評価方法

出席と研究意欲・態度 60% (4点/回×15=60)、振り返りレポート 40%による総合評価

■使用教材

参考文献

- ・過去の本ゼミの教職課題研究論文、抄録集
- ・宮崎 猛「アクティブ・ラーニングの基本と授業のアイデア」:ナツメ社、2017
- ・John W. Creswell 著、操 華子(翻訳)、森岡 崇(翻訳)「研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法」

■授業で使用する言語

(**日**・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教職課題研究 I (C グループ)

■教員名 長島 明純・吉川 成司

■授業概要

生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育などを中心に、教育に関する現代の諸課題への理解を深めながら、その教育の場で生かしていける資質を磨く。とともに、後期に書き上げる「教職課題研究」論文をまとめていくための基礎的な力量を育成する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	配属調整
第2回	オリエンテーション（自己紹介・研究テーマに関する構想・計画の交流） 【準備学習】シラバスの確認、研究テーマ・研究計画書の検討。
第3回	研究計画書をバージョンアップし発表する。 【準備学習】研究計画書をバージョンアップしておくこと。
第4回	研究の方法、研究論文の作成方法など概説。① 【準備学習】前時指定の資料を読んでおくこと
第5回	研究の方法、研究論文の作成方法など概説。② 【準備学習】前時指定の資料を読んでおくこと
第6回	研究の方法、研究論文の作成方法など概説。③ 【準備学習】前時指定の資料を読んでおくこと
第7回	「教職課題研究」論文構成の概要を報告。（受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション） ① 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第8回	「教職課題研究」論文構成の概要を報告。（受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション） ② 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第9回	「教職課題研究」論文構成の概要を報告。（受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション） ③ 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第10回	「教職課題研究」論文構成の概要を報告。（受講者による論文のアウトラインについてのプレゼンテーション、ディスカッション） ④ 【準備学習】論文のアウトラインについてまとめておくこと
第11回	教職課題研究論文に関する課題を整理。参考となる文献・資料も含め報告。（受講者プレゼンテーション、ディスカッション） ① 【準備学習】研究課題に関連する資料を収集し整理しておくこと
第12回	教職課題研究論文に関する課題を整理。参考となる文献も含め報告。（受講者プレゼンテーション、ディスカッション） ②

	【準備学習】研究課題に関連する資料を収集し整理しておくこと
第13回	教職課題研究論文に関する課題を整理。参考となる文献・資料も含め報告。 (受講者プレゼンテーション、ディスカッション) ③ 【準備学習】研究課題に関連する資料を収集し整理しておくこと
第14回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画を確認。(受講者プレゼンテーション、ディスカッション) ① 【準備学習】夏期休業中の課題を考え研究計画をまとめておくこと
第15回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画を確認。(受講者プレゼンテーション、ディスカッション) ② 【準備学習】夏期休業中の課題を考え研究計画をまとめておくこと

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いを通して、生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について、理論的に理解するとともに、教育の場で、専門性をもって主幹教諭等に適切に指導助言できる力を身につける。 ・生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について、理論的に理解し、論文としてまとめ上げるとともに、主幹教諭等に専門性をもって適切に論文指導できる力を培う。 <p>(現職教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いを通して、生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について、理論的に考察し、現場の対応について、他の教員に提案したり助言できる力を身につける。 ・自分のこれまでの実践を踏まえながら、生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について深く考察し、それを論文としてまとめ上げる力を培う。 <p>◇人間教育プロフェSSIONALコース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いを通して、生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について理論的に考察し、現場での対応に生かす力を身につける。 ・生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について、論文として構成しまとめる力を培う。
--

■評価方法

各々の課題に関する発表、互いの発表に関する討議など、総合的に評価する。

■使用教材

参考図書：

- 『子どもを育む学校臨床力』角田豊・片山紀子・小松貴弘編著，創元社，2016.
- 『キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談』有村久春著，金子書房，2008.
- 『生徒・進路指導論』吉川成司編著，創価大学通信教育部，2013.

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Dグループ)**■教員名** 田村 修一 ・ 関田 一彦**■授業概要**

本科目の目的は、教育実践に関する科学的論文を書く力を培うことである。具体的には、①研究テーマの設定と練り上げ、②先行研究の調べ方と読み方、③質的研究と量的研究の概要と相違点、④論文構成とプロポーザル(研究計画書)の書き方について、講義・実習・討議を通して学ぶ。そして、可能な限り夏季休業中から自分の研究のデータ収集に取り組めるように、プロポーザルを前期の最終回までに必ず完成させたい。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	配属調整
第2回	オリエンテーション<①本科目の概要と授業の進め方、評価方法についての説明><②テーマ:「教師が研究する意味」と「自分の関心」>(講義・討議) 【準備学習と復習】 事前にシラバスを読んでおく。
第3回	研究テーマの設定(自問自答しよう①) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第4回	研究テーマの設定(自問自答しよう②) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第5回	プロポーザル(研究計画書)の書き方 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第6回	研究構想(概要)の発表 (プレゼンテーション) 【準備学習と復習】 研究構想(概要)レポートの準備。討議の振り返り。
第7回	プロポーザル(研究計画書)の作成(1) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第8回	プロポーザル(研究計画書)の作成(2) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第9回	先行研究の収集と整理(1) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 事前に資料を収集・整理。討議の振り返り。
第10回	先行研究の収集と整理(2) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 事前に資料を収集・整理。討議の振り返り。
第11回	先行研究の収集と整理(3) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 事前に資料を収集・整理。討議の振り返り。
第12回	プロポーザル(研究計画書)の修正 (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第13回	プロポーザル(研究計画書)の完成 (プレゼンテーション) 【準備学習と復習】 プロポーザルの準備。討議の振り返り。

第14回	データ収集の事前準備(1) 【準備学習と復習】 質問紙・インタビュー項目などの準備。討議の振り返り。	(進捗状況の報告)
第15回	データ収集の事前準備(2) 【準備学習と復習】 質問紙・インタビュー項目などの準備。討議の振り返り。	(進捗状況の報告)

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。また、校内の全教員に対して、教育研究をリードしていける研究能力を身につける。

(現職教員)

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。

■評価方法

①「授業への参加態度」、②「プロポーザル(研究計画書)」の内容(完成度)を総合的に評価する。

■使用教材

プリントを配布する。参考書は、授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Eグループ)**■教員名** 鈴木 詞雄・山崎 めぐみ**■授業概要**

本授業は、教職課題研究論文の作成に至るまでの理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」という位置付けである。そのため、自身の研究テーマの決定→「理論的研究⇄実践的検討」を重ねながら、具体と展望、そして、そこから見えてくる課題等を洗い出す。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	配属調整
第2回	オリエンテーション（自己紹介・研究テーマについての概略の交流） 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見直し。本授業の振り返り。
第3回	鈴木・山崎の専門分野からの提案①→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の見直し。本授業の振り返り。
第4回	鈴木・山崎の専門分野からの提案②→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第5回	研究テーマの具体と展望① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。本授業の振り返り。
第6回	研究テーマの具体と展望② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第7回	研究テーマの具体と展望③ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第8回	研究テーマの具体と展望④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第9回	研究テーマの具体と展望⑤ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画書の作成。先行文献の研究。本授業の振り返り。
第10回	研究テーマの深化と課題① プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振

	り返り。
第11回	研究テーマの深化と課題② プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第12回	研究テーマの深化と課題③ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第13回	研究テーマの深化と課題④ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第14回	研究テーマの深化と課題⑤ プレゼンテーション→討議 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究。本授業の振り返り。
第15回	まとめ 【準備学習】後期の授業に向けての今後の見通し。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を養うことができる。

(現職教員)

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら、自身の研究テーマを確定し、教育のプロとしての自覚を持つことができる。

■評価方法

研究深化力・プレゼン力等を総合的に判断する。

■使用教材

適宜、提供・配布する。

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅰ(Fグループ)**■教員名** 大久保 敏昭・三津村 正和**■授業概要**

「教職研究論文」の作成に向けて指導する。テーマを選定し、教職大学院での研究、実習の成果を研究論文としてまとめる。各自研究テーマは異なるが、①質的調査研究方法を用いること、②教師としての実践力・授業力また人間力向上を目指すことの2点は共通する。具体的には、質的調査・研究のデザイン、研究論文作成法の理解、後期までの研究計画の策定を指導する。これらの学習を通じて、近い将来、研究紀要をはじめ、研究学会の機関紙などに相応しい体裁の論文が書けるようになることが期待される。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	配属調整
第2回	コースオリエンテーション：自己紹介、研究テーマについての概略
第3回	各自の研究テーマ及び研究計画の協議・検討① 【準備学習】各自の研究テーマをまとめる。
第4回	各自の研究テーマ及び研究計画の協議・検討② 【準備学習】各自の研究テーマをまとめる。
第5回	各自の研究テーマ及び研究計画の協議・検討③ 【準備学習】各自の研究テーマをまとめる。
第6回	質的調査・研究のデザイン① 【準備学習】配布資料を読み、各自の研究をデザインする。
第7回	質的調査・研究のデザイン② 【準備学習】配布資料を読み、各自の研究をデザインする。
第8回	研究論文作成法① 【準備学習】配布資料を読む。
第9回	研究論文作成法② 【準備学習】配布資料を読む。
第10回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション① 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。
第11回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション② 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。
第12回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション③ 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。
第13回	論文アウトラインの作成及びプレゼンテーション④ 【準備学習】論文のアウトラインを作成し、プレゼンテーションに備える。

第14回	後期の「教職課題研究Ⅱ」までの研究活動計画の策定 【準備学習】研究活動計画を策定する。
第15回	まとめ 【準備学習】前期の振り返り

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、それを活用して学校や教員に対して、中長期的な視点に立って適切な指導助言をすることができる。

(現職教員)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、所属校等の教員に提案するなど学校組織の中で活用して貢献することができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、学校現場での自らの実践に生かすことができる。

■評価方法

－授業時における研究テーマ、論文のアウトライン、後期までの研究計画に関するプレゼンテーション。

－これらを総合した期末レポート。

■使用教材

参考書等を適宜紹介する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Aグループ)

■教員名 石丸 憲一・渡辺 秀貴

■授業概要

前期での理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」を踏まえ、本授業では、研究的実践者としての内実を教職課題研究論文として仕上げる。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション—後期授業内容の確認と現状報告— 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第2回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する① 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第3回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する② 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第4回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する③ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第5回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する④ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第6回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—① 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第7回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—② 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第8回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—③ 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第9回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するA—④ 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への

	具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第10回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するB―① 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第11回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するB―② 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第12回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するB―③ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第13回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議するB―④ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第14回	教職課題研究論文作成についての最終検討 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第15回	まとめ ―課題と展望― 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を教職課題研究論文としてまとめ、今後の糧にすることができる。

(現職教員)

自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、その内実を教職課題研究論文にまとめ、今後の教育実践に生かすことができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら教職課題研究論文にまとめ、教育のプロとして力強くスタートすることができる。

■評価方法

- ①プレゼン
- ②主体的な参加
- ③研究深化力 等を総合的に判断する(特に、教職課題研究論文の内容を重視する)。

■使用教材

必要に応じて、適宜、配布する。

■授業で使用する言語

(**日** ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Bグループ)**■教員名** 宮崎 猛・大関 健道**■授業概要**

教育実践の場と関連した自己の研究課題を明確にし、教育(学)についての研究を進めていく。その過程において探究的態度を培い、校内における諸課題に対して、分析的視座をもって問題を解明し、客観性をもって問題解決の方途を提案できる力量を身につける。本物のアリーナでこそ、実力を身につけることができるとの立場から、後期には、研究の内容を何らかの形式(内外の研究会や学会発表、投稿論文作成など)で公表していくことを目指していきたい。

本授業では、社会科学系教員(国際政治学/社会科教育学)と理工系教員(理科教育/心理学)の協働により、教科教育学的研究はもとより、学校現場に必要な多様な研究を視野に入れ、多角的な角度から教育(学)研究を推進するものとする。本ゼミの担当者であった桐山信一・前教授(現非常勤講師)の協力も仰ぎ、履修者の研究遂行を支援していく。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	研究計画の進捗状況(夏期休業中など)の報告 これまでにどのような実践・調査を実施したのか、院生の実例報告 【準備学習】行った調査の整理など
第2回	院生の実例報告(続き) 【準備学習】行った調査の整理など
第3回	教育調査 研究法Ⅰ－実例に対応する量的処理の方法の探究－ 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第4回	教育調査 研究法Ⅱ－実例に対応する質的処理の方法の探究－ 【準備学習】:前時に指示した文献などの既読
第5回	教育調査 研究法Ⅲ－発表論文・誌上論文のプロトタイプについて－ 【準備学習】前時に指示した文献などの既読
第6回	教育実地調査・整理・分析－個人研究Ⅰ－ 【準備学習】なし
第7回	教育実地調査・整理・分析－個人研究Ⅱ－ 【準備学習】なし
第8回	学会発表形式による中間報告Ⅰ 【準備学習】個人研究の整理・発表準備
第9回	学会発表形式による中間報告Ⅱ 【準備学習】個人研究の整理・発表準備
第10回	教育実地調査・整理・分析－個人研究Ⅲ－ 【準備学習】なし
第11回	教育実地調査・整理・分析－個人研究Ⅳ－ 【準備学習】なし

第12回	教育実地調査・整理・分析—個人研究V— 【準備学習】なし
第13回	教職課題研究論文抄録の執筆開始 【準備学習】個人研究の整理・発表準備
第14回	教職課題研究論文抄録の執筆・推敲 【準備学習】個人研究の整理・発表準備(このあたりで、研究発表会あり)
第15回	教職課題研究論文の執筆・校了 【準備学習】なし

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

教育(学)一般における研究的アプローチに基づいた、雑誌「創大教育研究」の研究論文に相当する研究成果を残すものとする。

(現職教員 10年以上)

教育(学)一般に通ずる内容で、雑誌「創大教育研究」の研究ノートに相当する研究成果を残すものとする。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

(現職教員 10年未満)

自己の研究テーマにそった内容で、雑誌「創大教育研究」の研究ノートに相当する研究成果を残すものとする。

(ストレートマスター)

自己の研究テーマにそった内容で、専門性を指向する研究成果を残すものとする。各自の目標設定によっては研究論文や研究ノートに相当する論文作成を目指す。

■評価方法

出席と研究意欲・態度 60% (4点/回×15=60)、振り返りレポート 40%による総合評価。

■使用教材

参考文献

本ゼミ過去の教職課題研究論文、抄録集

宮崎 猛「アクティブ・ラーニングの基本と授業のアイデア」ナツメ社、2017

John W. Creswell 著、操 華子(翻訳)、森岡 崇(翻訳)「研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法」

■授業で使用する言語

(**日**・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Cグループ)

■教員名 長島 明純・吉川 成司

授業概要

各々の研究課題に関する学び合いを通して、研究論文をまとめる力量を高めるとともに、各自の研究課題を教職課題研究論文としてまとめ上げる。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	夏季休業中の研究活動や教職課題研究論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに検討し合う。① 【準備学習】シラバスを読んで確認しておくこと、夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第2回	夏季休業中の研究活動や教職課題研究論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに検討し合う。② 【準備学習】夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第3回	夏季休業中の研究活動や教職課題研究論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに検討し合う。③ 【準備学習】夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第4回	夏季休業中の研究活動や教職課題研究論文の進捗状況など報告をするとともに、改善点や問題など互いに検討し合う。④ 【準備学習】夏期休業中の研究の進捗状況をまとめておくこと
第5回	教職課題研究論文の作成・報告。その改善すべき課題など互いに検討し合う。① 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第6回	教職課題研究論文の作成・報告。その改善すべき課題など互いに検討し合う。② 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第7回	教職課題研究論文の作成・報告。その改善すべき課題など互いに検討し合う。③ 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第8回	教職課題研究論文の作成・報告。その改善すべき課題など互いに検討し合う。④ 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第9回	論文の中間発表。① 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第10回	論文の中間発表。② 【準備学習】教職課題研究論文の中間報告のための研究資料作成
第11回	教職課題研究論文の詰め。改善すべき問題点など互いに検討し合う。① 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成
第12回	教職課題研究論文の詰め。改善すべき問題点など互いに検討し合う。② 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成

第13回	教職課題研究論文の詰め。改善すべき問題点など互いに検討し合う。③ 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成
第14回	教職課題研究論文の詰め。改善すべき問題点など互いに検討し合う。④ 【準備学習】提出する教職課題研究論文の作成
第15回	教職課題研究論文に関連して今後の課題を考える。まとめ。 【準備学習】教職課題研究論文を完成させること

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

管理職候補者

(管理職候補者)

- ・学び合いを通して、生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について、理論的に理解するとともに、教育の場で、専門性をもって主幹教諭等に適切に指導助言できる力を身につける。
- ・生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について、理論的に理解し、論文としてまとめ上げるとともに、主幹教諭等に専門性をもって適切に論文指導できる力を培う。

(現職教員)

- ・学び合いを通して、生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について、理論的に考察し、現場の対応について、他の教員に提案したり助言できる力を身につける。
- ・自分のこれまでの実践を踏まえながら、生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について深く考察し、それを論文としてまとめ上げる力を培う。

◇人間教育プロフェッショナルコース

- ・学び合いを通して、生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について理論的に考察し、現場での対応に生かす力を身につける。
- ・生徒指導・教育相談・特別活動・特別支援教育等の諸課題について、論文として構成しまとめる力を培う。

■評価方法

各々の課題に関する発表、互いの発表に関する討議、「教職課題研究」論文の内容などを、総合的に評価する。

■使用教材

参考図書：

- 『子どもを育む学校臨床力』角田豊・片山紀子・小松貴弘編著，創元社，2016.
- 『キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導・教育相談』有村久春著，金子書房，2008.
- 『生徒・進路指導論』吉川成司編著，創価大学通信教育部，2013.

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Dグループ)**■教員名** 田村 修一・関田 一彦**■授業概要**

本科目の目的は、教育事象や教育実践に関する科学的な論文を書く力を培うことである。具体的には、①先行研究の整理および論文内での記述の仕方、②データ収集のための準備と実際、③収集されたデータの解析と結果のまとめ方、④データに基づく考察の書き方、⑤実際の論文執筆、⑥引用文献一覧の書き方を学ぶ。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	データの収集(1) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第2回	データの収集(2) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第3回	データの収集(3) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第4回	データの収集(4) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第5回	データの分析(1) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第6回	データの分析(2) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第7回	データの分析(3) (進捗状況の報告) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第8回	中間発表会 (プレゼンテーション) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返り。
第9回	結果の考察・論文の執筆(1) (個別指導) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第10回	研究の考察・論文の執筆(2) (個別指導) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第11回	結果の考察・論文の執筆(3) (個別指導) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第12回	結果の考察・論文の執筆(4) (個別指導) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。
第13回	結果の考察・論文の執筆(5) (個別指導) 【準備学習と復習】 レポートの準備。討議の振り返り。

第14回	「抄録」の書き方、「発表用スライド」の作り方 (講義・討議) 【準備学習と復習】 事前に資料を読む。討議の振り返り。
第15回	「教職課題研究論文・発表会」のリハーサル (プレゼンテーション) 【準備学習と復習】 プレゼンの準備。発表内容の振り返りと修正。

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。また、校内の全教員に対して、教育研究をリードしていける研究能力を身につける。</p> <p>(現職教員)</p> <p>理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。</p> <p>◇人間教育プロフェッショナルコース</p> <p>理論と実践の往還の観点から、自分の関心のある教育事象や教育実践に関する研究を構想する力、および科学的な研究論文を書く能力を身につける。</p>

■評価方法

「教職課題研究論文」の内容(完成度)とそこに至るまでの努力を加味し、総合的に評価する。

■使用教材

プリントを配布する。参考書は、授業の中で適宜指示する。

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ(Eグループ)

■教員名 鈴木 詞雄・山崎 めぐみ

■授業概要

前期での理論と実践との融合を目指す「基礎的な研究」を踏まえ、本授業では、研究的実践者としての内実を教職課題研究論文として仕上げる。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	オリエンテーション—後期授業内容の確認と現状報告— 【準備学習】研究テーマ、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第2回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する① 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第3回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する② 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第4回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する③ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第5回	改編「研究テーマの深化と課題」について発表し、討議する④ 【準備学習】研究テーマの修正、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第6回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する① 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第7回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する② 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第8回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する③ 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第9回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する④ 【準備学習】研究テーマの決定、研究計画に基づいた先行文献の研究、研究

	への具体的な取り組み。本授業の振り返り。
第10回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する⑤ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第11回	これまでの「深化と課題」を生かした「実のある理論と実践との往還の具体」を提案し、討議する⑥ 【準備学習】教職課題研究論文の作成。本授業の振り返り。
第12回	教職課題研究論文を基に抄録を作成、提案し、討議する① 【準備学習】教職課題研究論文抄録の作成。本授業の振り返り。
第13回	教職課題研究論文を基に抄録を作成、提案し、討議する② 【準備学習】教職課題研究論文抄録の作成。本授業の振り返り。
第14回	教職課題研究論文を基にプレゼンを作成、提案し、討議する 【準備学習】教職課題研究論文プレゼン用資料の作成。本授業の振り返り。
第15回	まとめ ー課題と展望 ー 【準備学習】教職課題研究論文プレゼン用資料の作成。本授業の振り返り。

■到達目標

<p>◇人間教育実践リーダーコース (管理職候補)</p> <p>自身のこれまでの実践や経験を客観的に洞察し、的確な指導・助言に生かしていける力量を教職課題研究論文としてまとめ、今後の糧にすることができる。</p> <p>(現職教員)</p> <p>自身のこれまでの実践や経験を生かしながら、「理論と実践との融合」の観点からの研究を進め、その内実を教職課題研究論文にまとめ、今後の教育実践に生かすことができる。</p> <p>◇人間教育プロフェSSIONALコース</p> <p>教職大学院での「学校における実習」等とこれまでの授業等で培った理論的な側面とのマッチングを図りながら教職課題研究論文にまとめ、教育のプロとして力強くスタートすることができる。</p>

■評価方法

研究深化力・プレゼン力等を総合的に判断（特に教職課題研究論文の内容を重視）する。
--

■使用教材

適宜、提供・配布する。

■授業で使用する言語

(日) ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名 教職課題研究Ⅱ (Fグループ)**■教員名** 大久保 敏昭 ・ 三津村 正和**■授業概要**

「教職研究論文」の作成に向けて指導する。テーマを選定し、教職大学院での研究、実習の成果を研究論文としてまとめる。各自研究テーマは異なるが、①質的調査研究方法を用いること、②教師としての実践力・授業力また人間力向上を目指すことの2点は共通する。具体的には、教職研究論文の完成に向けて、個別指導を中心に進める。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション
第2回	夏季休業中の研究活動の報告と協議① 【事前学習】研究活動の報告に備える。
第3回	夏季休業中の研究活動の報告と協議② 【事前学習】研究活動の報告に備える。
第4回	夏季休業中の研究活動の報告と協議③ 【事前学習】研究活動の報告に備える。
第5回	論文の完成・提出までの計画策定① 【事前学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第6回	論文の完成・提出までの計画策定② 【事前学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第7回	論文の完成・提出までの計画策定③ 【事前学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第8回	論文の完成・提出までの計画策定④ 【事前学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第9回	論文の完成・提出までの計画策定⑤ 【事前学習】論文の完成・提出までの計画策定に備える。
第10回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議① 【事前学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第11回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議② 【事前学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第12回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議③ 【事前学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第13回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議④ 【事前学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。
第14回	研究活動・論文作成過程の中間報告と協議⑤ 【事前学習】研究活動・論文作成過程の中間報告に備える。

第15回	まとめ 【事前学習】 一年の振り返り、まとめに備える。
-------------	---------------------------------------

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、それを活用して学校や教員に対して、中長期的な視点に立って適切な指導助言をすることができる。

(現職教員)

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、所属校等の教員に提案するなど学校組織の中で活用して貢献することができる。

◇人間教育プロフェッショナルコース

教職大学院における様々な研究内容を理論的・体系的に整理し、学校現場での自らの実践に生かすことができる。

■評価方法

- －教職課題研究論文作成の計画書
- －教職課題研究論文作成過程での中間報告
- －教職課題研究論文

■使用教材

参考書等を適宜紹介する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

教育課題実地総合研究

■科目名 **教育課題実地研究(国内)奈良**

■教員名 **石丸 憲一・渡辺 秀貴**

■授業概要

歴史と伝統を有する国内の教育先進校(奈良女子大学附属小学校)との交流を通して、同校が長年にわたって積み重ねてきた教育の事実について、授業参観・聞き取りなどを通して多角的に調査し、現代的な教育課題を探求することを目的とする。教師による授業研究が彼らの専門的力をいかに形成しているかという視点から研究する。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	・オリエンテーション(授業内容の説明・質疑、各自の課題意識を含めた自己紹介、授業進め方についての共有) 【準備学習】シラバスの確認
第2回	・奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史① 大正期から活発な教育研究が積み重ねられている同小学校の教育研究を歴史的に研究する。 【準備学習】各自の研究課題を検討しておく。
第3回	・奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史② 「奈良プラン」など戦後の教育実践を歴史的に研究する。 【準備学習】事前配布の資料等を検討しておく。
第4回	・奈良女子大学附属小学校における実践的教育研究の歴史③ 「奈良プラン」など戦後の教育実践を歴史的に研究する。 【準備学習】事前配布の資料等を検討しておく。
第5回	・同小学校における現代の実践① 授業研究体制・組織 同校の授業研究体制・組織に視点を当てて研究し、教員たちによる実践的共同研究集団の形成過程について追究する。 【準備学習】事前配布の資料等を検討しておく。
第6回	・同小学校における現代の実践②授業研究(授業記録に基づく研究) 同小学校編集の「学習研究」等を基に授業研究の内容・方法を研究する。 【準備学習】事前配布の資料等を検討しておく。
第7回	・同小学校訪問での研究計画検討 履修者の課題意識に照らして、視察研究の焦点化を図る。 【準備学習】視察研究資料等を作成しておく。
第8回	・学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む)① 同小学校を訪問し、授業を参観する。参観後、授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。 【準備学習】視察計画・資料等を検討しておく。

第9回	学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む)② 授業参観及び授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。 【準備学習】視察計画・資料等を検討しておく。
第10回	学校訪問による実地研究(授業参観、研究協議を含む)③ 授業参観及び授業研究協議に参画し、授業者と共に実践的な研究を行う。 【準備学習】視察計画・資料等を検討しておく。
第11回	学校訪問視察の研究成果を整理と相互報告① 【準備学習】視察の研究成果を整理しておく。
第12回	学校訪問視察の研究成果を整理と相互報告② 【準備学習】視察の研究成果を整理しておく。
第13回	学校訪問視察の研究成果を整理と相互報告③ 【準備学習】視察の研究成果を整理しておく。
第14回	研究集約および奈良コースの研究総括を行い、研究成果の共有を図る。 【準備学習】視察の研究成果を整理しておく。
第15回	実地研究交流報告会(国内2コース合同) 実地研究(奈良、堀川)の2コースの参加者が、各コースで研究の集約を行い、相互に報告し合うことにより、研究成果の共有と発展を図る。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

同小学校の授業研究による教師の専門的力量形成と学校づくりへの貢献について、自らの教育課題として理解し直し、教育行政及び管理職として教育経営を進める力量を身につける。

(現職教員)

同小学校の授業研究が、教師たちの専門的力量をいかに形成し、学校づくりにどう貢献してきたかを、一つの事例として理解し、同僚と共に学校づくりを進める力量を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

同小学校の授業研究が、教師たちの専門的力量をいかに形成し、学校づくりにどう貢献してきたかを、一つの事例として理解し、自らの授業を深める力を身につける。

■評価方法

授業への取り組み姿勢(関心・意欲など)、各時間の報告・協議と学びの総括の会における発表と振り返りレポート、およびプレゼンによる総合評価とする。授業への取り組み姿勢50%、現地視察での研究姿勢30%、レポートとプレゼン20%とする。

■使用教材

- ①木下竹次著・中野光編『学習原論』(世界教育学選集64)明治図書刊
 - ②奈良女子大学附属小学校学習研究会編著『確かな学習力を育てる筋道』明治図書刊
 - ③奈良女子大学附属小学校学習研究会編著「学習研究」誌、各月刊行など
- その他 資料は適宜配布する

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教育課題実地研究(国内)富山

■教員名 吉川 成司・大久保 敏昭

■授業概要

当科目は、富山市立堀川小学校で現地研究を行い、当小学校が長年にわたり研究を積み重ねている実践について、授業参観等をふまえて調査研究する。特に校内での授業記録に基づく地道な授業分析が教師たちの専門的力を形成している点に焦点を当てて研究する。実地研究のための準備としての事前研究、実地研究、そして事後の実地研究報告を通して研究を深め、発展しあえる共同研究者としての教師集団づくりへと視野を広げていく。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション ・各人の問題意識・課題意識の明確化。 ・研究プロセスの見通し(科目履修生の研究経過紹介、冊子、資料) 準備学習:シラバスを確認しておくようにしてください。
第2回	富山市立堀川小学校における実践的教育研究の歴史的な外観 準備学習:前回授業時の配付資料の学習
第3回	同校の授業研究の体制・組織と各自の研究課題 『授業の研究』、『個の学びと教育』に基づいて 準備学習:『授業の研究』、『個の学びと教育』指定箇所の学習
第4回	授業研究の基本的な構えと方法①と各自の研究課題 『個の学びと教育』に基づいて 準備学習:『個の学びと教育』指定箇所の学習
第5回	授業研究の基本的な構えと方法②と各自の研究課題 『個の学びと教育』に基づいて 準備学習:『個の学びと教育』指定箇所の学習
第6回	授業研究の発展・進化の経過①と各自の研究課題 『個の学びと教育』に基づいて 準備学習:『個の学びと教育』指定箇所の学習
第7回	授業研究の発展・進化の経過②と各自の研究課題 『個の学びと教育』に基づいて 準備学習:『個の学びと教育』指定箇所の学習
第8回	実地研究① 授業参観、研究協議に参加するなど、授業者とともに現在進行形での研究 準備学習:観察やインタビューなどの対象や方法を検討しておく
第9回	実地研究② 授業参観、研究協議に参加するなど、授業者とともに現在進行形での研究 準備学習:実地研究での観察やインタビューなどの整理

第10回	実地研究③ 授業参観、研究協議に参加するなど、授業者とともに現在進行形での研究 準備学習:実地研究での観察やインタビューなどの整理
第11回	各自の研究課題に基づく研究報告と協議① 準備学習:実地研究の成果をレポートにまとめる
第12回	各自の研究課題に基づく研究報告と協議② 交流学习におけるプレゼンテーションの準備 準備学習:実地研究の成果を各自レポートにまとめる
第13回	クラス全体としての研究成果のまとめ① 交流学习におけるプレゼンテーションの準備 準備学習:成果報告による交流学习におけるプレゼンテーション等の準備
第14回	クラス全体としての研究成果のまとめ② 交流学习におけるプレゼンテーションの準備 準備学習:成果報告による交流学习におけるプレゼンテーション等の準備
第15回	他の教育課題実地研究クラスとの成果報告による交流学习(予定) 準備学習:成果報告による交流学习におけるプレゼンテーション等の準備

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

子どもの成長を捉えるための教師の自己更新のあり方について、学校の教育経営、研究組織と研修内容の視点から省察し、中・長期的な課題解決に向けて主幹教諭等に指導することができる。

(現職教員)

実地研究を通して自己の課題解明の道筋を明確化し、新たな実践研究の視点を見いだすとともに、校内研修を推進することができる。

◇人間教育プロフェSSIONALコース

子どもが生きる授業のはたらきについて、授業記録や研究協議記録の分析を通して省察し、自身の授業実践に反映できる。

■評価方法

研究課題レポート、実地研究の成果に関するリサーチペーパー、教育課題実地研究交流報告会で行うプレゼンテーションに基づいて総合的に評価する。

■使用教材

『個の学びと教育』(2018年、明治図書)※テキストとして使用する。

『授業の研究』(1959年、明治図書)※参考資料

『子どもが自分を生きる授業 自己変革を促す校内研修』(2009年、明治図書)※参考資料

富山市立堀川小学校による出版書籍は数多くあり、適宜、参考資料を紹介する。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)

■科目名**教育課題実地研究アジア・シンガポール****■教員名****宮崎 猛 ・ 山崎 めぐみ****■授業概要**

本実地研究ではシンガポールを訪問する。シンガポールは、広く知られているように教育に多くの資源を投入し、先進的な教育を行なっていると考えられている。具体的には能力・成果主義的(メリトクラティック)な教育を取り入れることで、PISA 等の国際学力調査で上位の成果を収めるとともに、優秀な人材を輩出することで、国としての競争力を高めてきたとされている。一方で近年「有能なもの共同体」という考え方から、人間性の涵養等を含む全人的教育観に基づいたに教育にその重点が移されているとも伝えられている。

実際の授業はどのように行われているのか。生徒のモチベーションはいかなるものなのか。教師を取り巻く環境は日本と比較してどのようなになっているのか。教育における価値の変化があるとすればその背景には何があるのか。現場教師は教育のあり方をどのように考えているのか。創価教育は当地においてどのように展開しているのか。そうした問いを参加者とともに究明していきたい。

現地では公立小学校、中学校、高校、シンガポール創価幼稚園等において、実地調査および現地教員との交流、児童生徒との交流を行なう。その際、本授業参加者全員で共有するテーマとともに、各履修者が各自の課題を携えて、調査・研究することになる。

また、滞在日のうち1日は、地域調査(臨検)の方法によって、シンガポール市内の地域的特徴(歴史や地理、地形、産業・経済的側面等)を調査する(このため「教科等の指導開発・社会」を履修するとを推奨する)。

最少催行人数は大学の規定により 5 名である。希望者が多かった場合、現地の受け入れ状況によっては人数制限を行うこともある。

日程:7月初旬～中旬、1週間(予定) 費用:15万円程度(交通・宿泊)

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第2回	国際比較の意義と研究の方法 比較研究の意義、視点、手法等について理解する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第3回	シンガポールの教育制度と教育施策 シンガポールの教育制度と教育施策を理解する。 【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第4回	シンガポールの近年の教育改革動向 近年のシンガポールの教育改革の動向を理解する。

	<p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第5回	<p>教育課題実地研究の準備(1)</p> <p>履修者の研究課題を中心に、当地での交流、プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第6回	<p>教育課題実地研究の準備(2)</p> <p>履修者の研究課題を中心に、当地での交流、プレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第7回	<p>地域調査(フィールドワーク)におけるグループのテーマ、各自のテーマを設定するとともに、それに基づいた目標、計画を立案する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第8回	<p>シンガポールでの実地研究(1)</p> <p>公立高校を対象とした実地調査によって、後期中等教育ならびに教師教育の現状、方法、課題等について国際比較を通して究明する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第9回	<p>シンガポールでの実地研究(2)</p> <p>公立中学校を対象とした実地調査によって、前期中等教育ならびに教師教育の現状、方法、課題等について国際比較を通して究明する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第10回	<p>シンガポールでの実地研究(3)</p> <p>公立小学校の実地調査によって、多文化教育のあり方、いじめなどの教育課題について国際比較を通して究明する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第11回	<p>シンガポールでの実地研究(4)</p> <p>幼稚園(シンガポール創価幼稚園)の実地調査および教室実施での授業実施によって、学校間のカリキュラムの連携、幼少連携、創価教育学の理念とその具体化などを究明する。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第12、13回	<p>シンガポール市内のフィールドワーク</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて</p>

	いて考察し、大学院生に求められる準備をすること。
第14回	<p>実地研究のまとめ</p> <p>実地研究のそれぞれの参加者が、各自の研究のまとめと同一グループによる研究のまとめを相互に作成し、研究成果の共有と発展を図る。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>
第15回	<p>実地研究の成果報告・交流</p> <p>実地研究のそれぞれの参加者が、各自の研究のまとめと同一グループによる研究のまとめを相互に報告し、研究成果の共有と発展を図る。</p> <p>【準備学習】本時の授業内容に関する事項について、準備すべき事項とは何かについて考察し、大学院生に求められる準備をすること。</p>

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補者)

国際比較研究における研究的アプローチの手法を身につけるとともに、日本、シンガポールの比較等を通して、教育のあり方・本質、方法、内容について、多角的かつ本質的な視座から考察することができる力量を育成する。また、それらの成果を学校経営や教育行政等の改善に活用するための識見と力量を育成する。

(現職教員)

国際比較研究における研究的アプローチの手法を身につけるとともに、日本、シンガポールの比較等を通して、教育のあり方・本質、方法、内容について、多角的かつ本質的な視座から考察することができる力量を育成する。また、それらの成果を学校運営や授業研究、生活指導等の改善に活用するための識見と力量を育成する。

◇人間教育プロフェッショナルコース

国際比較研究における研究的アプローチの手法を身につけるとともに、日本、シンガポールの比較等を通して、教育のあり方・本質、方法、内容等について、多角的かつ本質的な視座から考察することができる力量を育成する。また、それらの成果を自らの授業実践や学級経営、生活指導等に活用するための識見と力量を育成する。

■評価方法

出席:30点(2×15) レポート・振り返り:20点、授業への参加度:20点、最終報告書・授業案 30点
S:90点以上 A:80点以上 B:70点以上 c:60点以上 D(不合格):59点以下

■使用教材

授業内に適宜指示を行う。

■授業で使用する言語

(日・英・独・仏・中・西・伊・韓・露・その他)

■科目名 教育課題実地研究(国外)中国**■教員名** 長島 明純・董 芳勝・鈴木 詞雄**■授業概要**

中国の教育実践現場の実情を知り、中国に求められている教員像と教員養成の在り方を理解する。そして、日中両国の教育現場の授業実践交流を通して、教育実践での現代的な教育課題や未来の国際化を志向する教員像を探求する。そのため、実践的に中国の教師教育をリードしている首都師範大学や、北京市の教員研修を担当している北京教育学院をはじめとする教員養成課程の院生やそこで学ぶ現職教員などと交流を行う。また、中国の学校を訪問し、授業参観や教育活動、教育対話を行う。

■授業計画・内容

回数	内容
第1回	コースオリエンテーション。今年度行う本実地研究の課題を確認。中国の教員養成制度を中心に、政治・経済・文化・風俗・習慣など概説。協議。 【準備学習】参考図書などで、本授業で学ぶ該当部分を調べ、本授業の意義を確認する。
第2回	これまでの創価大学と中国の教育諸機関との交流について概説。 【準備学習】これまでの創価大学と中国の教育機関との交流について、大学のホームページなどで調べ、本授業におく各自の目的を明確にする。
第3回	これまでの課題実地研究(中国)の成果と課題について解説し、中国で報告する日本の教育実践についての協議。 【準備学習】これまでの実地研究の報告書などを読み、これまでの中国での教育交流の経緯を知る。
第4回	中国で報告する日本の教育実践の整理。 【準備学習】中国で報告する日本の教育実践について調べ、資料収集する。
第5回	中国で報告する日本の教育実践の整理。 【準備学習】中国で報告する日本の教育実践について整理する。中国での実地研究の学びのために、役割分担や必要な機材などを準備する。
第6回	中国で報告する日本の教育実践の整理。 【準備学習】中国で報告する日本の教育実践について整理する。
第7回	中国で報告する日本の教育実践のまとめ・準備。 【準備学習】中国で報告する日本の教育実践についてまとめる。
第8回	北京教育学院などを訪問し、研究協議を行う。 【準備学習】中国での実地研究の学びを記録する。
第9回	北京市の学校を訪問し、日中の教育に関して研究交流を行う。(日中の教育実践の交流、研究協議) 【準備学習】現職教員などと交流。中国での実地研究の学びを記録する。

第10回	北京市の学校を訪問し、日中の教育に関して研究交流を行う。(日中の教育実践の交流、研究協議) 【準備学習】第9回と同じ。
第11回	中国での学校実践交流の総括。各々の課題や本コースの課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果を、相互に確認し吟味する。 【準備学習】記録した中国での実地研究の学びを整理する。
第12回	中国での学校実践交流の総括。各々の課題や本コースの課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果を、相互に確認し整理する。 【準備学習】第11回と同じ。
第13回	中国での学校実践交流の総括。各々の課題や本コースの課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果をまとめる。 【準備学習】第11回と同じ。
第14回	中国での学校実践交流の総括。各々の課題に即して、中国での実地研究から得られた学習成果を、資料としてまとめる。 【準備学習】第11回と同じ。
第15回	実地研究(国内・外)のそれぞれの参加者が、各自の研究のまとめを作成し、相互に報告し、研究成果の共有と発展を図る。 【準備学習】報告する実地研究の内容についてまとめる。

■到達目標

◇人間教育実践リーダーコース

(管理職候補)

中国の教育機関での実地研究を通して学んだ、教育問題についての国際的な広い認識を基底として、教育行政担当者および校長、副校長の立場で学校経営を進める力量を身につける。

(現職教員)

中国の教育機関での実地研究を通して学んだ、教育問題についての国際的な広い認識を基底として、同僚と共に学校づくりを進める力を身につける。

◇人間教育プロフェッショナルコース

中国の教育機関での実地研究を通して学んだ、教育問題についての国際的な広い認識を基底として、教師としての確かな実践能力を形成することができる。

■評価方法

授業の第1～7回の研究を通して各自の研究課題を把握し、研究のテーマ、内容を明確に設定できたか。また実地研究をとおして、どのような点が明らかになったかを整理し、報告できたか。また新たな研究課題を把握し、研究を進展させる見通しを立てることができたか。このような観点から、授業における報告、討論への参加状況と報告レポートなどに基づいて評価する。

■使用教材

参考書 諏訪哲郎、王智新・斉藤利彦編著『沸騰する中国の教育改革』(学習院大学東洋文化研究叢書、東方書店、2008年、3200円)※随時、教員が資料を準備したり、参考書を紹介したりもする。

■授業で使用する言語

(日 ・ 英 ・ 独 ・ 仏 ・ 中 ・ 西 ・ 伊 ・ 韓 ・ 露 ・ その他)